

Power Systems

**IBM Power System S812LC
(8335-GTB)のシステムの設置と
発注部品の取り付け**

IBM

Power Systems

**IBM Power System S812LC
(8335-GTB)のシステムの設置と
発注部品の取り付け**

IBM

— お願い —

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、 v ページの『安全上の注意』、 77 ページの『特記事項』、「*IBM Systems Safety Notices*」(G229-9054)、および「*IBM Environmental Notices and User Guide*」(Z125-5823)に記載されている情報をお読みください。

本製品およびオプションに電源コード・セットが付属する場合は、それぞれ専用のものになっていますので他の電気機器には使用しないでください。本体機器提供後に、追加で電源コード・セットが必要となった場合は、補修用の取扱いとなります。

本書は、POWER8 プロセッサーを搭載した IBM Power Systems™ サーバーおよびすべての関連モデルに適用されます。

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原典： Power Systems
Installing the System and Ordered
Parts for the IBM Power System
S812LC (8335-GTB)

発行： 日本アイ・ビー・エム株式会社

担当： トランスレーション・サービス・センター

© Copyright IBM Corporation 2016, 2017.

目次

安全上の注意	v
------------------	---

POWER8 プロセッサ・ベースのシステムとシステム・フィーチャーのインストールおよび構成	1
--	----------

IBM Power System S812LC (8335-GTB) の取り付け	1
ラック・マウント型サーバーの設置の前提条件	1
サーバー用の部品の用意	2
ラック内の位置の決定とマーク付け	2
スライド・レールを使用したシステムの設置	5
ラックへのスライド・レールの取り付け	5
スライド・レールを使用したラックへのシステムの設置	7
ケーブル・マネジメント・アームの取り付け	9
電源ケーブルの接続と位置の識別	13
固定レールを使用したシステムの設置	14
ラックへの固定レールの取り付け	14
固定レールを使用したラックへのシステムの設置と、電源ケーブルの接続	16
サーバーのセットアップの完了	18
8335-GTB システムへのドライブの取り付け	19
8335-GTB システムへのグラフィックス処理装置の取り付け	22
8335-GTB システムへの PCIe アダプターの取り付け	23
8335-GTB システムの PCIe アダプターのインストール規則とスロットの優先順位	24
8335-GTB のフィーチャー・タイプ別の PCIe アダプター情報	26
PCIe アダプターのフィーチャー・コードのリスト	27
PCIe2 LP 4 ポート 1GbE アダプター (FC 5260) (CCIN 576F)	27
PCIe3 LP 2 ポート 40 GbE NIC RoCE QSFP+ アダプター (FC EC3A; CCIN 57BD)	30
PCIe LP 8 Gb Gb 2 ポート・ファイバー・チャンネル・アダプター (FC EL2N; CCIN 577D)	34
PCIe2 LP 2 ポート 10 GbE BaseT RJ45 アダプター (FC EL3Z; CCIN 2CC4)	38
PCIe3 LP 4 ポート (10Gb+1GbE) SR+RJ45 アダプター (FC EN0T; CCIN 2CC3)	41
8335-GTB システムのシステム・バックプレーンへの PCIe アダプターの取り付け	44
8335-GTB でフィーチャーを保守または取り付ける際の共通手順	47

始める前に	47
取り替える部品を含むシステムの識別	52
8335-GTB システム上の LED	52
保守が必要な 8335-GTB の識別	54
内部部品の取り外しおよび再取り付けを行うための 8335-GTB システムの準備	55
内部部品の取り外しおよび再取り付け後の操作に備えた 8335-GTB システムの準備	58
8335-GTB の始動と停止	58
8335-GTB システムの始動	58
8335-GTB システムの停止	59
イベント・センサー状況 GUI 画面	60
8335-GTB システムでのカバーの取り外しおよび再取り付け	62
8335-GTB システムからの保守アクセス・カバーの取り外し	62
8335-GTB システムへの保守アクセス・カバーの取り付け	63
8335-GTB システムからの前面カバーの取り外し	64
8335-GTB システムへの前面カバーの取り付け	65
8335-GTB の保守位置と操作位置	65
8335-GTB システムの保守位置への設置	65
スライド・レール	65
固定レール	66
8335-GTB システムの操作位置への設置	67
スライド・レール	67
固定レール	68
8335-GTBの電源装置の取り外しおよび再取り付け	69
8335-GTB からの電源装置の取り外し	69
8335-GTB の電源装置の取り替え	70
電源コード	71
8335-GTB システムからの電源コードの切り離し	71
8335-GTB システムへの電源コードの接続	73

特記事項	77
-----------------------	-----------

IBM Power Systems サーバーのアクセシビリティ機能	78
プライバシー・ポリシーに関する考慮事項	80
商標	80
電波障害規制特記事項	80
クラス A 表示	80
クラス B 表示	85
使用条件	88

安全上の注意

安全上の注意は、このガイド全体を通じて記載されています。

- 危険の注記は、人間に致命的または極めて危険な損傷を与える可能性のある状態について注意を促します。
- 注意の注記は、何らかの状況が原因の、人間に危険な損傷を与える可能性のある状態について注意を促します。
- 重要な注記は、プログラム、装置、システム、あるいはデータに損傷を与える可能性があることを示します。

ワールド・トレードの安全上の注意

国によっては、製品資料に記載される安全上の注意を自国語で提示するよう要求しています。この要求がお客様の国に適用される場合は、製品に付属の資料パッケージ (印刷された資料または DVD で、あるいは製品の一部として) に安全上の注意についての文書が含まれます。この文書には、英語原典に準拠した、各国語による安全上の注意が記載されています。この製品の取り付け、操作、または保守のために英語の資料をご使用になる場合は、まず、関連している安全上の注意についての文書をよくお読みください。また、英語版資料の安全上の注意が明確に理解できない場合も、必ずこの文書を参照してください。

安全上の注意についての文書の差し替え版または追加のコピーについては、IBM ホットライン (1-800-300-8751) に連絡して入手することができます。

レーザーに関する安全上の注意

IBM® サーバーは、レーザーまたは LED を使用する、光ファイバー・ベースの I/O カードまたはファイチャーを使用することができます。

レーザーに関する準拠

IBM サーバーは、IT 装置ラックの内部または外部に取り付けることができます。

危険: システムまたはその周辺で作業をする場合は、以下の予防措置を確認してください。

電源ケーブルや電話線、通信ケーブルからの電圧および電流は危険です。感電を防ぐために次の事項を守ってください。

- IBM から電源コードが供給されている場合は、その電源コードのみを使用して当装置を電源に接続します。IBM から供給された電源コードは、他の製品には使用しないでください。
- 電源装置アセンブリーを開いたり、保守しないでください。
- 雷雨の間はケーブルの接続や切り離し、または本製品の設置、保守、再構成を行わないでください。
- この製品は複数の電源コードを備えていることがあります。危険な電圧をすべて除去するには、すべての電源コードを取り外してください。
 - AC 電源では、すべての電源コードをそれぞれの AC 給電部から切り離します。
 - DC 電力配分パネル (PDP) 付きのラックでは、PDP へのお客様の DC 電源を切断してください。
- 製品に電源を接続する際には、すべての電源ケーブルが適切に接続されていることを確認します。
 - AC 電源付きのラックでは、すべての電源コードを正しく配線され接地されたコンセントに接続します。電源コンセントから供給される電圧と相回転がシステムの定格銘板に従っていることを確認します。

- DC 電力配分パネル (PDP) 付きのラックでは、お客様の DC 電源を PDP へ接続します。DC 電源および DC 電源帰線を接続する際に、必ず、適切な極性を使用されていることを確認してください。
- ご使用の製品に接続するすべての装置を、正しく配線されたコンセントに接続してください。
- シグナル・ケーブルの接続または切り離しは可能なかぎり片手で行ってください。
- 火災、水害、または建物に構造的損傷の形跡が見られる場合は、どの装置の電源もオンにしないでください。
- 考えられる危険な状態がすべて修正されるまで、マシンへの電力をオンに切り替えようとししないでください。
- 電気に関する安全上の問題が存在することを前提としてください。サブシステムの取り付け手順時に指定された導通、接地、および電源のチェックをすべて実行して、そのマシンが安全要件を満たしていることを確認してください。
- なんらかの危険な状態が存在する場合は、検査を続行しないでください。
- 装置のカバーを開ける前に、取り付けおよび構成の手順で別途指示されている場合を除き、接続されている AC 電源コードを切り離し、ラック電力配分パネル (PDP) 内の該当する回路ブレーカーの電源をオフにして、すべての通信システム、ネットワーク、およびモデムを切り離します。

危険:

- ご使用の製品または接続されたデバイスの取り付け、移動、またはカバーの取り外しを行う場合には、次の手順に従ってケーブルの接続および取り外しを行ってください。

ケーブルの切り離し手順:

1. すべての電源をオフにします (別に指示される場合を除く)。
2. AC 電源では、コンセントから電源コードを取り外します。
3. DC 電力配分パネル (PDP) 付きのラックでは、PDP 内の回路ブレーカーの電源をオフにして、お客様の DC 電源から電力を除去します。
4. シグナル・ケーブルをコネクタから取り外します。
5. すべてのケーブルをデバイスから取り外します。

ケーブルの接続手順:

1. すべての電源をオフにします (別に指示される場合を除く)。
2. すべてのケーブルをデバイスに接続します。
3. シグナル・ケーブルをコネクタに接続します。
4. AC 電源では、電源コードをコンセントに接続します。
5. DC 電力配分パネル (PDP) 付きのラックでは、お客様の DC 電源からの電力を回復し、PDP 内の回路ブレーカーの電源をオンにします。
6. デバイスの電源をオンにします。

鋭利な先端の部品やジョイントがシステムの中や周囲に存在している可能性があります。機器を取り扱う際には、指を切ったり、こすったり、挟んだりしないように注意してください。(D005)

(R001 パート 2 の 1):

危険: IT ラック・システムやその周辺で作業をする場合は、以下の予防措置を確認してください。

- 重量のある装置の場合、取り扱いを誤ると身体傷害または設備の損傷を引き起こす可能性があります。
- ラック・キャビネットのレベル・パッドは必ず下げてください。
- ラック・キャビネットには必ずスタビライザー・ブラケットを取り付けてください。
- 釣り合いがとれていない機械的荷重による危険な状態を避けるため、最も重いデバイスを常に、ラック・キャビネットの下部に取り付けます。必ず、サーバーおよびオプション・デバイスはラック・キャビネットの下部側から取り付けてください。

- ラック・マウント型デバイスを棚やワークスペースとして使用しないでください。 ラックに搭載された装置の上にものを載せないでください。 また、ラックに取り付けられた装置に寄りかかったり、身体を安定させるため (はしごから作業を行うときなど) にそれらの装置を使用したりしないでください。



- 各ラック・キャビネットには複数の電源コードが付属していることがあります。
 - AC 電源付きのラックでは、保守作業中に電源を切り離す指示がある場合は、ラック・キャビネット内のすべての電源コードを必ず取り外してください。
 - DC 電力配分パネル (PDP) 付きのラックでは、保守作業中に電源を切断するよう指示された場合、システム装置 (単数または複数) への電力を制御する回路ブレーカーをオフにするか、またはお客様の DC 電源を切断してください。
- ラック・キャビネット内のすべてのデバイスは、同一ラック・キャビネットに取り付けられている電源デバイスに接続します。 あるラック・キャビネットに取り付けられているデバイスの電源コードを、別のラック・キャビネットにある電源デバイスに接続しないでください。
- 正しく配線されていない電源コンセントは、システムまたはシステムに接続されたデバイスの金属部品に危険な電圧をかける可能性があります。 感電を避けるためにコンセントが正しく配線および接地されていることの確認は、お客様の責任で行ってください。

(R001 パート 2 の 2):

注意:

- ラック内部の温度が、すべてのラック・マウント型デバイスに対する製造者推奨の周辺温度を超えるようなラック内には、装置を取り付けしないでください。
- 空気の流れが妨げられているラック内には、装置を取り付けしないでください。 装置内で空気の流れのために使用される装置のいずれかの側面、前面、または背面で、空気の流れが妨げられたり減速されたりしないようにしてください。
- 回路の過負荷によって電源配線や過電流保護が破損しないように、電源回路への機器の接続には十分注意してください。 ラックに正しく電源を接続するには、ラック内の機器の定格ラベルで、電源回路の総消費電力を確認してください。
- (引き出し式ドロワーの場合。) ラック・スタビライザー・ブラケットがラックに取り付けられていない場合は、ドロワーまたはフィーチャーを引き出したり、取り付けたりしないでください。 一度に複数のドロワーを引き出さないでください。 一度に複数のドロワーを引き出すと、ラックが不安定になる可能性があります。



- (固定式ドロワーの場合。) このドロワーは固定ドロワーなので、製造元の指定がない限り、保守のために動かさないでください。 ラックからドロワーの一部または全部を引き出そうとすると、ラックが不安定になったり、ドロワーがラックから落下する可能性があります。

注意:

ラック・キャビネット内の上の方の位置からコンポーネントを取り外すと、再配置中のラックの安定性が改善されます。 格納されたラック・キャビネットを部屋または建物内で再配置するときは必ず、以下の一般ガイドラインに従ってください。

- ラック・キャビネットの上部から順に装置を取り外すことにより、ラック・キャビネットの重量を減らします。 可能な場合は、ラック・キャビネットを納品時のラック・キャビネットの構成に復元します。 この構成がわからない場合は、以下の手順を実行する必要があります。
 - **32U 位置 (コンプライアンス ID RACK-001) または 22U (コンプライアンス ID RR001) 以上にあるすべてのデバイスを取り外します。**
 - 最も重いデバイスがラック・キャビネットの下部に取り付けられていることを確認します。
 - ラック・キャビネット内で **32U (コンプライアンス ID RACK-001) または 22U (コンプライアンス ID RR001)** のレベルより下に取り付けられたデバイス間に空の **U レベル** がほとんどないことを確認します。
- 再配置しているラック・キャビネットが、一組のラック・キャビネットの一部である場合は、そのスイートからラック・キャビネットを切り離します。
- 再配置するラック・キャビネットに取り外し可能なアウトリガーが取り付けられている場合は、アウトリガーを再配置してから、キャビネットを再配置する必要があります。
- 通る予定の経路を検査して、障害になる可能性があるものを取り除きます。
- 選択する経路が、搭載されたラック・キャビネットの重量を支えることができるか検査します。 搭載されたラック・キャビネットの重量については、ラック・キャビネットに付属の資料を参照してください。
- すべてのドアの開口部が少なくとも **760 x 230 mm** 以上であることを確認します。
- すべてのデバイス、シェルフ、ドロワー、ドア、およびケーブルが安定していることを確認します。
- **4** つのレベル・パッドが最も高い位置に上がっていることを確認します。
- 移動時にスタビライザー・ブラケットがラック・キャビネットに取り付けられていないことを確認します。
- 傾斜が **10** 度を超えるスロープは使用しないでください。
- ラック・キャビネットが新しい場所に置かれたら、次の手順を実行します。
 - **4** つのレベル・パッドを下げます。
 - スタビライザー・ブラケットをラック・キャビネットに取り付けます。
 - ラック・キャビネットからデバイスを取り外してあった場合は、ラック・キャビネットの最も低い位置から最も高い位置へと格納していきます。
- 長距離の移動が必要な場合は、ラック・キャビネットを納品時のラック・キャビネットの構成に復元します。 ラック・キャビネットを元の梱包材、またはそれと同等のもので梱包します。 また、レベル・パッドを下げて、キャスターをパレットから離れるように持ち上げ、ラック・キャビネットをパレットにボルトで止めます。

(R002)

(L001)



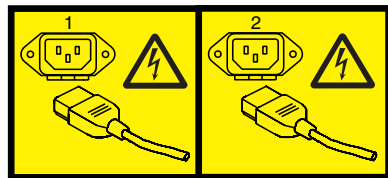
危険: このラベルが貼られているコンポーネントの内部には、危険な電圧、強い電流が流れています。このラベルが付いているカバーまたはバリアは開けないでください。(L001)

(L002)

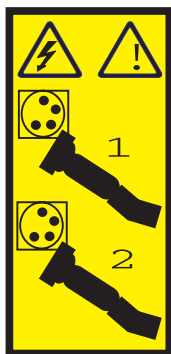


危険: ラック・マウント型デバイスを棚やワークスペースとして使用しないでください。(L002)

(L003)



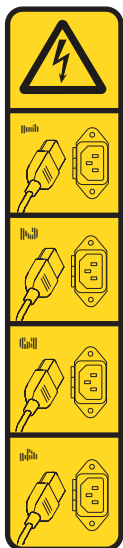
または



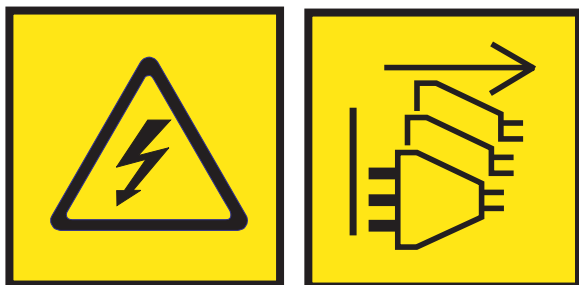
または



または



または



危険: 複数の電源コード。この製品は複数の AC 電源コードや複数の DC 電源ケーブルを備えていることがあります。危険な電圧をすべて除去するために、すべての電源コードと電源ケーブルを切り離してください。(L003)

(L007)



注意: 近くに高温になる部品が存在します。(L007)

(L008)



注意: 近くに危険な可動部品があります。(L008)

すべてのレーザーは、クラス 1 のレーザー製品について規定している米国の保健社会福祉省連邦規則 21 副章 J (DHHS 21 CFR Subchapter J) の要件に準拠していることが認証されています。米国以外の国では、レーザーは、クラス 1 レーザー製品として IEC 60825 に準拠していることが認証されています。レーザー認証番号および承認情報については、各部品のラベルをご覧ください。

注意:

この製品には、クラス 1 のレーザー製品である **CD-ROM** ドライブ、**DVD-ROM** ドライブ、**DVD-RAM** ドライブ、またはレーザー・モジュールの各デバイスのうち 1 つ以上が含まれていることがあります。次の情報に注意してください。

- カバーを外さないこと。カバーを取り外すと有害なレーザー光を浴びることがあります。この装置の内
部には保守が可能な部品はありません。
- 本書に記述されている以外の手順、制御または調節を行うと有害な光線を浴びることがあります。

(C026)

注意:

データ処理環境には、クラス 1 のパワー・レベルより高いレベルで作動するレーザー・モジュールを備えるシステム・リンク上で伝送する装置が含まれることがあります。この理由から、光ファイバー・ケーブルの先端、またはコンセントの差込口を覗き込まないでください。光ファイバーの導通を確認するために、切断された光ファイバーの一方の端に明るい光を入れ、もう一方の端を覗き込んでも目に損傷を与えない可能性はありますが、このやり方は潜在的に危険です。そのため、一方の端に明るい光を入れ、もう一方の端を覗き込んで光ファイバーの導通を確認することはお勧めしません。光ファイバー・ケーブルの導通を検査するには、光学式光源および電力メーターを使用してください。(C027)

注意:

この製品には、クラス **1M** のレーザーが含まれています。光学装置を用いて直接見ないでください。

(C028)

注意:

一部のレーザー製品には、クラス **3A** またはクラス **3B** のレーザー・ダイオードが組み込まれています。次の点に注意してください。カバーを開くとレーザー光線の照射があります。光線を見つめたり、光学装置を用いて直接見たり、光線を直接浴びることは避けてください。(C030)

注意:

このバッテリーにはリチウムが含まれています。爆発することがありますので、バッテリーを火中に入れたり、充電したりしないでください。

次の行為は絶対にしないでください。

- ____ 水に投げ込む、あるいは浸す
- ____ 100°C (華氏 212 度) を超える過熱
- ____ 修理または分解

IBM 承認の部品のみと交換してください。バッテリーのリサイクルまたは廃棄については、地方自治体の条例に従ってください。米国では、**IBM** がこのバッテリーの回収プロセスを設けています。詳しくは、**1-800-426-4333** にお問い合わせください。お問い合わせの前に、このバッテリー・ユニットの **IBM** 部品番号をご用意ください。 (C003)

注意:

IBM 提供のベンダー・リフト・ツールに関する注意:

- リフト・ツールの作業は、許可された担当者のみが行ってください。
- リフト・ツールは、ラックの高い位置での装置 (荷物) の補助、引き上げ、取り付け、取り外しに使用するためのものです。これは、装置を装着して大きなスロープを移送するために使用したり、パレット・ジャック、ウォーカー、フォーク・トラックなどの指定ツールや関連の再配置実施の代替として使用したりするためのものではありません。このような作業を実行できない場合は、特別な訓練を受けた担当員またはサービスを使用する必要があります (例えば、整備業者や運送業者など)。
- リフト・ツールを使用する前に、作業用者の資料を読んで完全に理解してください。よく読んで理解し、安全の規則に従い、手順に従って作業しないと、資産が損傷したり、作業者が負傷したりする可能性があります。質問がある場合は、ベンダーのサービスおよびサポートにお問い合わせください。ご使用の地域用の紙の資料は、マシンの近くの保管場所に保存しておく必要があります。最新リビジョンの資料は、ベンダーの **Web** サイトから入手可能です。
- 使用前には、毎回スタビライザーのブレーキ機能をテストして確認してください。スタビライザーのブレーキを固定した状態で、過剰な力でリフト・ツールを動かしたり回転させたりしてはなりません。
- わずかな位置決めを除き、プラットフォームが上がっている状態でリフト・ツールを移動させてはなりません。
- 定められた積載能力を超えてはなりません。引き伸ばされたプラットフォームの中央と端における最大積載量については、積載能力チャートを参照してください。
- 積載量が増加するのは、プラットフォームの中央に適切に配置されている場合のみです。スライドさせたプラットフォームの柵の端には、**91 kg** を超える装置を置いてはなりません。また、装置の重心も考慮する必要があります。
- プラットフォーム傾斜ライザー・アクセサリ・オプションの隅に荷重をかけないでください。使用する前に、プラットフォーム・ライザー傾斜オプションは、提供されたハードウェアのみを使用して、メインの柵の **4 (4x)** カ所すべてに固定してください。積載オブジェクトは、大きな力を加えなくてもプラットフォーム上で簡単にスライドするように設計されているため、押したり寄り掛かったりしないように注意してください。ライザー傾斜オプションは、最終的な微調整 (必要な場合) を除き、常に平行な状態を維持してください。
- 突き出した積載の下には立たないでください。
- 表面に段差がある場所や傾斜 (大きなスロープ) では使用しないでください。
- 装置を積み重ねないでください。
- 薬物やアルコールの影響がある状態で操作を行ってはなりません。
- リフト・ツールに対して踏み台で支えてはなりません。
- 倒れる危険があります。プラットフォームが上がった状態で装置を押したり寄り掛かったりしてはなりません。
- 人を持ち上げるためのプラットフォームや階段として使用してはなりません。人を乗せるためのものではありません。
- リフトのどの部分にも立ってはなりません。階段ではありません。
- マストに登ってはなりません。
- 損傷あるいは誤動作しているリフト・ツール・マシンを操作してはなりません。
- プラットフォームの下には、押し潰されたり挟まったりする危険な場所があります。装置を下ろす場合は、必ず人や障害物がない場所で行ってください。作業中は、手足に十分に注意してください。
- フォークではありません。パレット・トラック、ジャック、あるいはフォーク・リフトを使用して、むき出しのリフト・ツール・マシンを持ち上げたり移動したりしてはなりません。
- マストはプラットフォームより高い位置まで伸びます。天井の高さ、ケーブル・トレイ、スプリングラー、電灯、およびその他の頭上にある物に注意してください。
- 装置を上げた状態でリフト・ツール・マシンから離れないでください。
- 装置が動作しているときは、手、指、衣類に十分に注意してください。

- ウィンチは、手の力のみで回転させてください。ウィンチ・ハンドルを片手で回すのが困難である場合は、荷重が大きすぎる可能性が高いです。プラットフォーム・トラベルの最上部または最下部を超えてウィンチを回さないでください。過度に巻き戻すと、ハンドルが外れてケーブルが損傷します。下げたり巻き戻したりする場合は、常にハンドルを保持してください。ウィンチ・ハンドルを離す前に、ウィンチが装置を保持していることを必ず確認してください。
- ウィンチの事故は、重傷の原因となる可能性があります。人を動かすためのものではありません。装置を引き上げる際には、クリック音が聞こえることを確認してください。ハンドルを離す前に、ウィンチが所定の位置にロックされていることを確認してください。このウィンチで作業する前に、手順を示すページをお読みください。絶対にウィンチが勝手に巻き戻ることがないようにしてください。ウィンチが勝手に回転すると、ケーブルが不規則にウィンチ・ドラムの周囲に巻かれたり、ケーブルが損傷したり、重傷の原因となる可能性があります。(C048)

NEBS (Network Equipment-Building System) GR-1089-CORE の電源および配線の情報

以下のコメントは、NEBS (Network Equipment-Building System) GR-1089-CORE 準拠として指定された IBM サーバーに適用されます。

装置は、以下での設置に適しています。

- ネットワーク通信設備
- NEC (National Electrical Code) が適用される場所

この装置のイントラビルディング・ポートは、イントラビルディングまたは屋外に露出していない配線またはケーブル接続にのみ適しています。この装置のイントラビルディング・ポートを OSP (屋外施設) やその配線に接続されているインターフェースの金属部と接続しないでください。これらのインターフェースは、イントラビルディング・インターフェース (GR-1089-CORE 記載のタイプ 2 ポートまたはタイプ 4 ポート) としてのみ使用するよう設計されており、屋外に露出した OSP 配線とは分離する必要があります。1 次保護装置を追加しても、これらのインターフェースと OSP 配線の金属部の接続を十分に保護することはできません。

注: すべてのイーサネット・ケーブルは、シールドされ、両端が接地されている必要があります。

AC 電源システムに、外部サージ保護装置 (SPD) を使用する必要はありません。

DC 電源システムは、分離 DC 帰還 (DC-I) 設計を採用しています。DC バッテリー帰還端子をシャーシまたはフレーム・アースに接続しないでください。

DC 電源システムは、GR-1089-CORE に記載されているとおり、Common Bonding Network (CBN (共通ボンディング・ネットワーク)) に設置されることを意図したものです。

POWER8 プロセッサ・ベースのシステムとシステム・フィーチャーのインストールおよび構成

ここでは、POWER8® プロセッサ・ベースのシステムのインストールと構成、およびお客様インストール可能ハードウェア・フィーチャーの取り付けについて説明します。また、メモリー・モジュールやファンなど、お客様交換可能ハードウェア・フィーチャーの取り外しおよび再取り付けの手順についても説明します。

フィーチャーを取り付ける前に、そのフィーチャーをサポートするために必要なソフトウェアがシステムにインストールされていることを確認してください。ソフトウェア前提条件については、IBM Prerequisite Web サイト (http://www-912.ibm.com/e_dir/eServerPrereq.nsf) を参照してください。必要なソフトウェアがインストールされていない場合は、Fix Central Web サイト (<http://www.ibm.com/support/fixcentral/>) にアクセスして目的のソフトウェアをダウンロードし、それをインストールしてから作業を続行します。

これらのフィーチャーの取り付けはお客様が行う作業です。この作業は、お客様自身で行うこともできますが、サービス・プロバイダーに依頼することもできます。この作業に関して、サービス・プロバイダーがお客様に費用を請求させていただく場合があります。International Information Bulletin for Customers - Installation of IBM Machines (資料番号: SC27-6601-00) を参照してください。この資料は、IBM Publications Center (<http://www-05.ibm.com/e-business/linkweb/publications/servlet/pbi.wss>) で入手可能です。この社内報には、IBM の主なシステム・インストール活動および請求対象となる可能性のある活動のリストが記載されています。

IBM Power System S812LC (8335-GTB) の取り付け

サーバーの設置、ケーブル接続、およびセットアップの方法を説明します。

ラック・マウント型サーバーの設置の前提条件

ここでは、サーバーの設置に必要な前提条件を説明します。

このタスクについて

サーバーを設置する前に、以下の資料を読むことが必要な場合があります。

- この資料の最新版は、オンラインで保守されています。IBM Power® System S812LC (8335-GTB)の設置 (http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER8/p8eik/p8eik_install_kickoff.htm)を参照してください。
- サーバーの設置を計画するには、システムの計画 (http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER8/p8had/p8had_8xx_kickoff.htm)を参照してください。

手順

設置を開始する前に、次の品目が揃っていることを確認してください。

- プラス・ドライバー
- マイナス・ドライバー
- カッター・ナイフ

- 静電気放電 (ESD) リスト・ストラップ
- 2 EIA (米国電子工業会) 単位 (2U) のスペースを備えたラック

注: ラックをまだ設置していない場合は、ラックを設置します。手順については、ラックおよびラック・フイーチャー (http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER8/p8hbf/p8hbf_8xx_kickoff.htm) を参照してください。

サーバー用の部品の用意

以下の情報を使用して、ご使用のサーバー用の部品を用意します。

手順

1. 注文したすべてのボックスを受け取ったことを確認します。
2. 必要に応じて、サーバー・コンポーネントを取り出します。
3. 各サーバー・コンポーネントを取り付ける前に、以下のステップに従って、部品が揃っていることを確認します。
 - a. サーバーのインベントリー・リストを見つけます。
 - b. 注文したすべての部品を受け取ったことを確認します。

注: 注文情報は、製品に付属しています。営業担当員または IBM ビジネス・パートナーからも注文情報を入手できます。

部品が間違っていたり、欠落または損傷があった場合は、以下のいずれかに連絡してください。

- お客様の IBM 販売店。
- IBM Rochester manufacturing automated information line: 1-800-300-8751 (米国のみ)。
- Directory of worldwide contacts Web サイト (<http://www.ibm.com/planetwide>)。地域を選択して、サービスおよびサポート窓口の情報を表示してください。

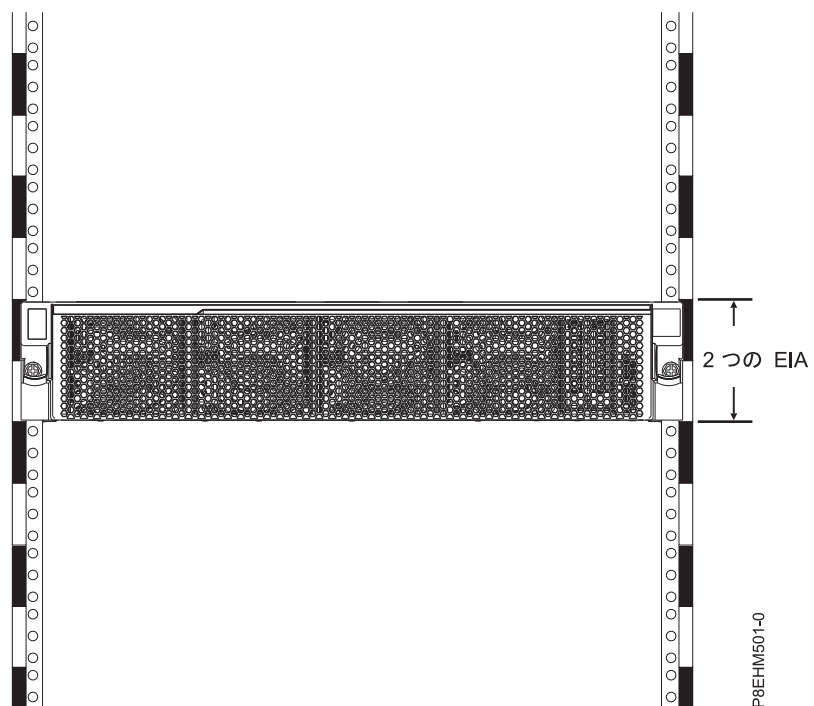
ラック内の位置の決定とマーク付け

システム装置をラックに取り付ける場所を決定することが必要になる場合があります。

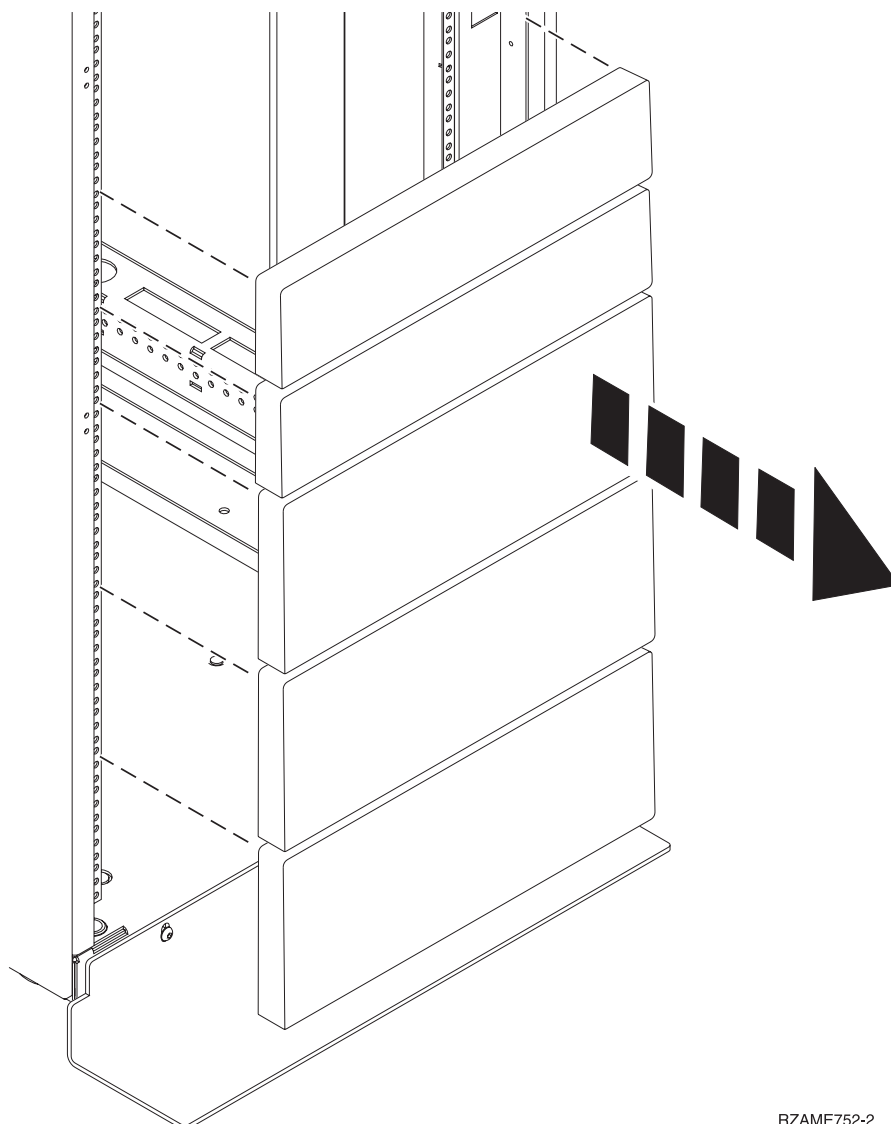
手順

1. ラックの安全上の注意 (<http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER8/p8hbf/racksafety.htm>) をお読みください。
2. システム装置をラック内のどこに取り付けるかを決定します。システム装置をラック内に取り付けるための計画を立てる際に、以下の情報について検討してください。
 - 大きくて重いシステム装置を、ラックの下段に設置します。
 - 装置を、最初にラックの下段に設置するよう計画します。
 - 計画に EIA (Electronic Industries Alliance (米国電子工業会)) の位置を記録します。

注: サーバーは 2 EIA 単位の高さです。1 EIA 単位は、44.55 mm (1.75 インチ) の高さです。ラックには、1 EIA 単位の高さにつき 3 つの取り付け穴があります。したがって、このシステム装置は高さが 89 mm (3.5 インチ) で、ラック内の 6 個の取り付け穴を使用します。



3. 必要であれば、装置を配置する計画のラック・エンクロージャーの内側にアクセスできるよう、フィルター・パネルを取り外します。 4 ページの図 1



RZAME752-2

図 1. フィラー・パネルの取り外し

4. システムを取り付けラック内のどこに取り付けるかを決定します。EIA 位置を記録します。
5. ラックの前面に向かって右側から作業を行い、各 EIA 単位の下段の穴にテープ、マーカ、または鉛筆を使用してマークを付けます。
6. ラック左側の対応する穴に対してもステップ 5 を繰り返します。
7. ラックの背面に移動します。
8. ラックの右側で、ラックの前面でマークを付けた最下部 EIA 単位に対応する EIA 単位を見つけます。
9. 最下段の EIA 単位にマークを付けます。
10. ラックの左側にある対応する穴にマークを付けます。

スライド・レールを使用したシステムの設置

スライド・レール・オプション付きでシステムをオーダーした場合は、これらの手順を使用して、システムをラックに設置してください。

ラックへのスライド・レールの取り付け

取り付け用ハードウェアをラックに取り付ける必要がある場合があります。 この作業を実行するには、次の手順を使用します。以下の情報は、安全性および信頼性の高い運用を促進することを目的としています。また、以下の情報では関連ハードウェア・コンポーネントの図も記載されており、それらのコンポーネント間の相互関係が示されています。

このタスクについて

重要: レールに不具合が生じたり、ご自身とシステム装置に危険が生じるのを避けるために、ご使用のラック用の適切なレールと取り付け具を使用していることを確認してください。 ご使用のラックに支持フランジ用の四角い穴または支持フランジ用のねじ穴がある場合、レールと取り付け具が、ラックで使われている支持フランジ用の穴に一致することを確認してください。 一致しないハードウェアをワッシャーまたはスペーサーを使用して取り付けしないでください。 ご使用のラックに適合したレールと取り付け具が装備されていない場合は、お客様の IBM 販売店にお問い合わせください。

手順

1. それぞれのスライド・レールには、前面から見て、R (右) または L(左) とマークが付けられています。左のスライド・レールを選んでラックの前面に置き、前もってマークしてある、選択済みの EIA 単位を見つけます。
2. レール (3) の後部からねじを取り外します。前面のロックング・タブ (1) を押し上げて、レールの前部にある前面ラッチ (2) を引き出します。 詳しくは、図 2 を参照してください。

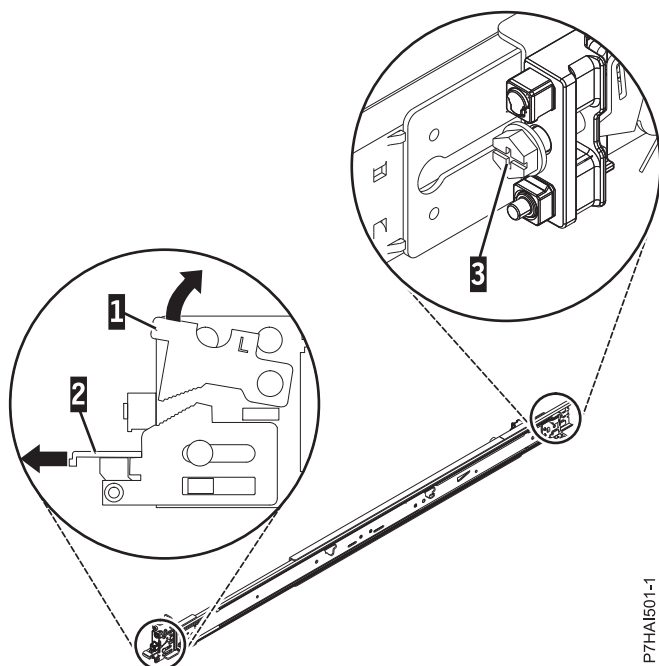


図 2. 前部ラッチを開いて後部のねじを取り外す

3. ラックの前面で、レール前部の 3 本のピンを、事前にマークを付けた、選択済みの EIA 単位の穴に挿入します。スライド・レールを下方に下げて **(1)**、中央のピンのフック機構を噛み合わせます。詳しくは、図 3 を参照してください。

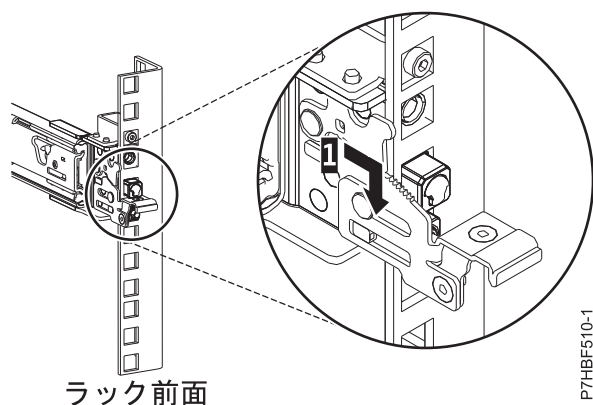


図 3. ラックの前面レールに取り付けられているピン

4. スライド・レールを前方に引きながら、3 つのピンがラックの穴から突出していることを確認した後に前面ラッチ **(2)** を最後まで押し込みます。詳しくは、図 4 を参照してください。

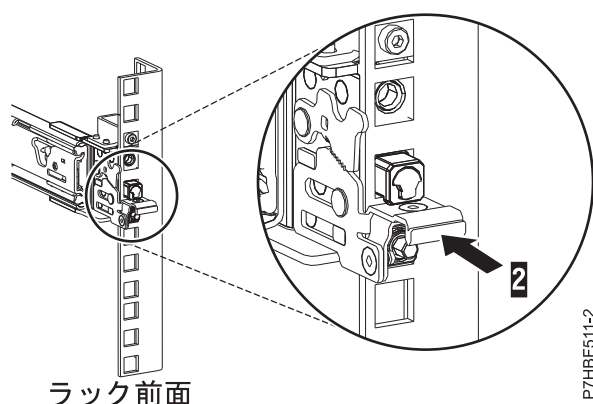


図 4. ラックの前面レールに取り付けられているラッチ

注: レールの位置変更が必要な場合は、前面ラッチ **(2)** を解放して、下部の青色のピンを押しながらレールをラックの後方に押してラックから解放してください。

5. 右のレールに対して、ステップ 3 およびステップ 4 を繰り返します。
6. ラックの背面に移動します。左のレールに対して作業を行います。スライド・レールの後部にある 2 つのピンの位置を、事前にマークを付けた、選択済みの EIA 単位の上下 2 つの穴に合わせます。スライド・レールを手前に引いて、2 つのピンをラックの穴に挿入し **(1)**、スライド・レールを下方に下げて **(2)** 上部のピンのフック機構を噛み合わせます。ねじ **(3)** を取り付けて、スライド・レールをラックに固定します。詳しくは、7 ページの図 5 を参照してください。次のステップに進む前に、2 本のピンがラックの穴から出ていることを確認してください。

注: スライド・レールの固定ピンは、丸穴もしくは角穴のラック・モデルに対応します。

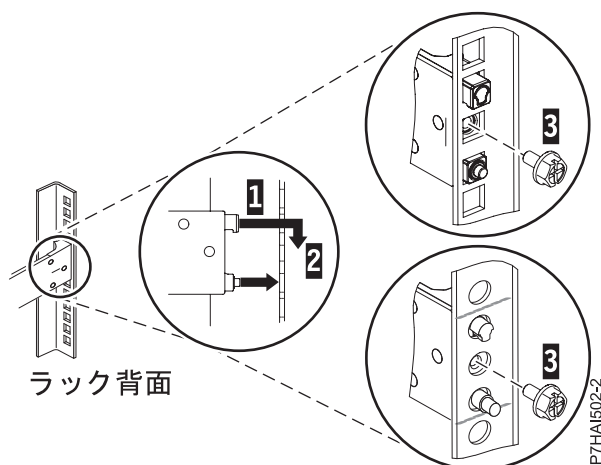


図 5. ピンをラック背面の穴に位置合わせして固定する

7. ステップ 6 (6 ページ) を繰り返して、右のレールをラックに取り付けます。

スライド・レールを使用したラックへのシステムの設置

スライド・レールを使用したラックへのシステムの設置方法を説明します。

このタスクについて

注: このシステムをラックに設置するには、2 人必要です。

手順

1. システム背面および前面に配送カバーがあれば、取り外します。
2. 2 回カチッと音がする位置までスライド・レールを前方に **(1)** 引き出します。サーバーを慎重に持ち上げたら、スライド・レールの上でサーバーを傾けて位置合わせし、サーバー背面のくぎの頭 **(2)** がスライド・レールの後部スロット **(3)** と揃うようにします。後部のくぎの頭が 2 つの後部スロットに入るまでサーバーをスライドさせます。次に、残りのくぎの頭がスライド・レールの他のスロットに収まるまで、サーバーの前部 **(4)** をゆっくりと下ろします。前面ラッチ **(5)** が、くぎの頭の上をスライドすることを確認します。

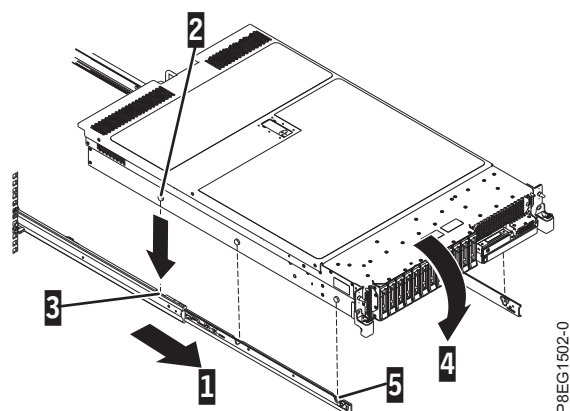


図 6. スライド・レールの延長、およびサーバーのくぎの頭とレールのスロットとの位置合わせ

3. スライド・レールにある青色のリリース・ラッチ (1) を引き上げ、サーバー (2) を所定の位置に収まるまでラックの中に押し込みます。詳しくは、図 7 を参照してください。

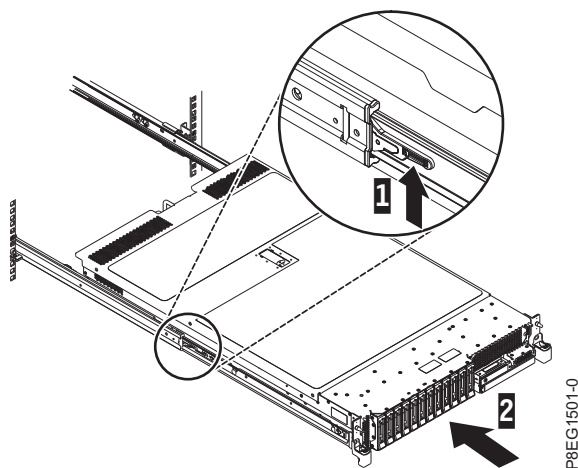


図 7. リリース・ラッチの持ち上げと、ラックへのサーバーの押し込み

4. システムの両側にねじを取り付けて、システムをラックに固定します。
5. 前面カバーを、システムの前面に取り付けます。

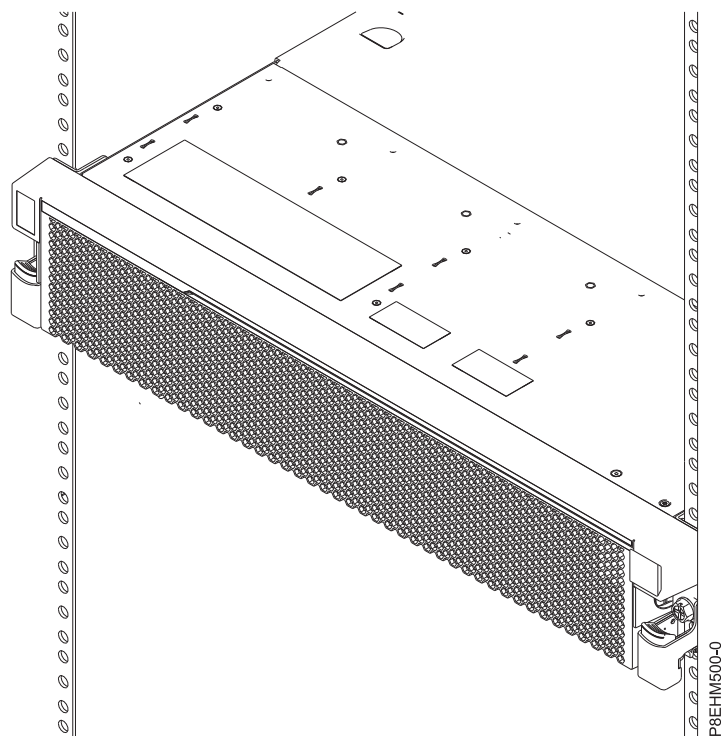


図 8. ラックに設置されたサーバー

ケーブル・マネジメント・アームの取り付け

システムの背面に適切にアクセスできるように効率的にケーブルを配線するために、ケーブル・マネジメント・アームが使用されます。ケーブル・マネジメント・アームを取り付けた後で、電源ケーブルを接続して配線します。

このタスクについて

注: この時点で複数のシステムを取り付ける場合は、他のシステムをラックに取り付けた後にケーブル・マネジメント・アームを取り付けます。

手順

1. 以下の部品が揃っていることを確認します。 図 9 を参照してください。

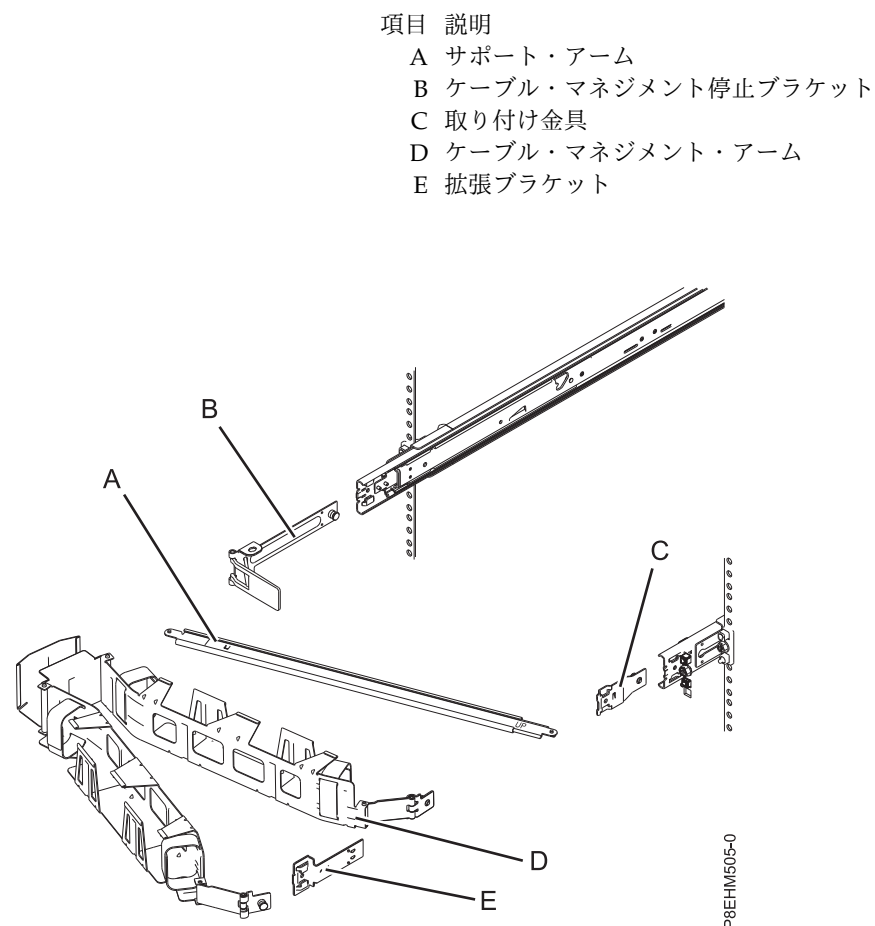


図 9. 組み立て前のケーブル・マネジメント・アームの部品の相対位置

2. サポート・アームの一方の端 (A) を、右側のスライド・レール (1) に接続し、サポート・アームのもう一方の端がラックの左側 (2) に向かって動けるようにします。 10 ページの図 10を参照してください。

注: サポート・アーム (A) には、「UP」および「DOWN」のラベルが貼ってあります。「UP」というラベルのある側が上になっていて、右に向くようにします。

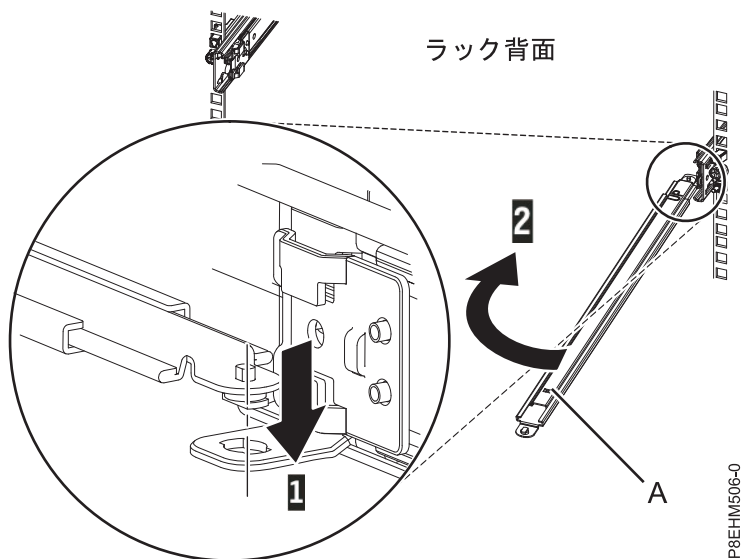


図 10. サポート・アームの接続

3. L 字型のケーブル・マネジメント停止ブラケット (B) の下部内側の隅にある穴を見つけます。サポート・アーム先端の下面にあるロック用タブがブラケットの穴の位置に合うように、サポート・アームの接続されていない端の位置を合わせます。タブを穴 **(1)** に挿し込み、ブラケット **(2)** を回して、サポート・アームに固定します。詳しくは、図 11 を参照してください。

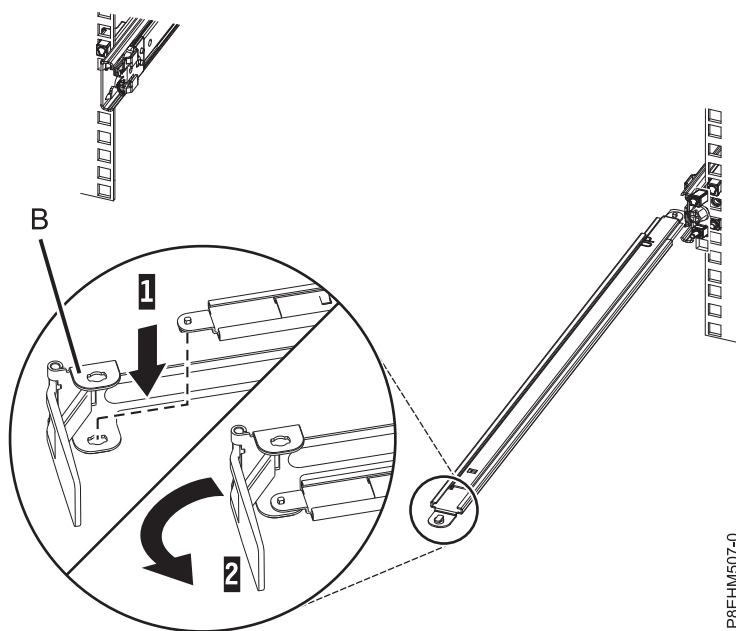


図 11. サポート・アームへのケーブル・マネジメント停止ブラケットの固定

4. ケーブル・マネジメント停止ブラケット (B) を右側スライドの内側のスロットに取り付けます。停止ブラケット (B) をスライド・レールに滑り込ませ、バネ式のピンが所定の位置に収まるまでスライドさせます。

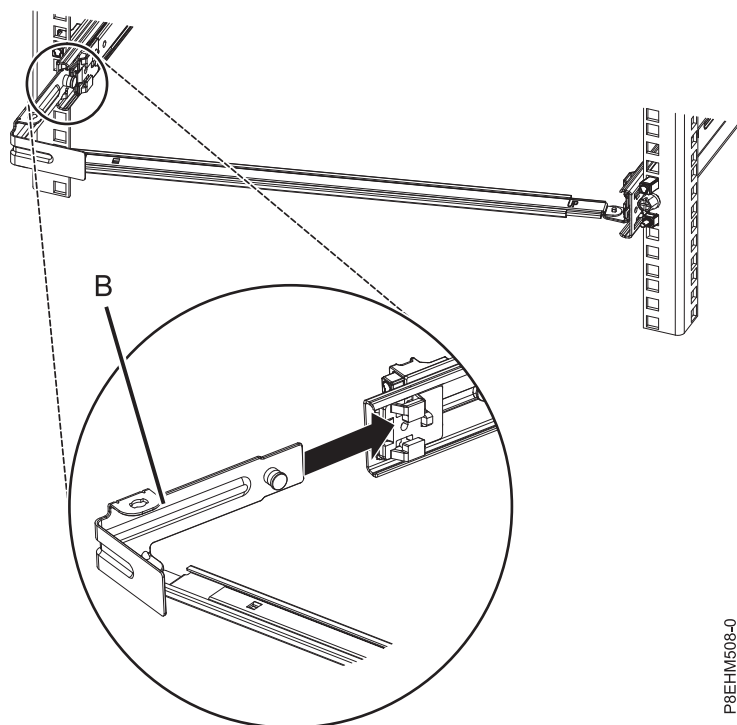


図 12. 取り付け金具をスライド・レールに取り付ける

5. バネ仕掛けのピンが所定の位置に収まるまで拡張ブラケット (E) を右スライド・レールに滑り込ませます。詳しくは、図 13 を参照してください。

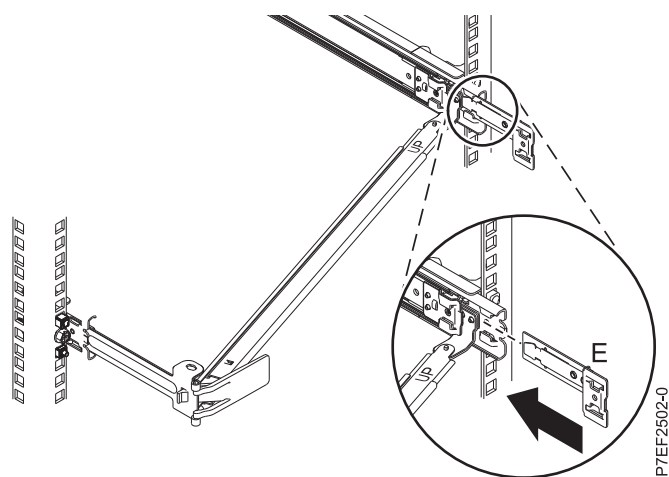


図 13. 拡張ブラケットをスライド・レールに取り付ける

6. 取り付け金具 (C) を右側スライドの内側のスロットに取り付け、取り付け金具 (C) をスライド・レールに滑り込ませ、バネ式のピンが所定の位置に収まるまでスライドさせます。詳しくは、12 ページの図 14 を参照してください。

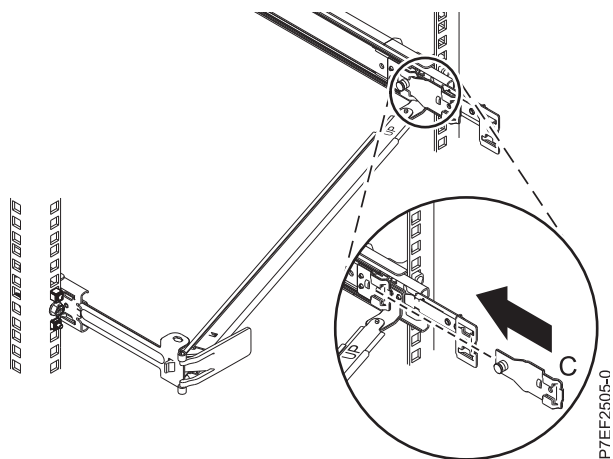


図 14. 取り付け金具をスライド・レールに取り付ける

7. ケーブル・マネジメント・アーム (D) をサポート・アーム (A) の上に置きます。最初のケーブル・マネジメント・アームのタブを、取り付け金具 (C) のスロットに滑り込ませます。バネ仕掛けのラッチが所定の位置に収まるまで、タブを押し込みます。もう一方のケーブル・マネジメント・アームのタブを、右側のスライド・レールの外側の拡張ブラケット (E) に滑り込ませます **(2)**。バネ仕掛けのラッチが所定の位置に収まるまで、タブを押し込みます。詳しくは、図 15、および 13 ページの図 16 を参照してください。

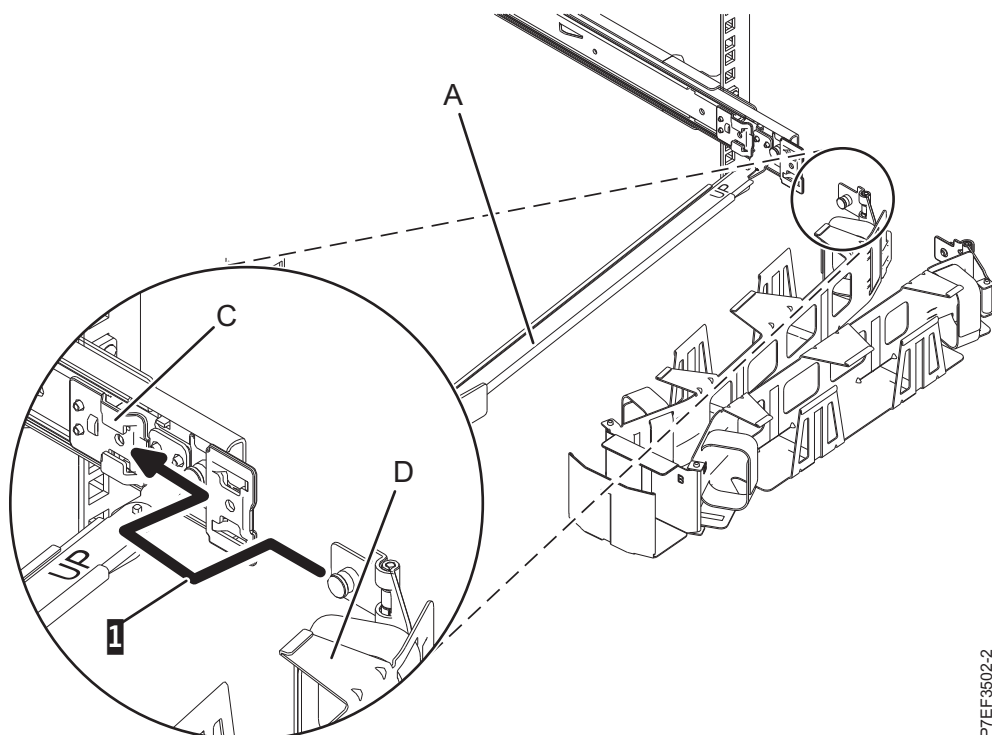


図 15. ケーブル・マネジメント・アームのタブを取り付け金具のスロットにスライドさせて取り付ける

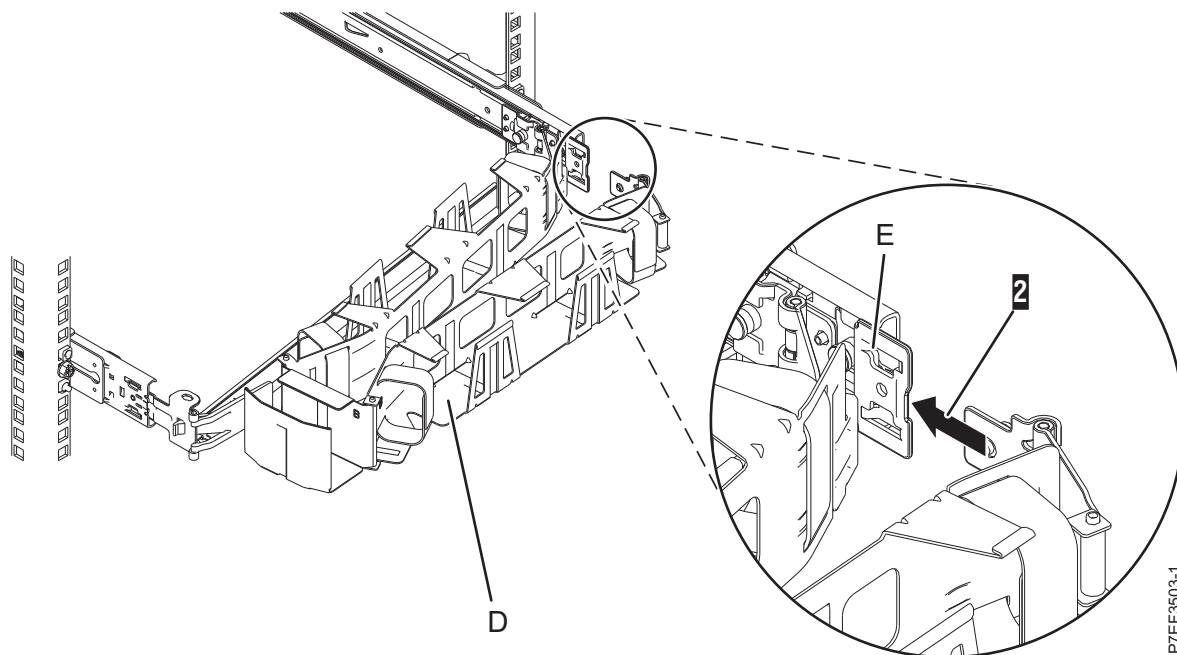


図 16. ケーブル・マネジメント・アームの残りのタブを拡張ブラケットにスライドさせて取り付ける

電源ケーブルの接続と位置の識別

電源ケーブルを接続して、ポートを識別します。

このタスクについて

手順

1. 電源ケーブルを接続するには、以下の手順を実行します。
 - a. 電源コードのプラグを電源装置に差し込みます。
 - b. 電源コードおよびその他のケーブルをケーブル・マネジメント・アーム上に配線します。
 - c. すべてのケーブルをサーバーの背面に接続します。

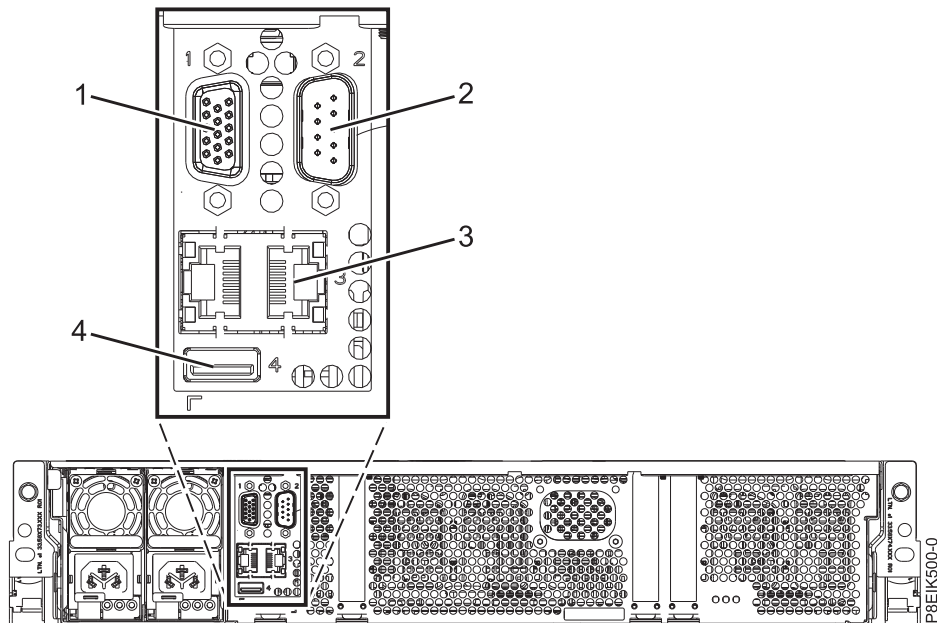


図 17. ポートが表示されているシステムの背面図

表 1. ポートの説明

ID	説明
1	Video Graphics Array (VGA)。現時点でサポートされているのは、テキスト・ベース機能のみです。
2	インテリジェント・プラットフォーム管理インターフェース (IPMI) (Intelligent Platform Management Interface (IPMI)) シリアル
3	イーサネット。左側のイーサネット・ポートを BMC/IPMI インターフェースに使用します (eth0 として)。右側のイーサネット・ポートを任意の直接 OS 用途に使用します (eth1 として)。
4	USB 3.0

- d. システムの電源コード、およびすべての接続デバイスの電源コードを交流 (AC) 電源に差し込みます。

2. 18 ページの『サーバーのセットアップの完了』に進みます。

固定レールを使用したシステムの設置

固定レール・オプション付きでシステムをオーダーした場合は、これらの手順を使用し、固定レールを使用してシステムをラックに設置してください。

ラックへの固定レールの取り付け

ラックに固定レールを取り付ける方法について説明します。

このタスクについて

注: システムには、2 EIA ラック単位 (2U) のスペースが必要です。

ラックに固定レールを取り付ける前に、固定レールに取り付けられている 2 つの U ブラケットを取り外しておく必要があります。U ブラケットを取り外すには、ブラケットをレールに固定している 4 本のねじを取り外します。

それぞれのスライド・レールには、前面から見て、R (右) または L(左) とマークが付けられています。

ラック取り付けテンプレートがある場合は、それを使用して、位置を判別してマークを付け、取り付け用ハードウェアをラックに取り付けます。

手順

1. レール用の該当する EIA 位置単位番号を選択します。各 EIA 位置には、取り付け用ハードウェア向けの穴が 3 つあります。これらの手順のために、各 EIA セットの穴は、各 EIA 単位の上部から下部に向かって **a**、**b**、および **c** として識別されています。

注: 必ず、適切な (大きい) レール位置合わせピンを使用してください。

2. 両方のレールの両側にあるロック・クランプを、オープン位置まで下向きに回転させます。
3. ラック前面で、右側レールの下部を、ラックの前面と背面の両方の選択した EIA 単位の最下段の穴 (**c**) に位置合わせします。ロケーター・ピン (**B**) は、ラックの前面と背面の両方で、使用される最下段の EIA 単位の真上にある EIA 位置の穴 (**b**) および (**c**) に収まります。

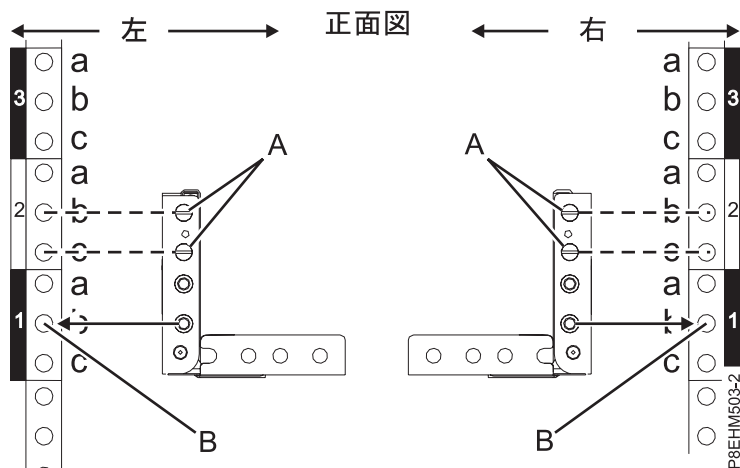


図 18. ラック・レールの前面の位置合わせ

4. ちょうつがいで連結されたレール・ラッチを上向きに回転させ、前面 EIA サポート・フランジに向かい合わせてレールを保持します。
5. 左のレールに対して、ステップ 1 からステップ 5 を繰り返します。
6. ラックの背面で、ちょうつがいで連結されたレール・ラッチを上向きに回転させ、背面 EIA サポート・フランジに向かい合わせてレールを保持します。

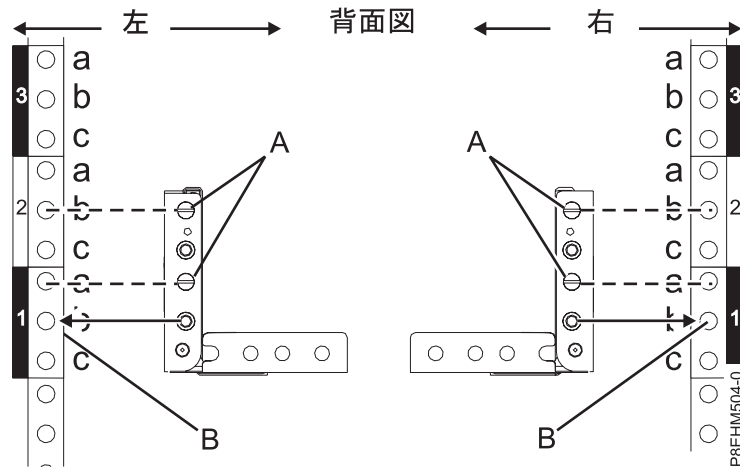


図 19. ラック・レールの背面の位置合わせ

7. M5 x 16 mm ねじを 2 本使用して、両方のレールを前面 EIA サポート・フランジに固定します。

固定レールを使用したラックへのシステムの設置と、電源ケーブルの接続

固定レールを使用したラックへのシステムの設置方法と、電源ケーブルの接続方法を説明します。

このタスクについて

注: このシステムをラックに設置するには、2 人必要です。

手順

1. システム背面および前面に配送カバーがあれば、取り外します。
2. システムの左側と右側にそれぞれ 1 名ずつ配置します。
3. 以下の手順を実行します。
 - a. システムを持ち上げます。
 - b. システムを斜めにして、固定ラック・レールの向こう側の所定の位置に入れます。
 - c. システムの背面がレールに乗るまで、システムを慎重に下げます。
4. システムの重量を 1 人が支えている間に、2 人目をシステムの前面に移動させて、システムをラックに押し込みます。
5. システムの両側にねじを取り付けて、システムをラックに固定します。
6. 前面カバーを、システムの前面に取り付けます。 17 ページの図 20を参照してください。

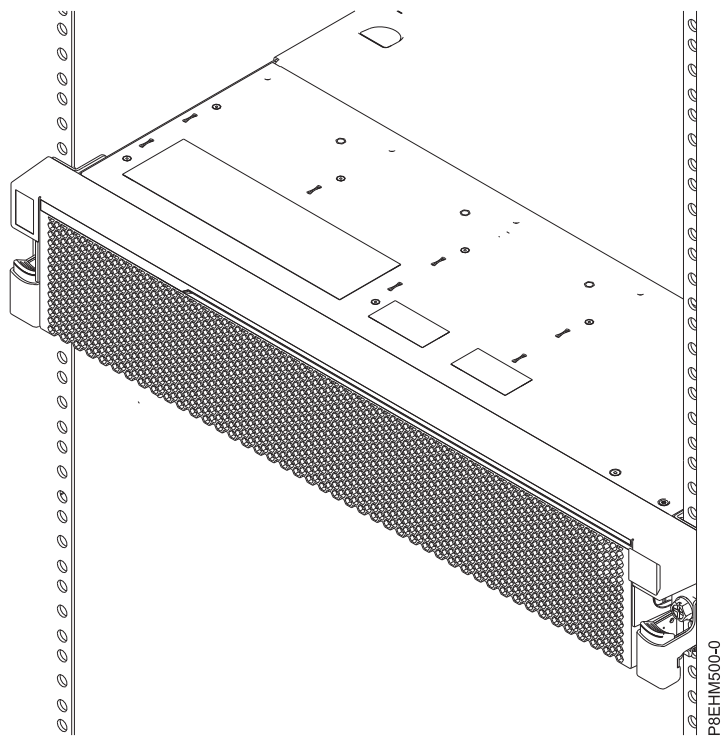


図 20. ラックに設置されたサーバー

7. 水冷システムの場合、ラックの背面で冷却水ホースをマニフォールドに接続します (18 ページの図 21 を参照)。オスのホースをメスのマニフォールド・プラグに差し込み、メスのホースをオスのマニフォールド・プラグに差し込んであることを確認します。

重要: システムの電源をオンにする前に、冷却水がシステム内を循環していることを確認します。

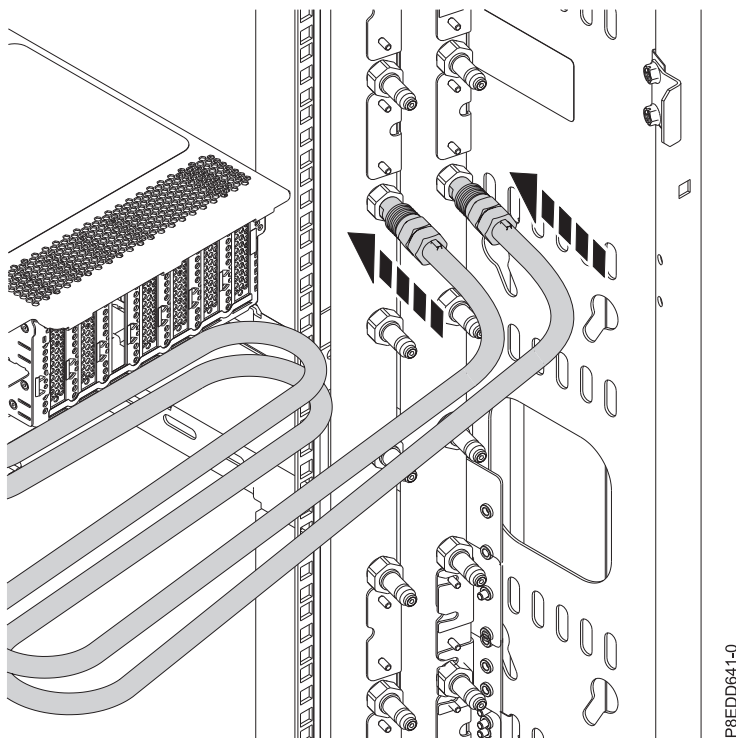


図 21. 冷却水ホースの接続

8. 電源コードのプラグを電源装置に差し込みます。
9. すべてのケーブルをサーバーの背面に接続します。詳しくは、『サーバーのセットアップの完了』を参照してください。
10. システムの電源コード、および他のすべての接続デバイスの電源コードを交流 (AC) 電源に差し込みます。
11. 『サーバーのセットアップの完了』に進みます。

サーバーのセットアップの完了

サーバーのセットアップを完了する方法を説明します。

手順

1. ご使用のサーバーを VGA モニターおよびキーボードに接続します。サポートされるのは、60 Hz VGA 設定の 1024x768 のみです。最大 3 メートルのケーブルのみがサポートされます。
2. Getting fixes(http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER8/p8ei8/p8ei8_fixes_kickoff.htm)に進み、最新のレベルのファームウェアでシステム・ファームウェアを更新します。
3. 更新の受け取りをサブスクライブすることで、IBM サポートの特定のツールおよびリソースに関する重要な技術情報と更新を受け取ることができます。更新の受け取りをサブスクライブするには、以下の手順を実行します。
 - a. IBM サポート・ポータルに進みます。
 - b. IBM ID およびパスワードを使用してログインし、「サインイン」をクリックします。
 - c. 「**Support notifications**」をクリックします。
 - d. 「**Browse for a product**」をクリックします。

- e. 「Power」 > 「Firmware」を選択し、マシン・タイプとモデルを見つけて「Subscribe」をクリックします。
 - f. 「Browse for a product」画面を終了します。
 - g. 「Delivery preferences」をクリックして、E メール設定を行い、「Submit」をクリックします。
 - h. 「Edit」をクリックして、受け取るドキュメンテーション更新のタイプを選択し、「Submit」をクリックします。
4. ベアメタル・システム（つまり、非仮想化システム）上に Linux オペレーティング・システムをインストールすることができます。これらのシステムの場合、オペレーティング・システムは Open Power Abstraction Layer (OPAL) ファームウェア上で直接に稼働します。ベアメタル・システム上での Linux オペレーティング・システムのインストールについて詳しくは、Installing Linux on bare metal systems(<http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/linuxonibm/liabw/liabwkickoff.htm>) を参照してください。

8335-GTB システムへのドライブの取り付け

IBM Power System S812LC (8335-GTB) システムにドライブを取り付ける方法について説明します。

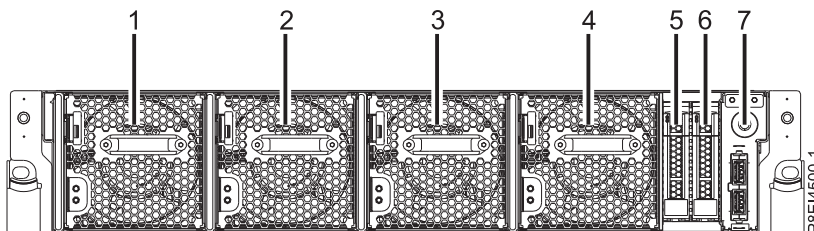
このタスクについて

システムの電源がオンで稼働中の状態で、ディスクを取り付けることができます。

手順

1. ディスク・ドライブを取り付けるスロットを決定します。ディスク・ドライブ・スロットはシステムの前面にあります。

次の図は、ディスク・ドライブの位置 (位置 5 および 6) を示しています。



2. 前面カバーを取り外します。手順については、64 ページの『8335-GTB システムからの前面カバーの取り外し』を参照してください。
3. 静電気放電 (ESD) リスト・ストラップを取り付けます。

重要:

- 静電気の放電 (ESD) によるハードウェアの損傷を防ぐために、ESD リスト・ストラップを、ご使用のハードウェアの前面の ESD ジャック、背面 ESD ジャック、または塗装されていない金属面に接触させます。
 - ESD リスト・ストラップ使用時は、電気機器のすべての安全手順に従います。ESD リスト・ストラップは静電気を制御するために使用するものです。これは、電気機器を使用または電気機器で作業を行う際に、感電するリスクを増大するものでも、低減するものでもありません。
 - ESD リスト・ストラップがない場合は、製品を ESD パッケージから取り出して、ハードウェアの取り付けまたは取り替えを行う直前に、システムの塗装されていない金属面に少なくとも 5 秒以上触れてください。
4. 使用するスロットにドライブ・フィラーが入っている場合は、スロットからそのドライブ・フィラーを取り外します。
- a. フィラーのハンドルのロック (A) を押します。 図 22を参照してください。

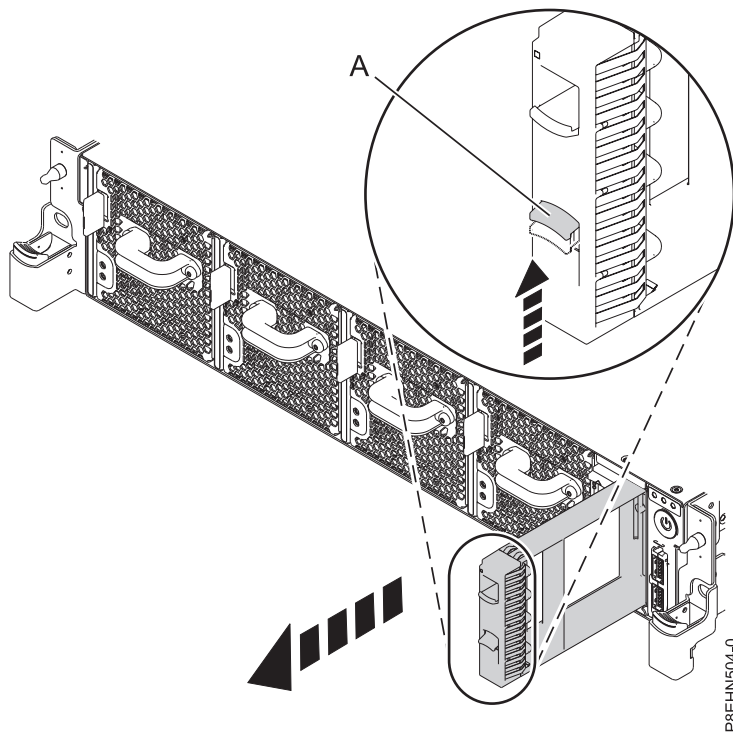


図 22. システムからのディスク・ドライブ・フィラーの取り外し

- b. ハンドルを持って、フィラーをスロットから引き出します。
5. ドライブの上端と下端を持ってドライブを位置決めし、ドライブ・スロットに挿入します。
- 重要: ドライブが完全に固定され、システムの中に奥まで入っていることを確認してください。
6. ハンドル・リリースを押し入れて、ドライブ・ベイ・ハンドル (A) をロックします。 21 ページの図 23を参照してください。

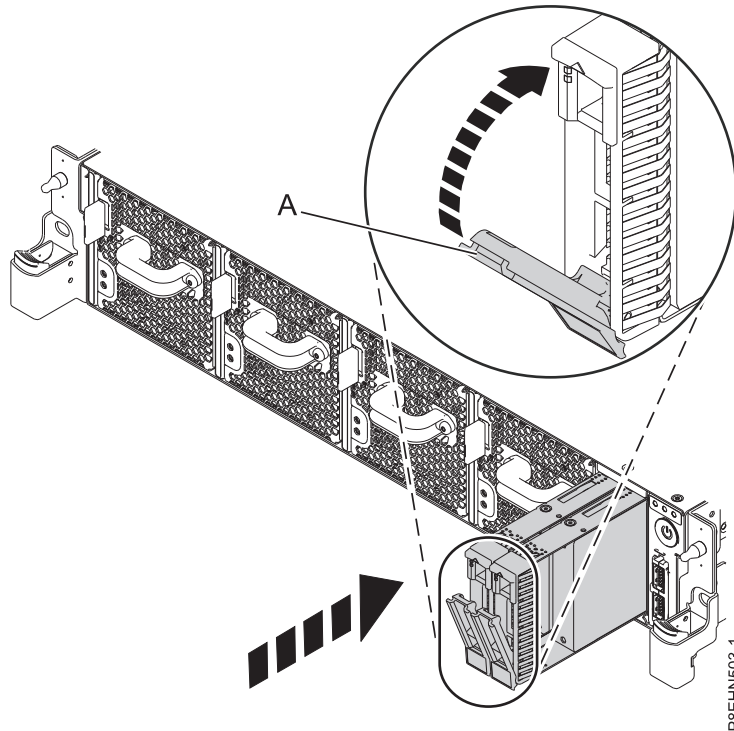


図 23. ディスク・ドライブのロックの詳細

7. 取り付けを行ったドライブを使用環境に合わせて構成します。

新しいドライブを挿入した後、デバイスを再スキャンする必要があります。

- **Ubuntu Linux** オペレーティング・システム: Ubuntu Linux オペレーティング・システムで **rescan-scsi-bus** コマンドを実行するには、root ユーザーとしてシステムにログインし、次のコマンドを実行します。

```
rescan-scsi-bus
```

rescan-scsi-bus ツールは *scsitools* パッケージに入っています。次のコマンドを使用してパッケージをインストールしてください。

```
sudo apt-get install scsitools
```

- **Red Hat Enterprise Linux (RHEL) バージョン 7.2:** REHL バージョン 7.2 オペレーティング・システムで再スキャン・コマンドを実行するには、root ユーザーとしてシステムにログインし、次のコマンドを実行します。

```
rescan-scsi-bus.sh -a
```

rescan-scsi-bus ツールは *sg3_utils* パッケージに入っています。次のコマンドを使用してパッケージをインストールしてください。

```
yum install sg3_utils
```

次の資料を参照することも推奨されます。Adding a Storage Device or Path (https://access.redhat.com/documentation/en-US/Red_Hat_Enterprise_Linux/7/html/Storage_Administration_Guide/adding_storage-device-or-path.html)

次のコマンドを使用して、新規ドライブがアクティブであることを確認します。

```
ls SCSI
```

8. バックアップ・メディアからデータをロードまたはリストアします。

8335-GTB システムへのグラフィックス処理装置の取り付け

IBM Power System S812LC (8335-GTB) システムのグラフィックス処理装置 (GPU) の取り付け方法について説明します。

始める前に

システムの電源をオフにし、システムを保守位置に設置します。手順については、55 ページの『内部部品の取り外しおよび再取り付けを行うための 8335-GTB システムの準備』を参照してください。

このタスクについて

重要: 安全と通気を確保するため、システムから部品を取り外す場合は、以下を確認する必要があります。

- PCIe テール・ストック・フィラーが存在すること
- グラフィックス処理装置 (GPU) 通気トンネルが存在すること

手順

1. 静電気放電 (ESD) リスト・ストラップを取り付けます。

重要:

- 静電気の放電 (ESD) によるハードウェアの損傷を防ぐために、ESD リスト・ストラップを、ご使用のハードウェアの前面の ESD ジャック、背面 ESD ジャック、または塗装されていない金属面に接触させます。
 - ESD リスト・ストラップ使用時は、電気機器のすべての安全手順に従います。ESD リスト・ストラップは静電気を制御するために使用するものです。これは、電気機器を使用または電気機器で作業を行う際に、感電するリスクを増大するものでも、低減するものでもありません。
 - ESD リスト・ストラップがない場合は、製品を ESD パッケージから取り出して、ハードウェアの取り付けまたは取り替えを行う直前に、システムの塗装されていない金属面に少なくとも 5 秒以上触れてください。
2. GPU を覆っている 2 つの GPU 通気トンネルを取り外します。
 3. GPU を保護用パッケージから取り外します。GPU の下部から保護カバーを取り外します。カバーは、カバーの隅から取り外します。
 4. システム・バックプレーンおよび GPU から GPU ソケット保護カバーを取り外します。
 5. 位置合わせピンがシステム・バックプレーンに収まるように、GPU とヒート・シンクを慎重に位置合わせします。空気の流れを示すヒート・シンクの矢印が、シャーシの背面の方向を指していることを確認してください。GPU をシステム・バックプレーンに挿入します。23 ページの図 24を参照してください。

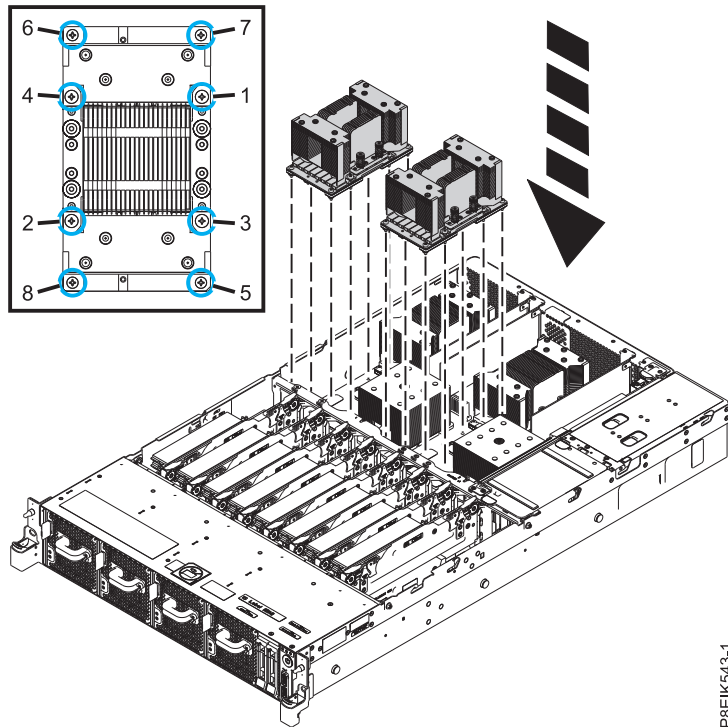


図 24. GPU およびヒート・シンクの GPU ソケットへの取り付け

6. GPU をシステム・バックプレーンに固定します。 #2 プラス・ドライバーを使用してください。図 24 に示されている順序で、ねじを締めます。内側の 4 本のねじから始めます。示されている順序で、内側の 4 本のねじを半分まで回し入れます。4 本のねじすべてを回し入れたら、完全に締めます。次に、示されている順序で、外側の 4 本のねじを締めます。
7. ステップ 3 (22 ページ) から 6 を 2 番目の GPU に対して繰り返します。
8. GPU を覆う 2 つの GPU 通気トンネルを再取り付けします。 位置合わせピンを使用して、トンネルをシャーシに正しく挿入します。

次のタスク

操作のためにシステムを準備します。手順については、 58 ページの『内部部品の取り外しおよび再取り付け後の操作に備えた 8335-GTB システムの準備』を参照してください。

8335-GTB システムへの PCIe アダプターの取り付け

IBM Power System S812LC (8335-GTB) システムへの PCI Express (PCIe) アダプターの取り付けについて説明します。

システム・ボードには、ハーフハイト、ハーフ長 (HHLH) の PCIe アダプターを取り付けることができます。 PCIe アダプターのテール・ストックを別のサイズに変更して、アダプターがソケットに正しく収まるようにする場合は、PCIe アダプターのテール・ストックの取り外しおよび再取り付けを参照してください。

24 ページの表 2 にリストされているフィーチャーは、電磁適合性 (EMC) クラス B のフィーチャーです。「ハードウェアの特記事項」セクションでクラス B 表示を参照してください。

表 2. 電磁適合性 (EMC) クラス B のフィーチャー

フィーチャー	説明
EL3Z	PCIe2 LP 2 ポート 10 GbE BaseT RJ45 アダプター

8335-GTB システムの PCIe アダプターのインストール規則とスロットの優先順位

IBM Power System S812LC (8335-GTB) システムでサポートされる Peripheral Component Interconnect Express (PCIe) アダプターのインストール規則とスロットの優先順位に関する情報を記載しています。

PCIe スロットの説明

8335-GTB システムには PCIe 第 3 世代スロットが備わっています。表 3 は、8335-GTB システムの PCIe アダプター・スロットの位置および詳細をリストしています。図 25 に、PCIe アダプター・スロット付きのシステムの背面図を示します。8335-GTB システムは、ハーフハイト、ハーフ長、およびショート (ロー・プロファイル) の PCIe アダプターをサポートします。

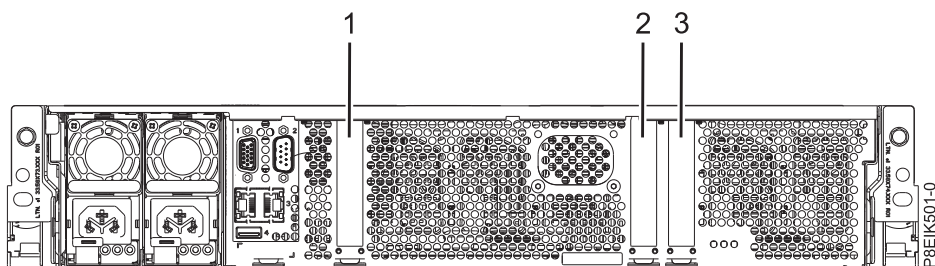


図 25. 示された PCIe スロットを備えた 8335-GTB システムの背面図

表 3. 8335-GTB システムの PCIe スロットの位置および説明

スロット	説明	PCI ホスト・ブリッジ (PHB) (PCI host bridge (PHB))	アダプター・サイズ	Coherent Accelerator Processor Interface (CAPI)
1	PCIe3 x16	プロセッサ・モジュール 2、PHB0	ハーフハイト、ハーフ長	可
2	PCIe3 x8	プロセッサ・モジュール 1、PHB1	ハーフハイト、ハーフ長	可
3	PCIe3 x16	プロセッサ・モジュール 1、PHB0	ハーフハイト、ハーフ長	可

PCIe アダプターのインストール規則

8335-GTB システムに PCIe アダプターを取り付けるためのスロットを選択する場合は、以下の情報を使用してください。25 ページの表 4 には、アダプターに関する情報、アダプターがサポートされているシステムでのスロットの優先順位、およびサポートされているシステムに取り付けることができる最大アダプター数が記載されています。フィーチャー・コード欄に表示されるリンクをクリックすると、PCIe アダプターに固有の技術情報をさらに入手できます。

表 4. PCIe アダプター・スロットの優先順位と 8335-GTB システムでサポートされる最大アダプター数

フィーチャー・コード	説明	スロットの優先順位	サポートされるアダプターの最大数
EC3A	PCIe3 LP 2 ポート 40 GbE NIC RoCE QSFP+ アダプター (FC EC3A; CCIN 57BD); アダプター FRU 番号: 00FW105 • PCIe3 x8 • Short、ロー・プロファイル • 特別高帯域幅、短い待ち時間 40 Gb イーサネット • NIC および RoCE サービスをサポート OS サポート: Linux オペレーティング・システム	1, 3, 2	2
EC3E	PCIe3 2 ポート 100 Gb EDR IB アダプター x16 (FC EC3E および EC3F; CCIN 2CEA); アダプター FRU 番号: 00WT075 • PCIe3 x16 • Short、ロー・プロファイル (FC EC3E) • Short、フルハイトのテール・ストック付き (FC EC3F) • OS サポート: Linux オペレーティング・システム	1, 3	2
EC3T	PCIe3 LP 1 ポート 100 Gb EDR InfiniBand アダプター x16 (FC EC3T; CCIN 2CEB) アダプター FRU 番号: 00WT013 • PCIe3 x16 • Short、ロー・プロファイル • OS サポート: Linux オペレーティング・システム	1, 3	2
EC54	PCIe3 1.6 TB NVMe フラッシュ・アダプター (FC EC54; CCIN 58CB); アダプターの FRU 番号00MH991 • PCIe3 x4 • Short、ロー・プロファイル • 1.6 TB の低遅延フラッシュ・メモリー • OS サポート: Linux オペレーティング・システム	2, 3, 1	2
EC56	PCIe3 3.2 TB NVMe フラッシュ・アダプター (FC EC56; CCIN 58CC); アダプターの FRU 番号00MH993 • PCIe3 x4 • Short、ロー・プロファイル • 3.2 TB の低遅延フラッシュ・メモリー • OS サポート: Linux オペレーティング・システム	2, 3, 1	2
EL3Z	PCIe2 LP 2 ポート 10 GbE BaseT RJ45 アダプター (FC EL3Z; CCIN 2CC4)。アダプターの FRU 番号: 00E2714。フルハイトのテール・ストックの部品番号: 00E2862。ロー・プロファイル・テール・ストックの部品番号: 00E2721 • PCIe2 x8 • Short、ロー・プロファイル • 2 つの 10 Gb RJ45 ポート • ローカル・エリア・ネットワーク (LAN) アダプター OS サポート: Linux および PowerKVM オペレーティング・システム	1, 3, 2	2
EL43	PCIe3 LP 16 Gb 2 ポート・ファイバー・チャネル・アダプター (FC EL43; CCIN 577F)。アダプターの FRU 番号: 00E3496 • PCIe3 x8 • Short、ロー・プロファイル • 特別高帯域幅 • OS サポート: Red Hat Enterprise Linux、SUSE Linux Enterprise Server、Linux Ubuntu オペレーティング・システム、および PowerKVM	1, 3, 2	2

表 4. PCIe アダプター・スロットの優先順位と 8335-GTB システムでサポートされる最大アダプター数 (続き)

フィーチャー・コード	説明	スロットの優先順位	サポートされるアダプターの最大数
EL4M	PCIe2 4 ポート 1 GbE アダプター (FC EL4L および EL4M; CCIN 576F); アダプター FRU 番号: 74Y4064 • PCIe1 または PCIe2 x4 • Short、ロー・プロファイル (FC EL4L) • Short、フルハイトのテール・ストック付き (FC EL4M) • 高帯域幅 • 4 ポート 1 Gb イーサネット • OS サポート: Linux オペレーティング・システム	2, 3, 1	2

8335-GTB のフィーチャー・タイプ別の PCIe アダプター情報

POWER8 プロセッサを搭載する 8335-GTB システムでサポートされる Peripheral Component Interconnect Express (PCIe) アダプターに関する情報を記載しています。

この表は、使用可能なアダプターをフィーチャー・コード (FC)、説明、カスタマー・カード識別番号 (CCIN)、アダプターの FRU 番号別に示しており、各アダプターの詳細を表示するためのリンクを含んでいます。

重要:

- 本書は、サポートされるフィーチャーが記載されている最新の販売用資料およびツールと置き換わるものではありません。
- 新しいフィーチャーを取り付けている場合、新しいフィーチャーをサポートするために必要なソフトウェアが手元にあることを確認し、前提条件となる既存のプログラム一時修正 (PTF) のインストールが必要かどうかを判断します。このためには、IBM Prerequisite Web サイト (www-912.ibm.com/e_dir/eServerPrereq.nsf) を使用します。

表 5. 8335-GTB システムでサポートされる PCIe アダプター

フィーチャー・コード	説明
EC3A	PCIe3 LP 2 ポート 40 GbE NIC RoCE QSFP+ アダプター (FC EC3A; CCIN 57BD); アダプター FRU 番号: 00FW105
EC3E	PCIe3 2 ポート 100 Gb EDR IB アダプター x16 (FC EC3E および EC3F; CCIN 2CEA); アダプター FRU 番号: 00WT075
EC3T	PCIe3 LP 1 ポート 100 Gb EDR InfiniBand アダプター x16 (FC EC3T; CCIN 2CEB) アダプター FRU 番号: 00WT013
EC54	PCIe3 1.6 TB NVMe フラッシュ・アダプター (FC EC54; CCIN 58CB); アダプターの FRU 番号00MH991
EC56	PCIe3 3.2 TB NVMe フラッシュ・アダプター (FC EC56; CCIN 58CC); アダプターの FRU 番号00MH993
EL3Z	PCIe2 LP 2 ポート 10 GbE BaseT RJ45 アダプター (FC EL3Z; CCIN 2CC4)。アダプターの FRU 番号: 00E2714。フルハイトのテール・ストックの部品番号: 00E2862。ロー・プロファイル・テール・ストックの部品番号: 00E2721
EL43	PCIe3 LP 16 Gb 2 ポート・ファイバー・チャンネル・アダプター (FC EL43; CCIN 577F)。アダプターの FRU 番号: 00E3496
EL4M	PCIe2 4 ポート 1 GbE アダプター (FC EL4L および EL4M; CCIN 576F); アダプター FRU 番号: 74Y4064

表 5. 8335-GTB システムでサポートされる PCIe アダプター (続き)

フィーチャー・コード	説明
EN0T	PCIe2 LP 4 ポート (10 Gb + 1 GbE) SR+RJ45 アダプター (FC EN0T; CCIN 2CC3); アダプター FRU 番号: 00E2715; ロー・プロファイル・テール・ストック (PN): 00E2720

PCIe アダプターのフィーチャー・コードのリスト

8348-21C システム用の PCI Express (PCIe) アダプターの使用および管理について説明します。また、特定のアダプターに関する仕様および取り付けに関する注意事項も記載します。

PCIe2 LP 4 ポート 1GbE アダプター (FC 5260) (CCIN 576F):

フィーチャー・コード (FC) 5260 アダプターの仕様およびオペレーティング・システム要件について説明します。

概説

FC 5260 および FC 5899 はいずれも同じアダプターで、フィーチャー・コードが異なります。FC 5260 はロー・プロファイル・アダプターであり、FC 5899 はフルハイト・アダプターです。

PCIe2 LP 4 ポート 1GbE アダプターは、short、ロー・プロファイルの第 2 世代 PCIe アダプターです。このアダプターは、1000 M ビット/秒 (Mbps) (すなわち、1 G ビット/秒 (Gbps))、100 Mbps、または 10 Mbps で稼働するように構成できる、4 つの 1-Gb イーサネット・ポートを提供します。このアダプターは、対より線 (シールドなし) (UTP) ケーブルを使用して、最大 100 メートル離れたネットワークに接続します。このアダプターは、AIX® Network Installation Management (NIM) ブート機能をサポートします。このアダプターは、IEEE 802.3ab 1000Base-T 規格に準拠します。このアダプターは、1000 Mbps の速度で稼働する場合、ジャンボ・フレームをサポートします。

各イーサネット・ポートは、以下を使用して接続できます。

- 1000 Mbps ネットワーク接続用の CAT5e (またはそれ以降) UTP ケーブル
- 100 Mbps あるいは 10 Mbps ネットワーク接続用の CAT5 または CAT3 UTP ケーブル

これらのケーブルは、銅線 RJ45 コネクタに接続されます。各ポートは互いに独立し、全二重または半二重をサポートします。半二重モードは、1000 Mbps の速度をサポートしません。

このアダプターは以下のフィーチャーを提供します。

- プロセッサの使用率を大幅に削減しながらパフォーマンス向上を達成するための割り込みの軽減をサポート
- x1 を除き、ほぼすべての PCIe スロットでデュアル・ポート操作をサポート
- 自動ネゴシエーションをサポート (全二重のみ)
- 統合化されたメディア・アクセス制御層 (MAC) および物理層 (PHY) をサポート
- 既存のソフトウェアで Fast EtherChannel (FEC) をサポート
- 既存のソフトウェアでギガビット EtherChannel (GEC) をサポート
- IEEE 802.3ad (リンク集約制御プロトコル) をサポート
- IEEE 802.1Q VLAN をサポート
- IEEE 802.3 z、ab、u、x フロー制御をサポート
- IEEE 802.1p をサポート

- IEEE 802.3ab (TX 用) をサポート
- TCP チェックサム・オフロード TCP プロトコル (TCP)、ユーザー・データグラム・プロトコル (UDP)、インターネット・プロトコル (IP) (IPv4 および IPv6) をサポート
- TCP セグメンテーション・オフロードまたは大容量送信オフロードをサポート
- EEPROM-SPI および単一の EEPROM をサポート
- 割り込みレベル INTA および MSI をサポート
- ハードウェア認証 FCC B、UL、CE、VCCI、BSMI、CTICK、MIC
- ネットワーク・コントローラー (MAC) Intel 82571EB
- 電気・電子機器に含まれる特定有害物質の使用制限指令 (RoHS 指令) に関する欧州連合指令 2002/95/EC に準拠

仕様

項目 説明

アダプターの FRU 番号

74Y4064 (RoHS 指令に適合する設計である)

折り返しプラグ

10N7405

注: 折り返しプラグは、カードに付属しておらず、IBM から購入することはできません。

I/O バス・アーキテクチャー

PCIe2.0 x4

スロット要件

PCIe x4 (ロー・プロファイル) スロット 1 つ。

ケーブル

4 対の CAT5e UTP ケーブルが銅線 RJ45 コネクタに接続されます。

電圧 3.3 V

フォーム・ファクター

short、ロー・プロファイル

最大数

サポートされるアダプターの最大数について詳しくは、PCIeアダプターのインストールの規則とスロットの優先順位 (http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER8/p8eab/p8eab_mtm_pciplacement.htm) を参照し、作業しているシステムを選択してください。

コネクタ情報

- 2 つの RJ-45 ポート
- リンク・アクティビティおよび速度用の、ポートあたり 2 つの LED アダプター・ステータス・インジケータ

実現される属性

- PCIe x4、第 1 世代または第 2 世代
- 4 ポート・マシン・アクセス・コード (MAC)
- ハイパフォーマンス IPV4/IPV6 チェックサム・オフロード
- 大容量送信および大容量受信をサポート
- 複数のキュー
- VIOS

次の図はアダプターを示しています。

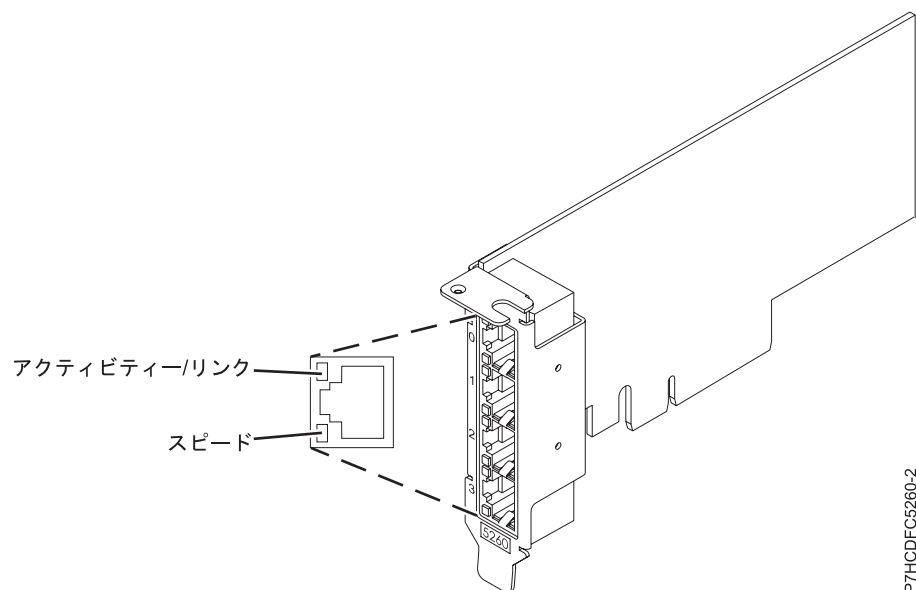


図 26. アダプター

アダプター LED 状態

アダプター上の LED は、アダプターの作動状況についての情報を示します。この LED は、取り付け金具を通して見えます。図 26 は、LED の位置を示しています。表 6 は、さまざまな LED の状態、およびそれらの状態が示す意味を説明しています。

表 6. アダプター LED およびその説明

LED	ライト	説明
スピード	黄色	10 Mbps または 100 Mbps
	緑	1000 Mbps または 1 Gbps
アクティビティー/リンク	緑の明滅	アクティブ・リンクまたはデータ・アクティビティー
	オフ	リンクなし リンクなしは、問題のあるケーブル、問題のあるコネクタ、または構成の不一致を示している可能性があります。

スロットの優先順位およびインストール規則について詳しくは、PCIe アダプターのインストールの規則とスロットの優先順位 (http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER8/p8eab/p8eab_mtm_pciplacement.htm) を参照し、作業しているシステムを選択してください。

オペレーティング・システムまたは区画の要件

このアダプターは、使用するシステムに応じて、以下のバージョンのオペレーティング・システムでサポートされます。

- AIX
 - AIX 7.1 (テクノロジー・レベル 3、Service Pack 2 以降適用)
 - AIX 6.1 (テクノロジー・レベル 8、Service Pack 3 以降適用)
 - AIX バージョン 5.3 (テクノロジー・レベル 12 以降適用)

- Linux
 - Red Hat Enterprise Linux バージョン 7 以降 (Red Hat から利用可能な現行のメンテナンス・アップデートを適用)
 - Red Hat Enterprise Linux バージョン 6.4 以降 (Red Hat から利用可能な現行のメンテナンス・アップデートを適用)
 - SUSE Linux Enterprise Server バージョン 12 以降
 - SUSE Linux Enterprise Server 11 (Service Pack 2) 以降 (SUSE から利用可能な現行のメンテナンス・アップデートを適用)
 - Ubuntu Server 14.04.3 以降
 - サポートの詳細については、LinuxAlert Web サイト (www14.software.ibm.com/webapp/set2/sas/f/lopdiags/info/LinuxAlerts.html) を参照してください。
 - デバイス・ドライバまたは iprutils の最新バージョンは、IBM Service and Productivity Tools Web サイト (<http://www14.software.ibm.com/webapp/set2/sas/f/lopdiags/home.html>) からダウンロードできます。
- IBM i
 - IBM i バージョン 7.2 以降
 - IBM i バージョン 7.1 以降
- VIOS
 - VIOS でのサポートには、VIOS 2.2.1.4 以降が必要です。
- PowerKVM
 - IBM PowerKVM 2.1.1 以降

PCIe3 LP 2 ポート 40 GbE NIC RoCE QSFP+ アダプター (FC EC3A; CCIN 57BD):

フィーチャー・コード (FC) EC3A アダプターの仕様およびオペレーティング・システム要件について説明します。

概説

PCIe3 LP 2 ポート 40 GbE NIC RoCE QSFP+ アダプターは、ロー・プロファイル、PCIe 第 3 世代 (PCIe3)、デュアル・ポート、40 ギガビット・イーサネット (GbE) アダプター (PCIe 3.0 ホスト・バス・インターフェース付き) です。このアダプターは、ネットワーク・インターフェース・コントローラー (NIC) として機能し、IBTA RDMA over Converged Ethernet (RoCE) プロトコルを使用して効率的な RDMA (リモート直接メモリー・アクセス) サービスを提供します。アダプターは、高帯域幅および短い待ち時間の 40 GbE 接続を提供して、プロセッサの負荷を減らし、メモリー・アクセスを効率的に使用します。この処理により、ネットワーク・タスクによるプロセッサの負荷が軽減され、プロセッサのパフォーマンスとスケーラビリティが向上します。

このアダプターは、エンタープライズ・データ・センター、ハイパフォーマンス・コンピューティング、トランザクション・データベース、クラウド・コンピューティング、仮想化、ストレージ、およびその他の組み込み環境向けに最適化されています。アダプターは、プロセッサに使用可能な帯域幅を増やし、パフォーマンスを向上させることによって、ネットワーク・パフォーマンスを改善します。このアダプターは、仮想マシン (VM) 専用のアダプター・リソースおよび保護を提供します。アダプターのリンク集約およびフェイルオーバー・フィーチャーは、冗長度および高可用性を必要とする重要なネットワーク・アプリケーションに最適です。

2 個の 40 Gb クワッド (4 チャンネル) スモール・フォーム・ファクター・プラグ可能 (QSFP+) トランシーバー・ポートは、ネットワーク内の他のサーバーまたはスイッチとの接続に使用されます。各 QSFP+ ポートは公称データ速度 40 G ビット/秒 (Gbps) のイーサネット接続を提供します。

このアダプターには、トランシーバーは含まれていません。銅線ケーブルと短距離用の QSFP+ 40G BASE-SR トランシーバーを使用してください。ケーブルについて詳しくは、32 ページの『ケーブル』を参照してください。

スロットの優先順位およびインストール規則について詳しくは、PCIe アダプターのインストールの規則とスロットの優先順位 (http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER8/p8eab/p8eab_mtm_pciplacement.htm) を参照し、作業しているシステムを選択してください。

このアダプターは以下のフィーチャーを提供します。

- データ・センター・ブリッジング・サポート (IEEE 標準バージョン CEE)
- T11.3 FC-BB-5 FCoE
- ハードウェアでの TCP/IP ステートレス・オフロード
- 複数のコア間のトラフィック・ステアリング
- インテリジェント割り込み合体
- 高度なサービス品質 (QoS)
- RoHS-R6 準拠
- uDAPL を使用した RDMA over Ethernet

このアダプターは、以下のフィーチャーを使用してイーサネット NIC サポートを提供します。

- 64 ビット・カーネル環境
- マルチプロセッサ対応
- AIX 共通データ・リンク・インターフェース (CDLI) 準拠
- 同じ物理ポートを共有しながら、NIC デバイス・ドライバーと RoCE デバイス・ドライバーの並行操作
- 標準フレーム (1518 バイト + VLAN タグ用の 4 バイト)
- ジャンボ・フレーム (9018 バイト + VLAN タグ用の 4 バイト)
- IPV4 または IPV6 送信/受信 TCP チェックサム・オフロード
- IPV4 送信 TCP セグメンテーション・オフロード (通常、大容量送信と呼ばれる)
- IPV4 受信 TCP セグメンテーション集約 (通常、大容量送信と呼ばれる)
- PCI バス・エラーからの拡張エラー処理 (EEH)

32 ページの図 27 はアダプターを示しています。

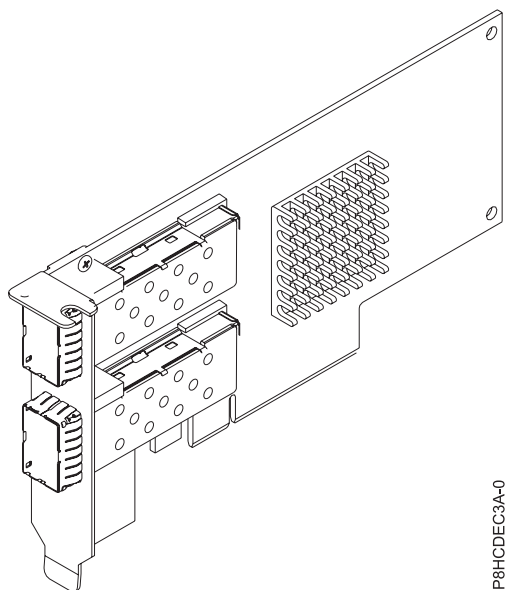


図 27. FC EC3A アダプター

仕様

項目 説明

アダプターの FRU 番号

00FW105 (RoHS 指令に適合する設計である)

I/O バス・アーキテクチャー

PCIe3 x8

スロット要件

スロットの優先順位およびインストール規則について詳しくは、PCIe アダプターのインストールの規則とスロットの優先順位 (http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER8/p8eab/p8eab_mtm_pciplacement.htm) を参照し、作業しているシステムを選択してください。

ケーブル

詳しくは、『ケーブル』を参照してください。

電圧 3.3 V

フォーム・ファクター

Short

最大数

サポートされるアダプターの最大数について詳しくは、PCIe アダプターのインストールの規則とスロットの優先順位 (http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER8/p8eab/p8eab_mtm_pciplacement.htm) を参照し、作業しているシステムを選択してください。

ケーブル

このアダプター・フィーチャーでは、短距離間のケーブル接続用の互換 QSFP+、40 Gbps、銅線、平衡型、アクティブ・イーサネット・ケーブルを使用する必要があります。QSFP+ 銅線ケーブルを別の角度から見た表示は、33 ページの図 28 を参照してください。距離が 5 メートルを超える場合は、光ケーブル FC EB2J または FC EB2K に接続する 2 個の光学式 QSFP+ SR トランシーバー (FC EB27) を使用します。フィーチャー・コードの詳細については、33 ページの表 7 を参照してください。

同じアダプター上で銅線ケーブルと光ケーブルを混用しないでください。

これらのケーブルは、業界標準仕様 SFF-8431 Rev 4.1 および SFF-8472 Rev 10.4、および適用可能なすべての IBM 要件に対応しています。

注: これらのケーブルは、EMC クラス A 準拠です。

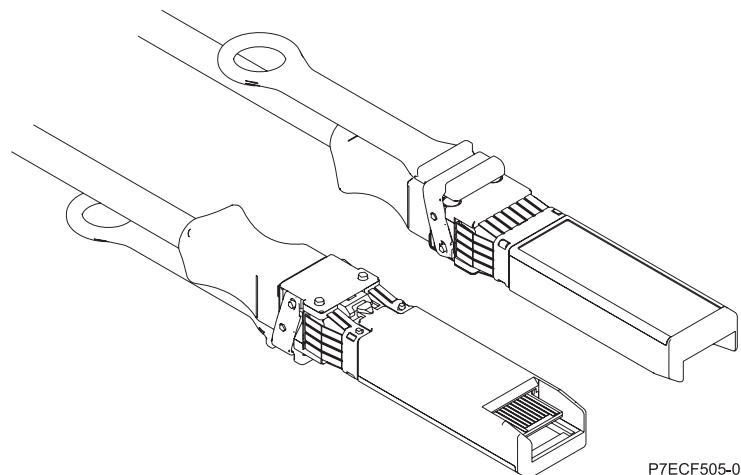


図 28. ケーブルの上面および下面の図

表 7. さまざまな長さのケーブルのフィーチャー・コードと部品番号

ケーブルの長さ	フィーチャー・コード	CCIN	部品番号
銅線ケーブル			
1 m (3.28 ft)	EB2B		49Y7934
3 m (9.84 ft)	EB2H		49Y7935
5 m (16.4 ft)	ECBN		00D5809
光ケーブル			
10 m (32.8 ft)	EB2J		41V2458
30 m (98.4 ft)	EB2K		45D6369
QSFP+ 40G BASE-SR トランシーバー	EB27		49Y7928

オペレーティング・システムまたは区画の要件

新しいフィーチャーを取り付ける場合、必ずその新規フィーチャーのサポートに必要なソフトウェアを準備し、そのフィーチャーおよび接続デバイスについて満たす必要のある前提条件があるかどうかを判別してください。前提条件があるか確認するには、IBM Prerequisite Web サイト (www-912.ibm.com/e_dir/eServerPrereq.nsf) を参照してください。

このアダプターは、使用するシステムに応じて、以下のバージョンのオペレーティング・システムでサポートされます。

- AIX
 - AIX 7.1 以降
 - AIX バージョン 6.1 以降
- Linux

- Red Hat Enterprise Linux バージョン 7 以降 (Red Hat から利用可能な現行のメンテナンス・アップデートを適用)
- Red Hat Enterprise Linux バージョン 6.5 以降 (Red Hat から利用可能な現行のメンテナンス・アップデートを適用)
- SUSE Linux Enterprise Server バージョン 12 以降
- SUSE Linux Enterprise Server 11 (Service Pack 3) 以降 (SUSE から利用可能な現行のメンテナンス・アップデートを適用)
- Ubuntu Server 14.04.3 以降
- サポートの詳細については、LinuxAlert Web サイト (www14.software.ibm.com/webapp/set2/sas/f/lopdiags/info/LinuxAlerts.html) を参照してください。
- デバイス・ドライバーまたは iprutils の最新バージョンは、IBM Service and Productivity Tools Web サイト (<http://www14.software.ibm.com/webapp/set2/sas/f/lopdiags/home.html>) からダウンロードできます。
- ファームウェア・レベル 8.1 でサポート
- PowerKVM
 - IBM PowerKVM 2.1.1 以降

PCIe LP 8 Gb Gb 2 ポート・ファイバー・チャンネル・アダプター (FC EL2N ; CCIN 577D):

フィーチャー・コード (FC) EL2N アダプターの仕様およびオペレーティング・システム要件について説明します。

概説

FC EL2N はロー・プロファイル・アダプターです。PCIe LP 8 Gb 2 ポート・ファイバー・チャンネル・アダプターは、Emulex LPe12002 PCIe ホスト・バス・アダプター (HBA) をベースにした高性能アダプターです。各ポートは、ファイバー・リンクを介して単一イニシエーター機能を提供します。ポートは LC タイプ・コネクタを備え、短波レーザー光学を使用します。アダプターはファイバー・チャンネル・スイッチに接続し、リンク・スピード 2、4、および 8 Gbps で動作します。アダプターは自動的にスイッチとネゴシエーションを行い、スイッチが対応する最高速度で動作します。各ポート上の LED は、ポートの状況とリンク・スピードに関する情報を提供します。

N_Port ID Virtualization (NPIV) 機能は、Virtual I/O Server (VIOS) によりサポートされます。

35 ページの図 29 はアダプターを示しています。

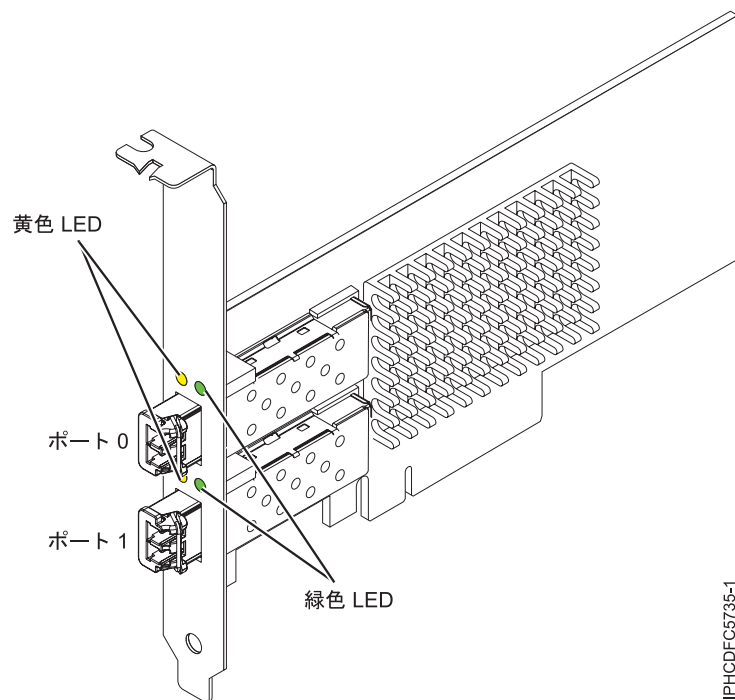


図 29. EL2N アダプター

アダプター仕様

項目 説明

FRU 番号

10N9824 (RoHS 指令に適合する設計である)

折り返しプラグ FRU 番号

12R9314

注: 折り返しプラグは、カードに付属しており、IBM から購入することもできます。

I/O バス・アーキテクチャー

PCI Express (PCIe) Base および Card Electromechanical (CEM) 2.0 x8 PCIe バス・インターフェース

スロット要件

スロットの優先順位およびインストール規則について詳しくは、PCIe アダプターのインストールの規則とスロットの優先順位 (http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER8/p8eab/p8eab_mtm_pciplacement.htm) を参照し、作業しているシステムを選択してください。

電圧 3.3 V

フォーム・ファクター

Short、ロー・プロファイル

FC 互換性

2、4、8 ギガビット

ケーブル

ケーブルは、お客様の責任で用意していただきます。

以下の仕様に準拠した、短波レーザー用のマルチモード光ファイバー・ケーブルを使用してください。

- OM3: マルチモード 50/125 マイクロメートル・ファイバー、2000 MHz x km 帯域幅
- OM2: マルチモード 50/125 マイクロメートル・ファイバー、500 MHz x km 帯域幅

- OM1: マルチモード 62.5/125 マイクロメートル・ファイバー、200 MHz x km 帯域幅
コア・サイズが異なるため、OM1 ケーブルは他の OM1 ケーブルにしか接続できません。 最良の結果を得るためには、OM2 ケーブルは OM3 ケーブルに接続してはなりません。 ただし、OM2 ケーブルを OM3 ケーブルに接続した場合は、OM2 ケーブルの特性がケーブルの全長に適用されます。次の表は、リンク・スピードが異なる各種の光ファイバー・ケーブルについて、サポートされる距離を示しています。

表 8. マルチモード光ファイバー・ケーブルのサポートされる距離

見出し	ケーブルのタイプと距離		
	OM1	OM2	OM3
速度			
2.125 Gbps	0.5 メートルから 150 メートル	0.5 メートルから 300 メートル	0.5 メートルから 500 メートル
4.25 Gbps	0.5 メートルから 70 メートル	0.5 メートルから 150 メートル	0.5 メートルから 380 メートル
8.5 Gbps	0.5 メートルから 21 メートル	0.5 メートルから 50 メートル	0.5 メートルから 150 メートル

最大数

サポートされるアダプターの最大数について詳しくは、PCIeアダプターのインストールの規則とスロットの優先順位 (http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER8/p8eab/p8eab_mtm_pciplacement.htm) を参照し、作業しているシステムを選択してください。

オペレーティング・システムまたは区画の要件

新しいフィーチャーを取り付ける場合、必ずその新規フィーチャーのサポートに必要なソフトウェアを準備し、そのフィーチャーおよび接続デバイスについて満たす必要のある前提条件があるかどうかを判別してください。前提条件があるか確認するには、IBM Prerequisite Web サイト (www-912.ibm.com/e_dir/eServerPrereq.nsf) を参照してください。

このアダプターは、使用するシステムに応じて、以下のバージョンのオペレーティング・システムでサポートされます。

- Linux
 - Red Hat Enterprise Linux バージョン 7 以降 (Red Hat から利用可能な現行のメンテナンス・アップデートを適用)
 - Red Hat Enterprise Linux バージョン 6 以降
 - Red Hat Enterprise Linux バージョン 5.6 以降
 - SUSE Linux Enterprise Server バージョン 12 以降
 - SUSE Linux Enterprise Server 11 (Service Pack 1) 以降 (SUSE から利用可能な現行のメンテナンス・アップデートを適用)
 - Ubuntu Server 14.04.3 以降
 - サポートの詳細については、LinuxAlert Web サイト (www14.software.ibm.com/webapp/set2/sas/f/lopdiags/info/LinuxAlerts.html) を参照してください。
- PowerKVM
 - IBM PowerKVM 2.1 SP1 以降

アダプター LED

緑色 LED および黄色 LED は、アダプターの取り付け金具の開口部を通して見るができます。緑色 はファームウェア操作を示し、黄色はポート・アクティビティーを表します。表 9 は、リンク速度の状態を要約しています。高速明滅の各グループ (2、3、または 4) の間には LED がオフになる 1 秒間の休止があります。LED の一連の動作を数秒間観察して、状態を正しく識別してください。

表 9. 正常な LED 状態

緑色 LED	黄色 LED	県
低速点滅	オフ	正常、リンクは非アクティブまたは始動していない
オン	2 高速明滅	2 Gbps リンク速度 - 正常、リンク・アクティブ
オン	3 高速明滅	4 Gbps リンク速度 - 正常、リンク・アクティブ
オン	4 高速明滅	8 Gbps リンク速度 - 正常、リンク・アクティブ

電源オン自己診断テスト (POST) の状態および結果は、表 10 に要約されています。これらの状態は、異常な状態あるいは問題を識別するために使用できます。各状態の取るべき処置に従ってください。

表 10. POST 状態および結果

緑色 LED	黄色 LED	県	取るべき処置
オフ	オフ	ウェイクアップ障害 (ボード非活動)	AIX、IBM i、または Linux オペレーティング・システムの診断手順を実行します。
オフ	オン	POST 障害 (ボード非活動)	AIX、IBM i、または Linux オペレーティング・システムの診断手順を実行します。
オフ	低速点滅	ウェイクアップ障害モニター	AIX、IBM i、または Linux オペレーティング・システムの診断手順を実行します。
オフ	高速明滅	POST 障害	AIX、IBM i、または Linux オペレーティング・システムの診断手順を実行します。
オフ	明滅	POST 処理進行中	なし (None)
オン	オフ	機能中の障害	AIX、IBM i、または Linux オペレーティング・システムの診断手順を実行します。
オン	オン	機能中の障害	AIX、IBM i、または Linux オペレーティング・システムの診断手順を実行します。
低速点滅	低速点滅	ダウンロードのためオフライン	なし (None)
低速点滅	高速明滅	制限付きオフライン・モード、再始動待機中	なし (None)
低速点滅	明滅	制限付きオフライン・モード、テスト活動中	なし (None)
高速明滅	オフ	制限モードにおけるデバッグ・モニター	なし (None)
高速明滅	オン	未定義	なし (None)
高速明滅	低速点滅	テスト修正モードにおけるデバッグ・モニター	なし (None)

表 10. POST 状態および結果 (続き)

緑色 LED	黄色 LED	県	取るべき処置
高速明滅	高速明滅	リモート・デバッグ・モードにおけるデバッグ・モニター	なし (None)
高速明滅	明滅	未定義	なし (None)

ホット・スワップを使用したファイバー・チャンネル・アダプターの交換

ファイバー・チャンネル・アダプターをホット・スワップする場合、ストレージ・デバイスのデバイス関連ソフトウェアによっては、追加のデバイス (例えば、ファイバー・アレイ・ストレージ・テクノロジー (FASTt) または DS4800 に関連したディスク・アレイ・ルーター (dar) デバイス) の取り外しが必要になる場合があることに注意してください。こうした追加デバイスの取り外し方法については、特定のストレージ・デバイスの資料を参照してください。

新規アダプターは、固有のワールドワイド・ポート名 (WWPN) を持っています。ゾーニングおよび論理装置番号 (LUN) 割り当てをチェックして、新規アダプターが予想どおりに機能するようにしてください。

PCIe2 LP 2 ポート 10 GbE BaseT RJ45 アダプター (FC EL3Z; CCIN 2CC4):

フィーチャー・コード (FC) EL3Z アダプターの仕様およびオペレーティング・システム要件について説明します。

概説

PCIe2 LP 2 ポート 10 GbE BaseT RJ45 アダプターは、PCI Express (PCIe) 第 2 世代、x8、ショート・フォーム・ファクター、ロー・プロファイル・アダプターです。このアダプターは、2 個の 10 Gb RJ45 ポートを提供します。このアダプターは、PCIe 2.0 ホスト・バス・インターフェースを備えています。このアダプターは、イーサネット・ネットワーク・インターフェース・コントローラー (NIC) 機能をサポートします。ネットワークング・トラフィックを統合する高性能アダプターです。アダプターは、リンク集約およびフェイルオーバーのフィーチャーを備えているので、冗長度および高可用性を必要とする重要なネットワーク・アプリケーションへの使用に適しています。39 ページの図 30 は、FC EL3Z アダプターを示しています。

ポートは、デフォルトで、最高速度を 10 Gb (10G BaseT)、1Gb (1000 BaseT)、または 100 Mb (100 BaseT) 全二重のいずれかに自動ネゴシエーションします。各 RJ45 ポートは、他のポートとは無関係に構成できます。各 RJ45 ポートは、4 対の CAT-6A ケーブルで接続され、最大 100 メートルの距離がサポートされます。

このアダプターは以下のフィーチャーを提供します。

- アダプターは、PCIe2 NIC ネットワーク・コンバージェンス・アダプターです。
- 10 Gb RJ45 ポートは、NIC モードで機能できます。
- アダプターは、ホスト・ローカル・エリア・ネットワーク (LAN) アダプターとして使用できます。
- アダプターは、割り込みの軽減をサポートし、プロセッサの使用率を大幅に削減すると同時にパフォーマンスを向上させます。
- アダプターは、すべての PCIe3 スロットまたは PCIe2 スロットで、デュアル・ポート操作をサポートします。
- アダプターは、オートネゴシエーションをサポートします (全二重のみ)。
- アダプターは、インターフェース当たり複数のメディア・アクセス制御 (MAC) をサポートします。

- アダプターは、統合されたメディア・アクセス制御 (MAC) および物理層 (PHY) をサポートします。
- アダプターは、各種のポートおよび機能について、以下の標準をサポートします。
 - 10 GbE ポートで IEEE 802.3ae
 - 1 GbE ポートで 802.3ab
 - カプセル化フレームに関する Ether II および IEEE 802.3
 - タグ付き VLAN フレームの優先順位のセットアップに関する 802.1p
 - VLAN のタグ付けに関する 802.1Q
 - フロー制御に関する 802.3x
 - ロード・バランシングおよびフェイルオーバーに関する 802.3ad
 - リンク集約に関する IEEE 802.3ad および 802.3
- アダプターは、メッセージ・シグナル割り込み (MSI)、MSI-X、および従来型ピン割り込みのサポートを提供します。
- アダプターは、最大 9.6 KB のジャンボ・フレームをサポートします。
- アダプターは、既存のソフトウェアでギガビット EtherChannel (GEC) をサポートします。
- アダプターは、TCP チェックサム・オフロード TCP プロトコル、ユーザー・データグラム・プロトコル (UDP)、TCP セグメンテーション・オフロード (TSO) (IPv4 および IPv6 用) をサポートします。
- TCP セグメンテーション・オフロードまたは大容量送信オフロードをサポート
- EEPROM-SPI および単一の EEPROM をサポート
- 電気・電子機器に含まれる特定有害物質の使用制限指令 (RoHS 指令) に関する欧州連合指令 2002/95/EC に準拠

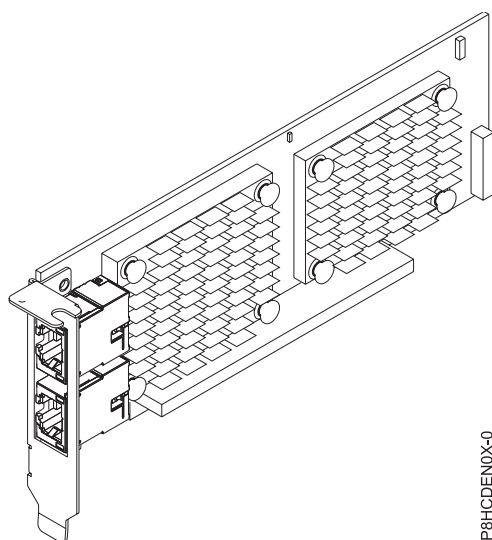


図 30. FC EL3Z アダプター

仕様

項目 説明

アダプターの FRU 番号

00E2714 (RoHS 指令に適合する設計である)

通常の高さのテール・ストックの部品番号: 00E2862

ロー・プロファイルのテール・ストックの部品番号: 00E2721
折り返しプラグ **FRU** 番号
10N7405 (RJ45 折り返しプラグ)

注: 折り返しプラグは、カードに付属しておらず、IBM から購入することはできません。

I/O バス・アーキテクチャー

PCIe2 x8

スロット要件

スロットの優先順位およびインストール規則について詳しくは、PCIe アダプターのインストールの規則とスロットの優先順位 (http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER8/p8eab/p8eab_mtm_pciplacement.htm) を参照し、作業しているシステムを選択してください。

ケーブル

CAT-6A ケーブル

電圧 3.3 V

フォーム・ファクター

Short、ロー・プロファイル

最大数

サポートされるアダプターの最大数について詳しくは、PCIeアダプターのインストールの規則とスロットの優先順位 (http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER8/p8eab/p8eab_mtm_pciplacement.htm) を参照し、作業しているシステムを選択してください。

オペレーティング・システムまたは区画の要件

新しいフィーチャーを取り付ける場合、必ずその新規フィーチャーのサポートに必要なソフトウェアを準備し、そのフィーチャーおよび接続デバイスについて満たす必要のある前提条件があるかどうかを判別してください。前提条件があるか確認するには、IBM Prerequisite Web サイト (www-912.ibm.com/e_dir/eServerPrereq.nsf) を参照してください。

このアダプターは、使用するシステムに応じて、以下のバージョンのオペレーティング・システムでサポートされます。

• Linux

- Red Hat Enterprise Linux バージョン 7 以降 (Red Hat から利用可能な現行のメンテナンス・アップデートを適用)
- Red Hat Enterprise Linux バージョン 6.5 以降 (Red Hat から利用可能な現行のメンテナンス・アップデートを適用)
- SUSE Linux Enterprise Server 11 (Service Pack 3) 以降 (SUSE から利用可能な現行のメンテナンス・アップデートを適用)
- サポートの詳細については、LinuxAlert Web サイト (www14.software.ibm.com/webapp/set2/sas/f/lopdiags/info/LinuxAlerts.html) を参照してください。

• PowerKVM

- IBM PowerKVM 2.1.1 以降

このアダプターには、Linux オペレーティング・システムで以下のドライバーが必要です。

• bnx2x ドライバー

- デバイス・ドライバーまたは iprutils の最新バージョンは、IBM Service and Productivity Tools Web サイト (<http://www14.software.ibm.com/webapp/set2/sas/f/lopdiags/home.html>) からダウンロードできます。

PCIe3 LP 4 ポート (10Gb+1GbE) SR+RJ45 アダプター (FC EN0T; CCIN 2CC3):

フィーチャー・コード (FC) EN0T アダプターの仕様およびオペレーティング・システム要件について説明します。

概説

PCIe3 LP 4 ポート (10Gb+1GbE) SR+RJ45 アダプターは、PCI Express (PCIe) 第 2 世代 (Gen2) x8 のショート・フォーム・ファクター、ロー・プロファイル・アダプターです。このアダプターは、2 個の 10 Gb SR 光ポートと 2 個の 1 Gb RJ45 ポートを提供します。このアダプターは、PCIe 2.0 ホスト・バス・インターフェースを備えています。このアダプターは、イーサネット・ネットワーク・インターフェース・コントローラー (NIC) 機能をサポートします。ネットワーキング・トラフィックを統合する高性能アダプターです。アダプターは、リンク集約およびフェイルオーバーのフィーチャーを備えているので、冗長度および高可用性を必要とする重要なネットワーク・アプリケーションへの使用に適しています。

この 4 ポート・アダプターは、2 個の 10 Gb スモール・フォーム・ファクター・プラグ可能 (SFP+) 光 SR トランシーバー・ポートと 2 個の 1 Gb RJ45 イーサネット・ポートを提供します。2 個の 10 Gb SR ポートは、リトル・コネクタ (LC) 二重タイプ・コネクタを備えています。光トランシーバーは、短波レーザー光学を使用し、LC コネクタ付きの MMF-850nm ファイバー・ケーブルで接続されます。光ケーブルについて詳しくは、43 ページの『ケーブル』を参照してください。各 10 Gb ポートは公称データ速度 10 Gbps (G ビット/秒) のイーサネット接続を提供します。42 ページの図 31 は、FC EN0T アダプターを示しています。

各 1 Gb RJ45 ポートは、データ速度 1 Gbps でイーサネット接続を提供します。それぞれの 1 Gb ポートは、4 対の CAT-5 対より線 (シールドなし) (UTP) ケーブル、またはこれより高い仕様のケーブルで接続され、最大 100 メートルの距離がサポートされます。1 Gb (1000 Mb) ネットワークに加えて、100 Mb ネットワークもサポートされます。

このアダプターは以下のフィーチャーを提供します。

- アダプターは、PCIe3 NIC ネットワーク・コンバージェンス・アダプターです。
- 10 Gb SR ポートは、NIC モードで機能できます。
- アダプターは、ホスト・ローカル・エリア・ネットワーク (LAN) アダプターとして使用できます。
- アダプターは、割り込みの軽減をサポートし、プロセッサの使用率を大幅に削減すると同時にパフォーマンスを向上させます。
- アダプターは、すべての PCIe3 スロットまたは PCIe2 スロットで、デュアル・ポート操作をサポートします。
- アダプターは、オートネゴシエーションをサポートします (全二重のみ)。
- アダプターは、インターフェース当たり複数のメディア・アクセス制御 (MAC) をサポートします。
- アダプターは、統合されたメディア・アクセス制御 (MAC) および物理層 (PHY) をサポートします。
- アダプターは、各種のポートおよび機能について、以下の標準をサポートします。
 - 10 GbE ポートで IEEE 802.3ae
 - 1 GbE ポートで 802.3ab
 - カプセル化フレームに関する Ether II および IEEE 802.3
 - タグ付き VLAN フレームの優先順位のセットアップに関する 802.1p
 - VLAN のタグ付けに関する 802.1Q
 - フロー制御に関する 802.3x

- ロード・バランシングおよびフェイルオーバーに関する 802.3ad
- リンク集約に関する IEEE 802.3ad および 802.3
- アダプターは、メッセージ・シグナル割り込み (MSI)、MSI-X、および従来型ピン割り込みのサポートを提供します。
- アダプターは、最大 9.6 KB のジャンボ・フレームをサポートします。
- アダプターは、既存のソフトウェアでギガビット EtherChannel (GEC) をサポートします。
- アダプターは、TCP チェックサム・オフロード TCP プロトコル、ユーザー・データグラム・プロトコル (UDP)、TCP セグメンテーション・オフロード (TSO) (IPv4 および IPv6 用) をサポートします。
- TCP セグメンテーション・オフロードまたは大容量送信オフロードをサポート
- EEPROM-SPI および単一の EEPROM をサポート
- 電気・電子機器に含まれる特定有害物質の使用制限指令 (RoHS 指令) に関する欧州連合指令 2002/95/EC に準拠

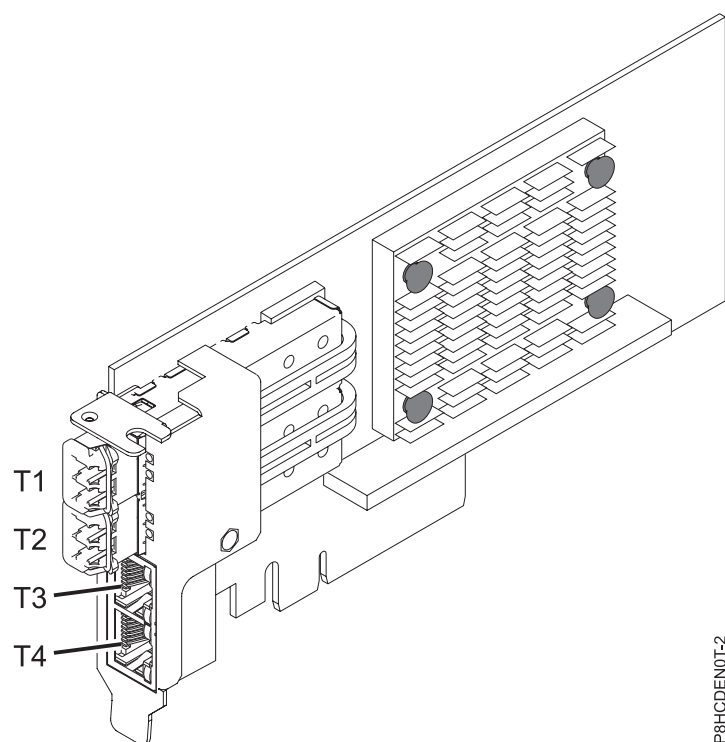


図 31. FC EN0T アダプター

注: AIX® オペレーティング・システムおよび IBM® i オペレーティング・システムの場合、ポートにはアダプターの上から下へ T1、T2 という順で番号が付けられます。

仕様

項目 説明

アダプターの FRU 番号

00E2715 (RoHS 指令に適合する設計である)

ロー・プロファイルのテール・ストックの部品番号: 00E2720

折り返しプラグ FRU 番号

12R9314 (SFP+ SR 折り返しプラグ)

10N7405 (1 Gb UTP 折り返しプラグ)

注: これらの折り返しプラグはカードに付属していません。12R9314 (FC ECW0) は、IBM から購入できる唯一の折り返しプラグです。

I/O バス・アーキテクチャー

PCIe3 x8

スロット要件

スロットの優先順位およびインストール規則について詳しくは、PCIe アダプターのインストールの規則とスロットの優先順位 (http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER8/p8eab/p8eab_mtm_pciplacement.htm) を参照し、作業しているシステムを選択してください。

電圧 3.3 V

フォーム・ファクター

Short、ロー・プロファイル

最大数

サポートされるアダプターの最大数について詳しくは、PCIeアダプターのインストールの規則とスロットの優先順位 (http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER8/p8eab/p8eab_mtm_pciplacement.htm) を参照し、作業しているシステムを選択してください。

ケーブル

以下の仕様に準拠した、短波レーザー用のマルチモード光ファイバー・ケーブルを使用してください。

- OM3 または OM4: マルチモード 50/125 マイクロメートル・ファイバー、2000 MHz x km 帯域幅
- OM2: マルチモード 50/125 マイクロメートル・ファイバー、500 MHz x km 帯域幅
- OM1: マルチモード 62.5/125 マイクロメートル・ファイバー、200 MHz x km 帯域幅

コア・サイズが異なるため、OM1 ケーブルは別の OM1 ケーブルにしか接続できません。最良の結果を得るためには、OM2 ケーブルは OM3 または OM4 ケーブルに接続してはなりません。ただし、OM2 ケーブルを OM3 および OM4 ケーブルに接続した場合は、OM2 ケーブルの特性がケーブルの全長に適用されます。次の表は、リンク・スピードが異なる各種の光ファイバー・ケーブルについて、サポートされる距離を示しています。

表 11. マルチモード光ファイバー・ケーブルのサポートされる距離

見出し	ケーブルのタイプと距離		
速度	OM1	OM2	OM3
10 Gbps	0.5 メートルから 33 メートル	0.5 メートルから 82 メートル	0.5 メートルから 300 メートル

オペレーティング・システムまたは区画の要件

新しいフィーチャーを取り付ける場合、必ずその新規フィーチャーのサポートに必要なソフトウェアを準備し、そのフィーチャーおよび接続デバイスについて満たす必要のある前提条件があるかどうかを判別してください。前提条件があるか確認するには、IBM Prerequisite Web サイト (www-912.ibm.com/e_dir/eServerPrereq.nsf) を参照してください。

このアダプターは、使用するシステムに応じて、以下のバージョンのオペレーティング・システムでサポートされます。

- AIX
 - AIX 7.1 (7100-03 テクノロジー・レベル、Service Pack 3 以降適用)

- AIX 6.1 (テクノロジー・レベル 9、Service Pack 2 以降適用)
- Linux
 - Red Hat Enterprise Linux バージョン 6.5 以降 (Red Hat から利用可能な現行のメンテナンス・アップデートを適用)
 - Red Hat Enterprise Linux バージョン 7 以降 (Red Hat から利用可能な現行のメンテナンス・アップデートを適用)
 - SUSE Linux Enterprise Server バージョン 12 以降
 - SUSE Linux Enterprise Server 11 (Service Pack 3) 以降 (SUSE から利用可能な現行のメンテナンス・アップデートを適用)
 - Ubuntu Server 14.04.3 以降
 - サポートの詳細については、LinuxAlert Web サイト (www14.software.ibm.com/webapp/set2/sas/f/lopdiags/info/LinuxAlerts.html) を参照してください。
- IBM i
 - IBM i は、VIOS でのみサポートされます。

このアダプターには以下のドライバーが必要です。

- AIX: devices.pciex.e4148a1614109304 (SFP+ 光ポートの場合) および devices.pciex.e4148a1614109404 (RJ45 ポートの場合)
- Linux: bnx2x ドライバー
- デバイス・ドライバーまたは iprutils の最新バージョンは、IBM Service and Productivity Tools Web サイト (<http://www14.software.ibm.com/webapp/set2/sas/f/lopdiags/home.html>) からダウンロードできます。

8335-GTB システムのシステム・バックプレーンへの PCIe アダプターの取り付け

システム・バックプレーンに PCIe アダプターを取り付けるには、以下の手順を実行します。

始める前に

システムの電源をオフにし、システムを保守位置に設置します。手順については、55 ページの『内部部品の取り外しおよび再取り付けを行うための 8335-GTB システムの準備』を参照してください。

このタスクについて

PCIe スロットの情報および機能については、24 ページの『8335-GTB システムの PCIe アダプターのインストール規則とスロットの優先順位』を参照してください。

重要: 安全と通気を確保するため、システムから部品を取り外す場合は、以下を確認する必要があります。

- PCIe テール・ストック・フィラーが存在すること
- グラフィックス処理装置 (GPU) 通気トンネルが存在すること

手順

1. 静電気放電 (ESD) リスト・ストラップを取り付けます。

重要:

- 静電気の放電 (ESD) によるハードウェアの損傷を防ぐために、ESD リスト・ストラップを、ご使用のハードウェアの前面の ESD ジャック、背面 ESD ジャック、または塗装されていない金属面に接触させます。
- ESD リスト・ストラップ使用時は、電気機器のすべての安全手順に従います。ESD リスト・ストラップは静電気を制御するために使用するものです。これは、電気機器を使用または電気機器で作業を行う際に、感電するリスクを増大するものでも、低減するものでもありません。
- ESD リスト・ストラップがない場合は、製品を ESD パッケージから取り出して、ハードウェアの取り付けまたは取り替えを行う直前に、システムの塗装されていない金属面に少なくとも 5 秒以上触れてください。

2. PCIe アダプターに適切なスロットを選びます。 図 32を参照してください。

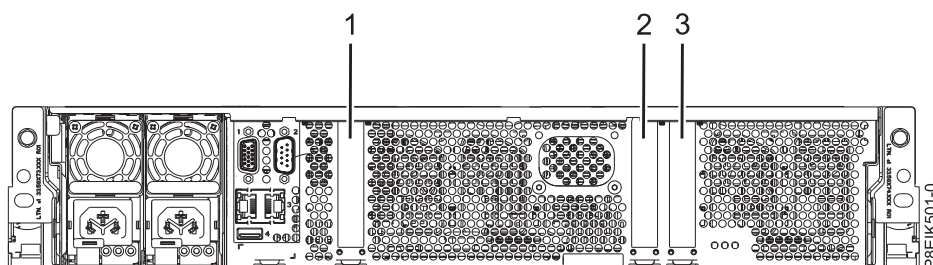
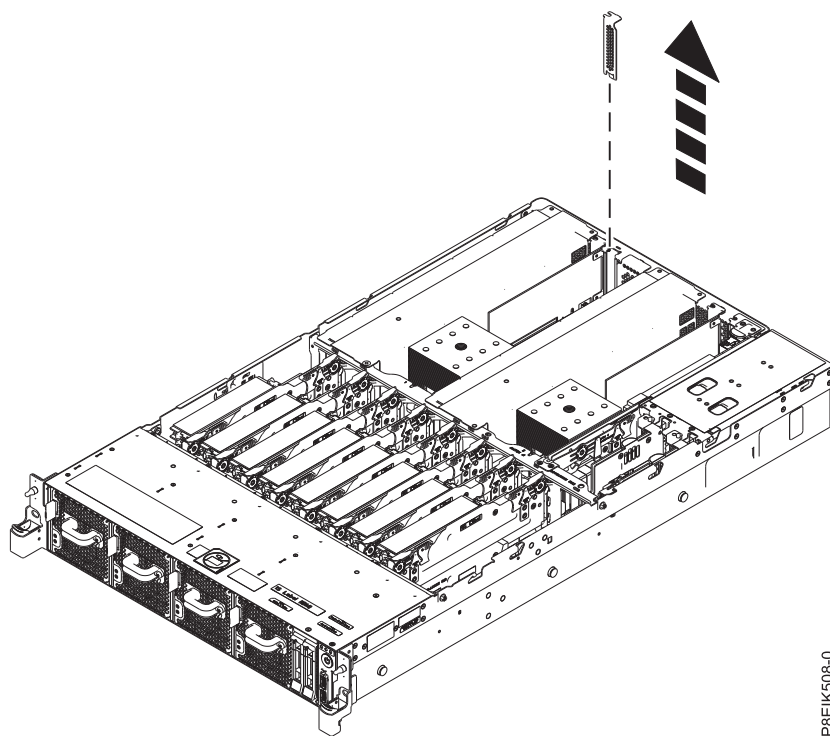


図 32. 示された PCIe スロットを備えた 8335-GTB システムの背面図

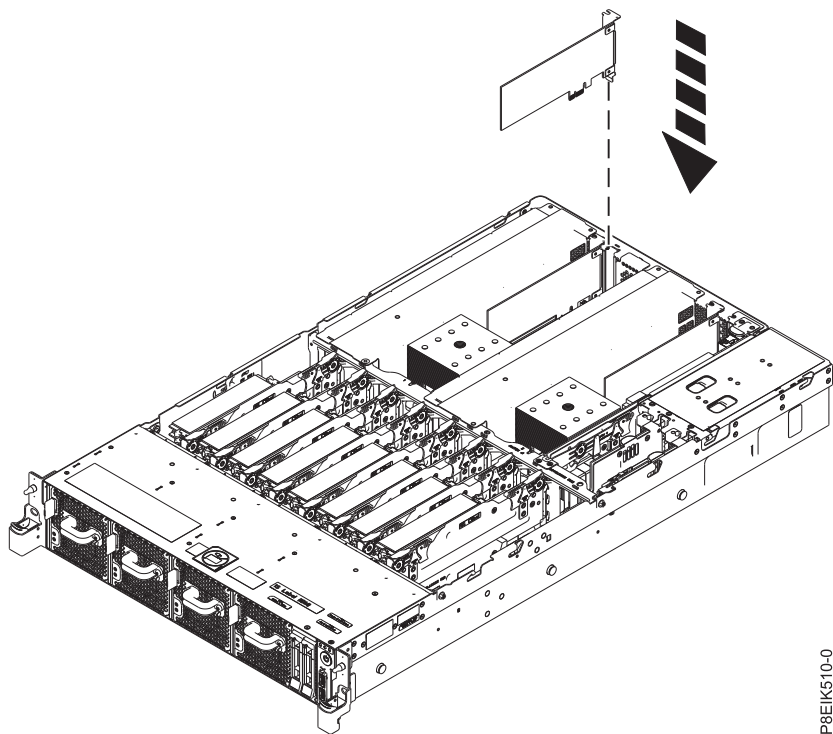
3. PCIe スロット・カバーを取り外します。 46 ページの図 33を参照してください。



P8EIK508-0

図 33. PCIe スロット・カバーの取り外し

4. 必要に応じて、PCIe アダプターから突き出しているプラグにラベルを付けて、取り外します。
5. アダプターを挿入します。正しく位置合わせして、スロットに完全に収めます。 47 ページの図 34を参照してください。長い PCIe アダプター・カードを水冷システムのスロット 2 に差し込む際には、冷却水ホースがアダプター・カードの下に挟まらないように注意してください。冷却水ホースをアダプター・カードの終端の周りに巻きます。



P8EIK510-0

図 34. PCIe アダプターの挿入

6. ラベルを確認して、PCIe アダプターから取り外したプラグを取り替えます。ケーブルを PCIe アダプターに差し込みます。

次のタスク

操作のためにシステムを準備します。手順については、58 ページの『内部部品の取り外しおよび再取り付け後の操作に備えた 8335-GTB システムの準備』を参照してください。

8335-GTB でフィーチャーを保守または取り付ける際の共通手順

IBM Power System S812LC (8335-GTB) システムでのフィーチャーの取り付け、取り外し、および取り替えに関連する共通手順について説明します。

始める前に

フィーチャーおよび部品の取り付け、取り外し、または取り替えの際は、以下の予防措置を行ってください。

このタスクについて

これらの予防措置は、システムの保守を行うために安全な環境を作ることとしており、システムの保守ステップを示すものではありません。取り付け、取り外し、および取り替え手順には、システムの保守に必要なとなる段階的なプロセスが記載されています。

危険: システムまたはその周辺で作業をする場合は、以下の予防措置を確認してください。

電源ケーブルや電話線、通信ケーブルからの電圧および電流は危険です。感電を防ぐために次の事項を守ってください。

- IBM から電源コードが供給されている場合は、その電源コードのみを使用して当装置を電源に接続します。IBM から供給された電源コードは、他の製品には使用しないでください。
- 電源装置アセンブリーを開いたり、保守しないでください。
- 雷雨の間はケーブルの接続や切り離し、または本製品の設置、保守、再構成を行わないでください。
- この製品は複数の電源コードを備えていることがあります。危険な電圧をすべて除去するには、すべての電源コードを取り外してください。
 - AC 電源では、すべての電源コードをそれぞれの AC 給電部から切り離します。
 - DC 電力配分パネル (PDP) 付きのラックでは、PDP へのお客様の DC 電源を切断してください。
- 製品に電源を接続する際には、すべての電源ケーブルが適切に接続されていることを確認します。
 - AC 電源付きのラックでは、すべての電源コードを正しく配線され接地されたコンセントに接続します。電源コンセントから供給される電圧と相回転がシステムの定格銘板に従っていることを確認します。
 - DC 電力配分パネル (PDP) 付きのラックでは、お客様の DC 電源を PDP へ接続します。DC 電源および DC 電源帰線を接続する際に、必ず、適切な極性を使用されていることを確認してください。
- ご使用の製品に接続するすべての装置を、正しく配線されたコンセントに接続してください。
- シグナル・ケーブルの接続または切り離しは可能なかぎり片手で行ってください。
- 火災、水害、または建物に構造的損傷の形跡が見られる場合は、どの装置の電源もオンにしないでください。
- 考えられる危険な状態がすべて修正されるまで、マシンへの電力をオンに切り替えようとししないでください。
- 電気に関する安全上の問題が存在することを前提としてください。サブシステムの取り付け手順時に指定された導通、接地、および電源のチェックをすべて実行して、そのマシンが安全要件を満たしていることを確認してください。
- なんらかの危険な状態が存在する場合は、検査を続行しないでください。
- 装置のカバーを開ける前に、取り付けおよび構成の手順で別途指示されている場合を除き、接続されている AC 電源コードを切り離し、ラック電力配分パネル (PDP) 内の該当する回路ブレーカーの電源をオフにして、すべての通信システム、ネットワーク、およびモデムを切り離します。

危険:

- ご使用の製品または接続されたデバイスの取り付け、移動、またはカバーの取り外しを行う場合には、次の手順に従ってケーブルの接続および取り外しを行ってください。

ケーブルの切り離し手順:

1. すべての電源をオフにします (別に指示される場合を除く)。
2. AC 電源では、コンセントから電源コードを取り外します。
3. DC 電力配分パネル (PDP) 付きのラックでは、PDP 内の回路ブレーカーの電源をオフにして、お客様の DC 電源から電力を除去します。
4. シグナル・ケーブルをコネクタから取り外します。
5. すべてのケーブルをデバイスから取り外します。

ケーブルの接続手順:

1. すべての電源をオフにします (別に指示される場合を除く)。
2. すべてのケーブルをデバイスに接続します。
3. シグナル・ケーブルをコネクタに接続します。
4. AC 電源では、電源コードをコンセントに接続します。
5. DC 電力配分パネル (PDP) 付きのラックでは、お客様の DC 電源からの電力を回復し、PDP 内の回路ブレーカーの電源をオンにします。
6. デバイスの電源をオンにします。

鋭利な先端の部品やジョイントがシステムの中や周囲に存在している可能性があります。機器を取り扱う際には、指を切ったり、こすったり、挟んだりしないように注意してください。(D005)

(R001 パート 2 の 1):

危険: IT ラック・システムやその周辺で作業をする場合は、以下の予防措置を確認してください。

- 重量のある装置の場合、取り扱いを誤ると身体傷害または設備の損傷を引き起こす可能性があります。
- ラック・キャビネットのレベル・パッドは必ず下げてください。
- ラック・キャビネットには必ずスタビライザー・ブラケットを取り付けてください。
- 釣り合いがとれていない機械的荷重による危険な状態を避けるため、最も重いデバイスを常に、ラック・キャビネットの下部に取り付けます。必ず、サーバーおよびオプション・デバイスはラック・キャビネットの下部側から取り付けてください。
- ラック・マウント型デバイスを棚やワークスペースとして使用しないでください。ラックに搭載された装置の上にものを載せないでください。また、ラックに取り付けられた装置に寄りかかったり、身体を安定させるため (はしごから作業を行うときなど) にそれらの装置を使用したりしないでください。



- 各ラック・キャビネットには複数の電源コードが付属していることがあります。
 - AC 電源付きのラックでは、保守作業中に電源を切り離す指示がある場合は、ラック・キャビネット内のすべての電源コードを必ず取り外してください。
 - DC 電力配分パネル (PDP) 付きのラックでは、保守作業中に電源を切断するよう指示された場合、システム装置 (単数または複数) への電力を制御する回路ブレーカーをオフにするか、またはお客様の DC 電源を切断してください。
- ラック・キャビネット内のすべてのデバイスは、同一ラック・キャビネットに取り付けられている電源デバイスに接続します。あるラック・キャビネットに取り付けられているデバイスの電源コードを、別のラック・キャビネットにある電源デバイスに接続しないでください。
- 正しく配線されていない電源コンセントは、システムまたはシステムに接続されたデバイスの金属部品に危険な電圧をかける可能性があります。感電を避けるためにコンセントが正しく配線および接地されていることの確認は、お客様の責任で行ってください。

(R001 パート 2 の 2):

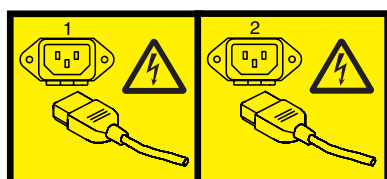
注意:

- ラック内部の温度が、すべてのラック・マウント型デバイスに対する製造者推奨の周辺温度を超えるようなラック内には、装置を取り付けしないでください。
- 空気の流れが妨げられているラック内には、装置を取り付けしないでください。装置内で空気の流れのために使用される装置のいずれかの側面、前面、または背面で、空気の流れが妨げられたり減速されたりしないようにしてください。
- 回路の過負荷によって電源配線や過電流保護が破損しないように、電源回路への機器の接続には十分注意してください。ラックに正しく電源を接続するには、ラック内の機器の定格ラベルで、電源回路の総消費電力を確認してください。
- (引き出し式ドロワーの場合。) ラック・スタビライザー・ブラケットがラックに取り付けられていない場合は、ドロワーまたはフィーチャーを引き出したり、取り付けたりしないでください。一度に複数のドロワーを引き出さないでください。一度に複数のドロワーを引き出すと、ラックが不安定になる可能性があります。

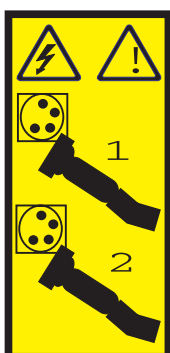


- (固定式ドロワーの場合。) このドロワーは固定ドロワーなので、製造元の指定がない限り、保守のために動かさないでください。 ラックからドロワーの一部または全部を引き出そうとすると、ラックが不安定になったり、ドロワーがラックから落下する可能性があります。

(L003)



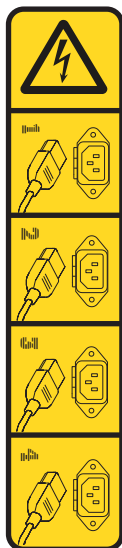
または



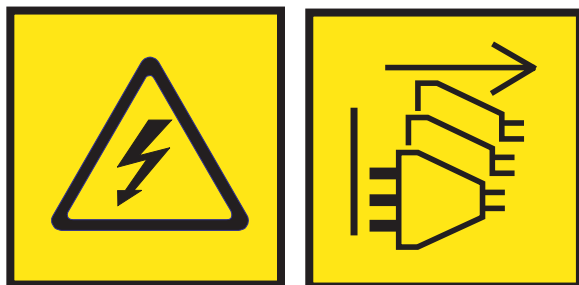
または



または



または



危険: 複数の電源コード。この製品は複数の AC 電源コードや複数の DC 電源ケーブルを備えていることがあります。危険な電圧をすべて除去するために、すべての電源コードと電源ケーブルを切り離してください。(L003)

(L005)



注意: 危険なエネルギーが存在します。人体に危険を及ぼすエネルギーを持つ電圧は、金属とショートした場合に発熱の原因になり、金属が飛び散ったり、やけどを負ったり (あるいはその両方) する可能性があります。(L005)

手順

取り替えまたは取り付け手順を始める前に、これらの作業を行ってください。

1. 新規フィーチャーを取り付ける場合は、そのフィーチャーをサポートするために必要なソフトウェアを必ずインストールしてください。IBM Prerequisite を参照してください。

2. ご使用のデータを危険にさらす可能性がある取り付け手順や取り替え手順を実行する場合は、可能であれば必ず、システムまたは論理区画の現行バックアップ (オペレーティング・システム、ライセンス・プログラム、およびデータを含む) を作成しておいてください。
3. フィーチャーや部品の取り付け手順または取り替え手順を確認します。
4. システムのカラー表示によく注意します。

ハードウェア部品上の青色または赤褐色は、ハードウェアをシステムから取り外したりシステムに取り付けたりするためにつかんでよい場所や、ラッチを開けたり閉じたりするときに触ってよい場所などを示しています。テラコッタ色は、システムや論理区画を電源オンにしたまま、その部品を取り外したり再取り付けしたりできることを示している場合もあります。

5. 中型のマイナス・ドライバー、プラス・ドライバー、およびはさみを用意します。
6. 部品が正しくなかったり、欠落していたり、目に見える損傷があったりした場合は、以下の手順を実行します。
 - 部品を取り替える場合は、サービス・プロバイダー、またはその上のレベルのサポート部門に連絡してください。
 - フィーチャーを取り付ける場合は、次のいずれかのサービス機関に連絡してください。
 - その部品のプロバイダー、またはその上のレベルのサポート部門。
 - 米国: IBM Rochester Manufacturing Automated Information Line (R-MAIL)、電話番号 1-800-300-8751。

詳しくは、貴社担当の IBM 営業担当部員にお問い合わせください。

<http://www.ibm.com/planetwide>

7. 取り付けを行っているときに問題が生じた場合は、サービス・プロバイダー、IBM 販売店、またはその上のレベルのサポート部門に連絡してください。
8. IBM Power System S812LC (8335-GTB) システムでは、熱性能を保つために、稼働時には必ずトップ・カバーを取り付けておいてください。

取り替える部品を含むシステムの識別

交換対象の部品があるエンクロージャーまたはサーバーを判別する方法について説明します。

このタスクについて

部品に問題インディケーター LED が付いていない場合、**impitool** などのトラブルシューティング・プログラムを使用して問題を特定する必要があります。

8335-GTB システム上の LED

この情報は、IBM Power System S812LC (8335-GTB) システム上の LED に関するガイドとして使用してください。

LED はさまざまなシステム状況を示します。これらの LED は、システムの前面 (53 ページの図 35 および 53 ページの図 36 を参照) と背面 (54 ページの図 37 を参照) にあります。

- 緑色の LED は、電源状況を示します。
 - ライトが常時点灯している場合、装置に完全なシステム電源が供給されていることを示します。
 - ライトが明滅している場合、装置にスタンバイ電源が供給されていることを示します。
- オレンジ色の LED はシステムに問題があることを示します。部品が修復された後、オレンジ色の LED がオフになるまでに 1 分かかります。

- 青色の LED は、保守を必要とするシステムを識別します。

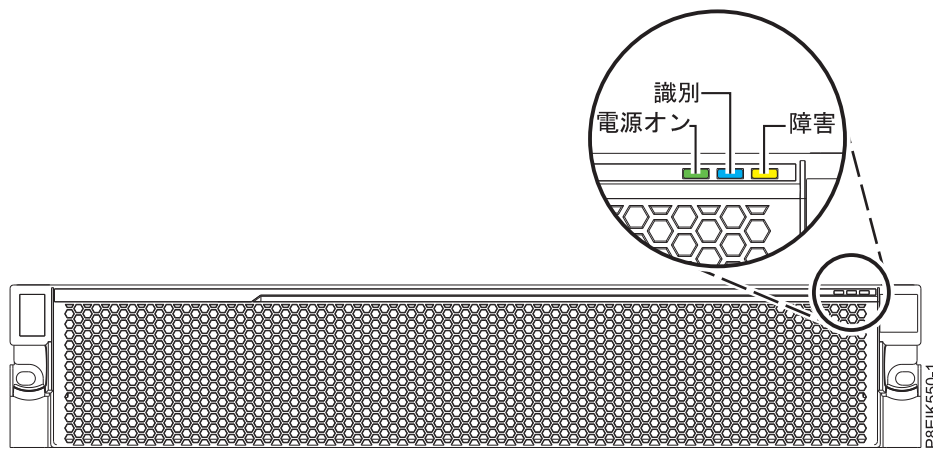


図 35. ベゼルを取り付けた場合の前面 LED

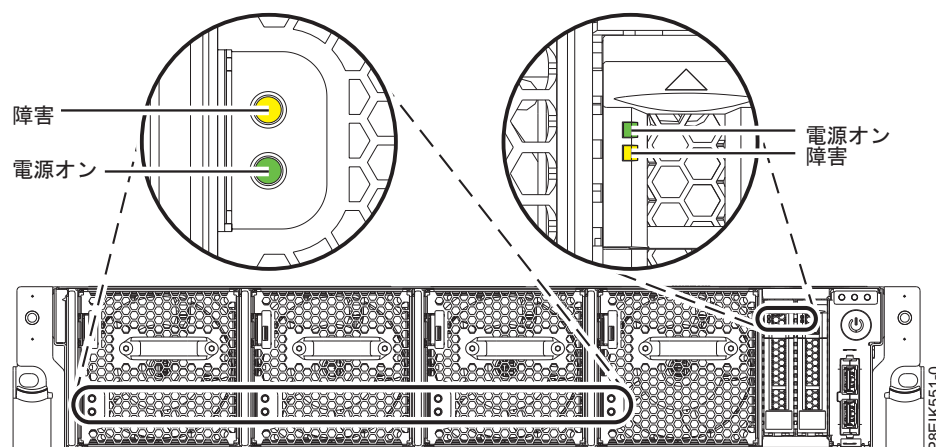


図 36. ベゼルを外した場合の前面 LED

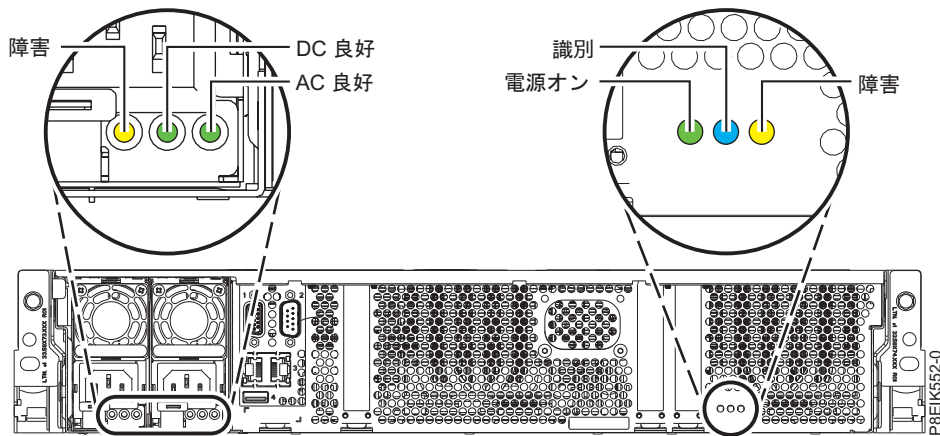


図 37. 背面 LED

LED インディケータは、以下の部品にあります。

- システムの前面:
 - ディスク・ドライブ (緑色の LED はアクティビティが行われていることを示し、オレンジ色の LED は問題があることを示します)
 - ファン (緑色の LED はアクティビティが行われていることを示し、オレンジ色の LED は問題があることを示します)
- システムの背面:
 - バックプレーン (右端の PCIe スロット・ポートの近く): 緑色、オレンジ色、および青色 (前面の電源ボタンの横にあるものと同じ)
 - 電源装置 (2 個の緑色の LED は AC 電源と DC 電源を示し、オレンジ色の LED は問題があることを示します)

保守が必要な 8335-GTB の識別

Intelligent Platform Management Interface (インテリジェント・プラットフォーム管理インターフェース (IPMI)) プログラムを使用すると、青色の識別 LED がオンになり、保守が必要な IBM Power System S812LC (8335-GTB) システムの検出に役立ちます。

手順

ipmitool コマンドを使用して青色のシステム識別 LED をアクティブにします。
インバンド・ネットワークの場合、シャーシ識別コマンドは次のとおりです。

```
ipmitool -I <interface> chassis identify <interval>
```

ここで、

interface

システムへの接続に使用しているインターフェース (usb など) です。

interval

識別 LED がオンになっている時間 (秒数) です。デフォルトは 15 秒、つまり、LED は 15 秒間オンになった後、オフになります。値をゼロ (0) にすると、LED はオフになります。値を force にすると、LED がオンになり、オフにするまでオンのままです。

LAN を介してこのコマンドをリモートから実行する場合、入力するシャーシ識別コマンドは次のとおりです。

```
ipmitool -I lanplus -H <hostname> -U <username> -P <password> chassis identify <interval>
```

内部部品の取り外しおよび再取り付けを行うための **8335-GTB** システムの準備

内部部品の取り外しおよび再取り付けを行うために IBM Power System S812LC (8335-GTB) システムを準備するには、以下の手順を実行します。

手順

1. 前提条件の作業を実行します。手順については、 47 ページの『始める前に』を参照してください。
2. 作業を行う部品およびシステムを識別します。手順については、 52 ページの『取り替える部品を含むシステムの識別』を参照してください。
3. 必要な場合は、ラックの前面ドアを開きます。
4. 静電気放電 (ESD) リスト・ストラップを取り付けます。

重要:

- 静電気の放電 (ESD) によるハードウェアの損傷を防ぐために、ESD リスト・ストラップを、ご使用のハードウェアの前面の ESD ジャック、背面 ESD ジャック、または塗装されていない金属面に接触させます。
 - ESD リスト・ストラップ使用時は、電気機器のすべての安全手順に従います。ESD リスト・ストラップは静電気を制御するために使用するものです。これは、電気機器を使用または電気機器で作業を行う際に、感電するリスクを増大するものでも、低減するものでもありません。
 - ESD リスト・ストラップがない場合は、製品を ESD パッケージから取り出して、ハードウェアの取り付けまたは取り替えを行う直前に、システムの塗装されていない金属面に少なくとも 5 秒以上触れてください。
5. 前面カバーを取り外します。手順については、 64 ページの『8335-GTB システムからの前面カバーの取り外し』を参照してください。

(L007)

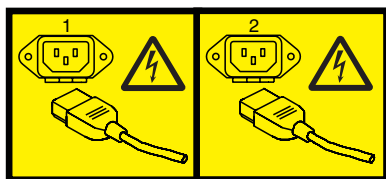


注意: 近くに高温になる部品が存在します。(L007)

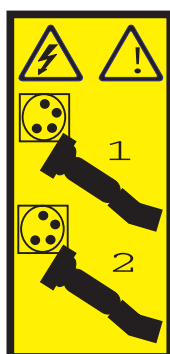
6. システムを停止します。手順については、 59 ページの『8335-GTB システムの停止』を参照してください。
7. 該当する場合は、システムの背面にあるラック・ドアを開きます。
8. システムのプラグを抜いて、システムの電源を切り離します。手順については、 71 ページの『8335-GTB システムからの電源コードの切り離し』を参照してください。

注: システムには、電源装置がもう 1 つ装備されている場合があります。この手順を続行する前に、システムの電源がすべて切り離されていることを確認してください。

(L003)



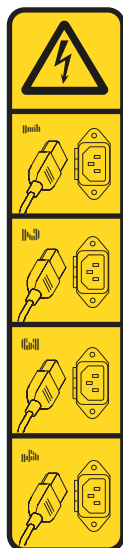
または



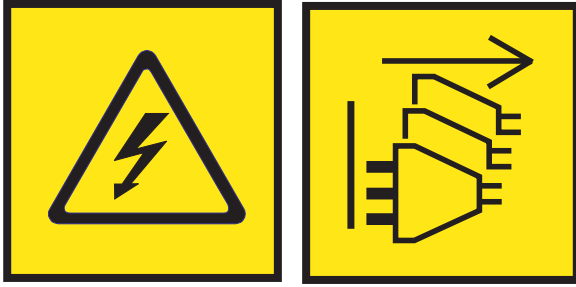
または



または



または



危険: 複数の電源コード。この製品は複数の AC 電源コードや複数の DC 電源ケーブルを備えていることがあります。危険な電圧をすべて除去するために、すべての電源コードと電源ケーブルを切り離してください。(L003)

(L005)



注意: 危険なエネルギーが存在します。人体に危険を及ぼすエネルギーを持つ電圧は、金属とショートした場合に発熱の原因になり、金属が飛び散ったり、やけどを負ったり (あるいはその両方) する可能性があります。(L005)

9. 2 つの電源装置をシステムから取り外します。手順については、69 ページの『8335-GTB からの電源装置の取り外し』を参照してください。
10. システムを保守位置に置きます。手順については、65 ページの『8335-GTB システムの保守位置への設置』を参照してください。

注意:

ラックに装着された装置を棚として使用する場合を除いて、ラックに装着された装置の上には物を置かないでください。(R008)

(L012)



または

注意: 挟まれる危険の表示。(L012)

11. 保守アクセス・カバーを取り外します。手順については、62 ページの『8335-GTB システムからの保守アクセス・カバーの取り外し』を参照してください。

内部部品の取り外しおよび再取り付け後の操作に備えた **8335-GTB** システムの準備

内部部品の取り外しおよび再取り付け後の操作のために IBM Power System S812LC (8335-GTB) システムを準備するには、以下の手順を実行します。

手順

1. 静電気放電 (ESD) リスト・ストラップが取り付けであることを確認します。取り付けられていない場合は、ここで取り付けてください。
2. 保守アクセス・カバーを再度取り付けます。手順については、63 ページの『8335-GTB システムへの保守アクセス・カバーの取り付け』を参照してください。
3. システムを操作位置に置きます。手順については、67 ページの『8335-GTB システムの操作位置への設置』を参照してください。

(L012)



または



注意: 挟まれる危険の表示。(L012)

重要: 水冷システムの場合は、システムの電源をオンにする前に、冷却水がシステム内を循環していることを確認します。

4. 両方の電源装置をシステムに取り付けます。手順については、70 ページの『8335-GTB の電源装置の取り替え』を参照してください。
5. 電源コードをシステムに再接続します。手順については、73 ページの『8335-GTB システムへの電源コードの接続』を参照してください。
6. 該当する場合は、システムの背面にあるラック・ドアを閉じます。
7. システムを始動します。手順については、『8335-GTB システムの始動』を参照してください。
8. 前面カバーを再度取り付けます。手順については、65 ページの『8335-GTB システムへの前面カバーの取り付け』を参照してください。
9. 該当する場合は、ラックの前面ドアを閉じます。
10. 取り付け済み部品を検査します。修復の検証 (www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER8//p8ei3/p8ei3_verifyrepair.htm) を参照してください。

8335-GTB の始動と停止

サービス・アクションまたはシステム・アップグレードを行うために IBM Power System S812LC (8335-GTB) システムを始動および停止する方法について説明します。

8335-GTB システムの始動

電源ボタンを使用して、IBM Power System S812LC (8335-GTB) システムを始動します。

このタスクについて

重要: 安全と通気を確保し、熱性能を保つために、システムの電源をオンにする前に、保守アクセス・カバーを取り付け、完全に固定しておく必要があります。

重要: 水冷システムの場合は、システムの電源をオンにする前に、冷却水がシステム内を循環していることを確認します。

この手順を使用して、システムの電源をオンにすることができます。あるいは、コンソールと IPMI ツールを使用して、システムの電源をオンにすることもできます。

手順

1. 必要であれば、ラックの前面ドアを開きます。
2. 電源ボタンを押す前に、電源装置がシステム装置に接続されていることを確認し、以下の項目を検証します。
 - すべてのシステム電源ケーブルが電源に接続されている。
 - 電源オン LED (図 38 を参照) が明滅している。ライトが明滅している場合、装置にスタンバイ電源が供給されていることを示します。
3. 図 38 に示す電源ボタンを押します。 パワーオン表示ライトが明滅を停止して点灯したまになり、システムの電源がオンになったことを示します。システムの冷却ファンが高速で作動し、約 30 秒後に運転速度に戻ります。

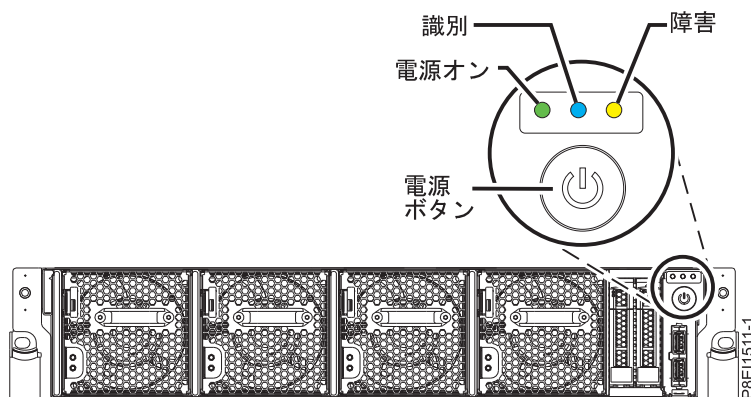


図 38. 電源ボタン

次のタスク

電源ボタンを押してもシステムが始動しない場合は、次のレベルのサポートまたはサービス・プロバイダーにお問い合わせください。

8335-GTB システムの停止

別の作業を実行するために IBM Power System S812LC (8335-GTB) システムを停止する方法について説明します。

手順

システムの停止およびパワーダウンを行う場合は、Linux の **shutdown** コマンドを使用できます。例えば、以下のコマンドを実行すると、システムが 10 分以内にシャットダウンし、ユーザーに「Repairs coming」というメッセージが送信されます。

```
shutdown -P +10 "Repairs coming."
```

設定 -P は、シャットダウンしてからパワーダウンするようにシステムに指示します。+ は、シャットダウンが発生するまでの分単位の時間を示します。

イベント・センサー状況 GUI 画面

イベント・センサー状況 GUI 画面を使用すると、詳細なシステム・イベント・ログ (SEL) 情報を見なくても、サーバーの一般的なヘルス状況を素早く判別できます。

イベント・センサー状況 GUI 画面を表示するには、BMC Web インターフェースにログインします。最初のページ (ダッシュボード) にセンサーと値が表示されます。

システム内で発生したエラーの一部は、イベント・センサー GUI に表示されないことがあります。イベント・センサー状況 GUI 画面を表示した後に、SEL ログを使用して、サービス・アクション・イベントを示すアクティブな SEL イベントを表示します。

イベント・センサー状況画面の操作

大部分のセンサーは、初期にはぼかし表示です。その後、ブート・プロセス中に FRU が初期化され、良好 (緑) であるか障害がある (赤) かが判別されて、状況と色が変化します。センサー画面は、BMC でセンサー画面の選択に到達できるようになるまでは、つまり、システムがある一定の電力レベルに達するか BMC が初期化を終了するまでは、使用できません。センサーのインジケーターの色は、画面の呼び出し時におけるセンサー状況に基づいて決定されます。センサー画面では、画面が最新表示されてセンサー値が最新の状況で更新されるまで、センサー状況インジケーターの色が保持されます。SEL イベントに変更があった場合、ユーザーが画面を最新表示するか画面を再開したときに、センサー・インジケーターの色が変更されます。センサー状況表示は、61 ページの表 12 に示されているとおり、いくつかの例外はあるものの、リブートまたは電源サイクルによってもやり直しになります。

イベント・センサー状況インジケーターの説明

グレーのインジケーター:

- FRU が差し込まれていない
- センサーが初期化されていない
- センサー機能が初期化されていない

赤 (障害) のインジケーター:

- クリティカルしきい値を超えた (イベントでサービス・アクションが必要)
- ハードウェア障害のためにサービス・アクションが必要
- 「サービス・アクションが必要」な状態に到達した部分的な機能障害
- 構成解除済みリソースにサービス・アクションが必要

緑 (良好) のインジケーター:

- FRU またはセンサーが差し込まれており、完全に機能している

- リカバリー可能イベントが「サービス・アクションが必要」なクリティカルしきい値を下回っている
- FRU またはセンサーが (しきい値センサーの)「正常」な操作範囲に戻った

ブート・プロセス中のセンサーの状態値

操作の主要なステージ。

初期の電源オンから **BMC** 作動可能状態まで

このステージでは、一部のインジケータ値に物理センサーの状況が反映されない場合があります。一部の事例では、センサーが初期化されていないために状態を取得できません。その場合、センサーの色はグレーです。別の事例（「ホスト・ブート」センサーに関連する場合が一般的）では、センサーの値はシステムが操作可能だったときの状態を示します。これらのセンサーは、システムが **Petitboot** の操作ステージに到達して画面が最新表示されると、更新されて現在の状況を示します。表 12 は、影響を受けたインジケータを示しています。

BMC 作動可能状態から **PetitBoot** 操作状態またはホスト稼働状態まで

システムが **Petitboot** メニュー・ステージに到達し、ユーザーが画面を最新表示すると、すべてのインジケータの操作状態が反映されます。

表 12. システム操作の各ステージにおけるセンサーと値

センサー名	BMC 作動可能の時点での値	Petitboot 以降の時点での値
Mem Buf Temp x (x = 0 - 7)	使用不可	現行
CPUx Temp (x = 0 - 1)	使用不可	現行
CPU Core Temp x (x = 0 - 23)	使用不可	現行
DIMMx Temp (x = 0 - 31)	使用不可	現行
GPU Temp x (x = 1 - 4)	使用不可	現行
CPU Diode x (x = 1 - 2)	現行	現行
Ambient Temp	現行	現行
CPU VDD Volt	使用不可	現行
CPU VDD Current	使用不可	現行
Fan x (x = 0 - 5)	使用不可	現行
Mem Buf Func x (X = 0 - 7)	前の IPL からのもの	現行
DIMM Func x (x = 0 - 31)	前の IPL からのもの	現行
GPU Func x (x = 1 - 4)	使用不可	現行
CPU Core Func x (x = 0 - 23)	前の IPL からのもの	現行
CPU Func x (X = 0 - 1)	前の IPL からのもの	現行
Checkstop	現行	現行
Quick Power Drop	現行	現行
OCC x Active (x = 1 - 2)	現行	現行
PSU Fault x (x = 1 - 2)	現行	現行
All Pgood	現行	現行
FW Boot Progress	前の IPL からのもの	現行
Host Status	現行	現行
Watchdog	前の IPL からのもの	現行
System Event	前の IPL からのもの	現行
OS Boot	前の IPL からのもの	現行

表 12. システム操作の各ステージにおけるセンサーと値 (続き)

センサー名	BMC 作動可能の時点での値	Petitboot 以降の時点での値
PCI	前の IPL からのもの	現行
Mem ProcX Pwr (x = 0 - 3)	使用不可	現行
Procx Power (x = 0 - 1)	使用不可	現行
PCIE Procx Pwr (x = 0 - 1)	使用不可	現行
Fan Power A (Fan Power)	使用不可	現行
Mem Cache Power	使用不可	現行
12V Sense	使用不可	該当する場合は現行
GPU Sense (GPU Power)	使用不可	現行
IO (A-B) Power	前の IPL からのもの	現行
Storage Power (A-B)	前の IPL からのもの	現行
Motherboard Flt	前の IPL からのもの	現行
Ref Clock Fault	前の IPL からのもの	現行
PCI Clock Fault	前の IPL からのもの	現行
TOD Clock Fault	前の IPL からのもの	現行
APSS Fault	前の IPL からのもの	現行
BMC Golden Side	現行	現行
BIOS Golden Side	現行	現行
Boot Count	現行	現行
Activate Pwr Lt	前の IPL からのもの	現行
PS Derating Fac	現行	現行
NxtPwr Redundant	現行	現行
CurPwr Redundant	現行	現行
System Power	適用外	該当する場合は現行
Freq Limit OT x (x = 1 - 2)	現行	該当する場合は現行
Freq Limit Pwr x (x = 1 - 2)	現行	該当する場合は現行
CPU x VDD Temp (x = 1 - 2)	適用外	該当する場合は現行

8335-GTB システムでのカバーの取り外しおよび再取り付け

ハードウェア部品にアクセスしたり、システムの保守を行ったりできるように、IBM Power System S812LC (8335-GTB) システムのカバーの取り外しおよび再取り付けを行う方法について説明します。

8335-GTB システムからの保守アクセス・カバーの取り外し

IBM Power System S812LC (8335-GTB) システムから保守アクセス・カバーを取り外す方法について説明します。

手順

1. 両方の電源装置をシステムから取り外してあることを確認します。手順については、69 ページの『8335-GTB からの電源装置の取り外し』を参照してください。

(L005)



注意: 危険なエネルギーが存在します。人体に危険を及ぼすエネルギーを持つ電圧は、金属とショートした場合に発熱の原因になり、金属が飛び散ったり、やけどを負ったり (あるいはその両方) する可能性があります。 (L005)

2. システムの背面で、カバーをシャーシに固定しているカバーねじ (A) を緩めます。

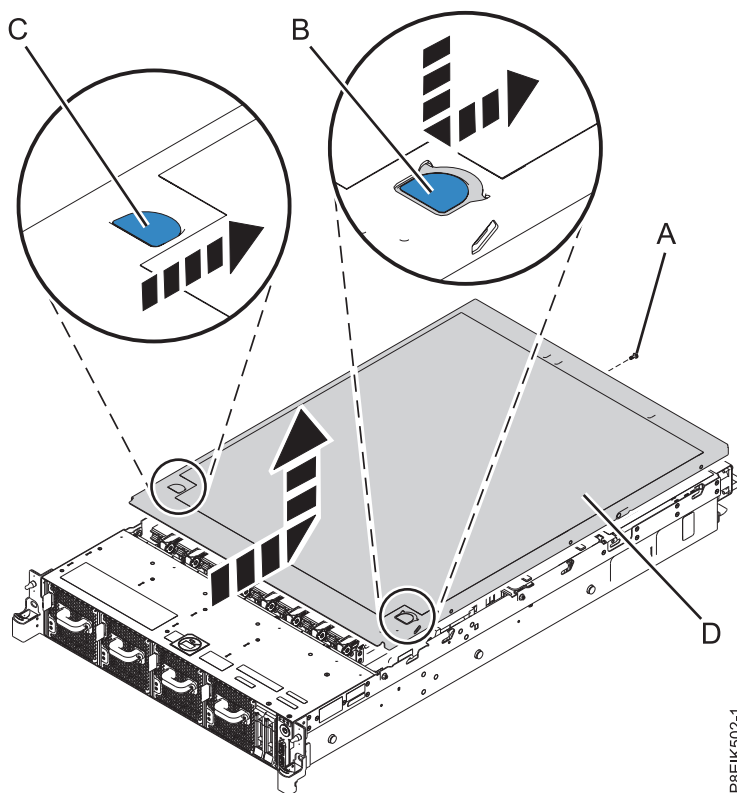


図 39. カバーの取り外し

3. ラッチ (B) とタッチポイント (C) を押し下げながら、カバー (D) をシステム装置の後部側にスライドさせます。保守アクセス・カバーの前面が上部フレームの突起を過ぎたら、カバーを持ち上げてシステム装置から外します。

重要: 冷却と通気を適切に保つために、システムの電源をオンにする前にカバーを元の位置に戻してください。

8335-GTB システムへの保守アクセス・カバーの取り付け

ラック・マウント型 IBM Power System S812LC (8335-GTB) システムに保守アクセス・カバーを取り付ける方法について説明します。

このタスクについて

重要: 安全と通気を確保し、熱性能を保つために、システムの電源をオンにする前に、保守アクセス・カバーを取り付け、完全に固定しておく必要があります。

手順

1. カバーの位置合わせピンがシャーシのスロットにそろうように、カバー **(A)** をシステム装置の上に位置付けます。カバーをシステムの前面側へ、青色のリリース・ラッチ **((B))** が所定の位置にロックされるまでスライドさせます (図 40 を参照)。
2. カバーの背面で、カバーのねじ **(C)** を締めます。

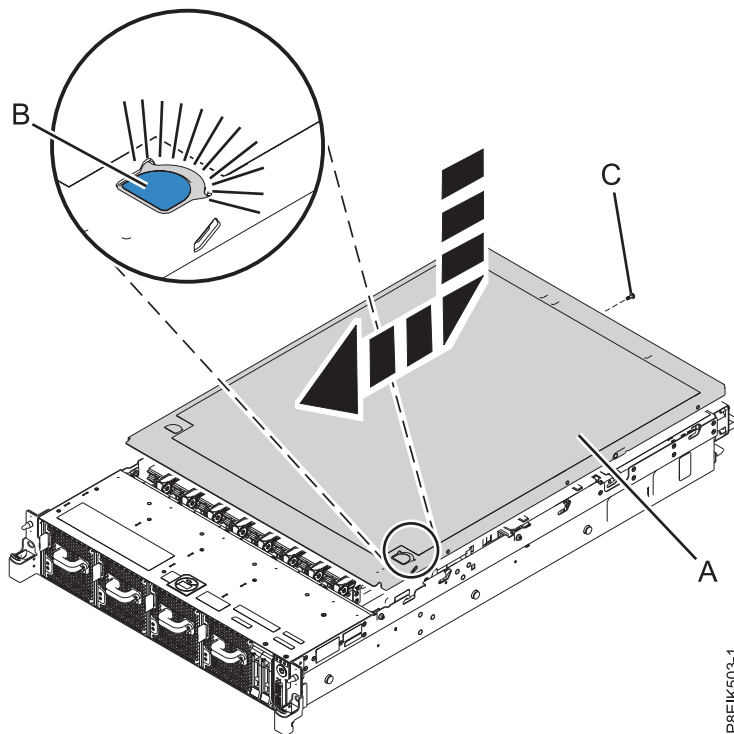


図 40. カバーの取り付け

8335-GTB システムからの前面カバーの取り外し

コンポーネントにアクセスしたり、システムの保守を行ったりできるように、IBM Power System S812LC (8335-GTB) システムからカバーを取り外す方法について説明します。

手順

1. 必要に応じて、ラックの前面ドアを開きます。
2. 静電気放電 (ESD) リスト・ストラップが取り付けられていることを確認します。取り付けられていない場合は、ここで取り付けてください。
3. 該当する場合は、カバーの両側にあるねじを取り外し、システム装置からカバーを外します。
4. カバーをシステムから引き離します。

8335-GTB システムへの前面カバーの取り付け

コンポーネントにアクセスした後、またはシステムを保守した後に、IBM Power System S812LC (8335-GTB) システムに前面カバーを取り付ける方法について説明します。

手順

1. 静電気放電 (ESD) リスト・ストラップが取り付けられていることを確認します。取り付けられていない場合は、ここで取り付けてください。
2. システム上のピンがカバー背面の穴に合うように、システム装置の前面にカバーを位置付けます。
3. システム装置にカバーを押しつけて、ピンを穴に通し、カバーを所定の位置にしっかり収めます。
4. 該当する場合は、カバーの両側にねじを再取り付けして、システムをラックに固定します。
5. ラックの前面ドアを閉じます。

8335-GTB の保守位置と操作位置

IBM Power System S812LC (8335-GTB) システムを保守位置または操作位置に設置する方法について説明します。

8335-GTB システムの保守位置への設置

IBM Power System S812LC (8335-GTB) システムを保守位置に設置する方法について説明します。

このタスクについて

ご使用のシステムに適切なタイプのレールを選びます。

- 『スライド・レール』
- 66 ページの『固定レール』

スライド・レール:

システムがスライド・レールを使用して取り付けられている場合は、この手順を使用してください。

始める前に

注:

- システムを保守位置に置く場合は、ラックが倒れないようにすべての安定プレートがしっかり取り付けられていることを確認する必要があります。必ず、一度に 1 つのシステム装置のみを保守位置にしてください。
- ラック内のシステム装置を引き出す際に、システム背面のケーブルが引っ掛かったり巻きついたりしていないことを確認してください。
- スライド・レールが完全に伸びきると、レール安全ラッチがロックされます。これにより、システムを引き出し過ぎることが防止されます。

手順

1. システムの両側にある、システムをラックに固定しているねじを取り外します。
2. システム装置をラックに固定している前面ラッチ **(A)** を押し下げます。

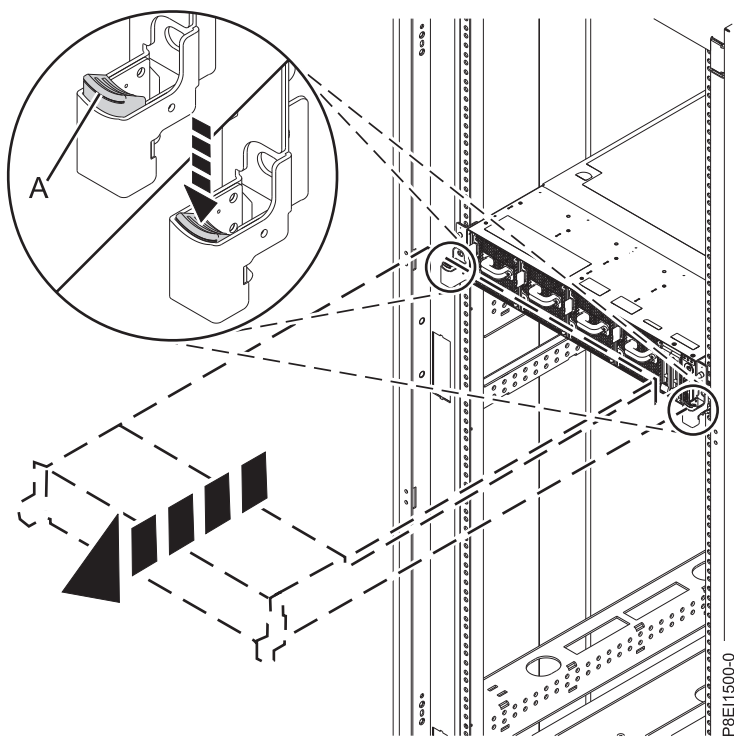


図 41. システムの保守位置への設置

3. システム装置をラックから引き出します。

固定レール:

システムが固定レールを使用して取り付けられている場合は、この手順を使用してください。

始める前に

注意:

このシステムでは、ラックからシステムを取り外すのに 2 人の人員が必要です。システムをラックから取り外すための物理的支援が用意されていない限り、この手順を開始しないでください。

注: システムを保守位置に置く場合は、ラックが倒れないようにすべての安定プレートがしっかり取り付けられていることを確認する必要があります。必ず、一度に 1 つのシステム装置のみを取り外してください。

手順

1. システム装置の背面のケーブルにラベルを付けて切り離します。
2. 水冷システムの場合、マニフォールドの位置で冷却水ホースにラベルを付け、ホースを切り離します。連結部を手前に引いて、冷却水ホースを切り離してください(67 ページの図 42 を参照)。

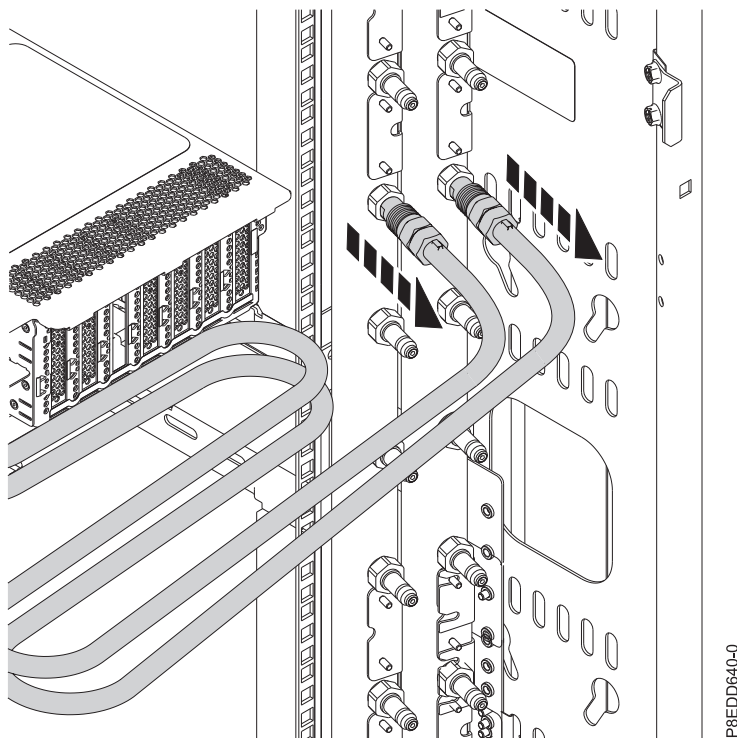


図 42. 冷却水ホースの切り離し

3. システムの両側にある、システムをラックに固定しているねじを取り外します。
4. システムの前面の重量を 1 人が支えている間に、2 人目をシステムの背面に移動させて、システムの一部をラックから引き出します。
5. システムの左側と右側にそれぞれ 1 名ずつ配置します。
6. システムを斜めにして、レールから持ち上げます。
7. システムを、ESD 表面のあるテーブル上に慎重に置きます。

8335-GTB システムの操作位置への設置

IBM Power System S812LC (8335-GTB) システムを操作位置に設置する方法について説明します。

このタスクについて

ご使用のシステムに適切なタイプのレールを選びます。

- 『スライド・レール』
- 68 ページの『固定レール』

スライド・レール:

システムがスライド・レールを使用して取り付けられている場合は、この手順を使用してください。

始める前に

システムを操作位置に設置する場合、システム装置をラック内へ押し戻す際に、システム背面のケーブルが引っ掛かったり巻きついたりしていないことを確認してください。

手順

1. 青色のレール安全ラッチ (A) を上方に持ち上げて、アンロックします。
2. システム装置の位置を合わせてレールに載せ、両方のリリース・ラッチが所定の位置にロックされるまでラック内でシステム装置を後方に押し込みます。図 43 を参照してください。

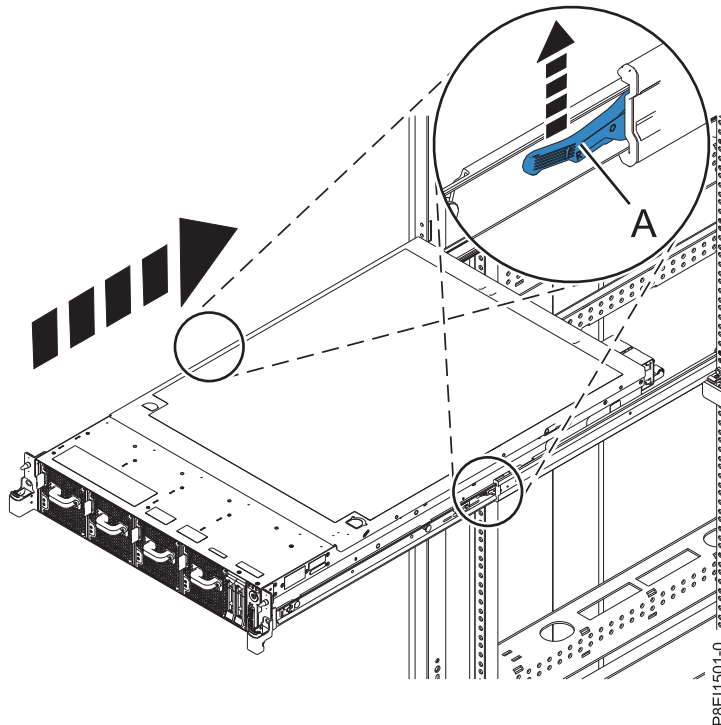


図 43. システムの操作位置への設置

3. システムをラックに固定するねじをシステムの両側に再取り付けします。

固定レール:

システムが固定レールを使用して取り付けられている場合は、この手順を使用してください。

始める前に

注意:

このシステムでは、ラックにシステムを再取り付けするのに 2 人の人員が必要です。システムをラックに再取り付けするための物理的支援が用意されていない限り、この手順を開始しないでください。

注: システムを操作位置に置く場合は、ラックが倒れないようにすべての安定プレートがしっかり取り付けられていることを確認する必要があります。必ず、一度に 1 つのシステム装置のみを再取り付けしてください。

手順

1. システムの左側と右側にそれぞれ 1 名ずつ配置します。
2. システムを持ち上げます。
3. システムを斜めにして、固定ラック・レールの向こう側の所定の位置に入れます。
4. システムの背面がレールに乗るまで、システムを慎重に下げます。

5. システムの重量を 1 人が支えている間に、2 人目をシステムの前面に移動させて、システムをラックに押し込みます。
6. ラベルを確認して、システム装置の背面のケーブルを再接続します。
7. 水冷システムの場合、ラックの背面で冷却水ホースをマニフォールドに接続します (図 44 を参照)。オスのホースをメスのマニフォールド・プラグに差し込み、メスのホースをオスのマニフォールド・プラグに差し込んであることを確認します。

重要: システムの電源をオンにする前に、冷却水がシステム内を循環していることを確認します。

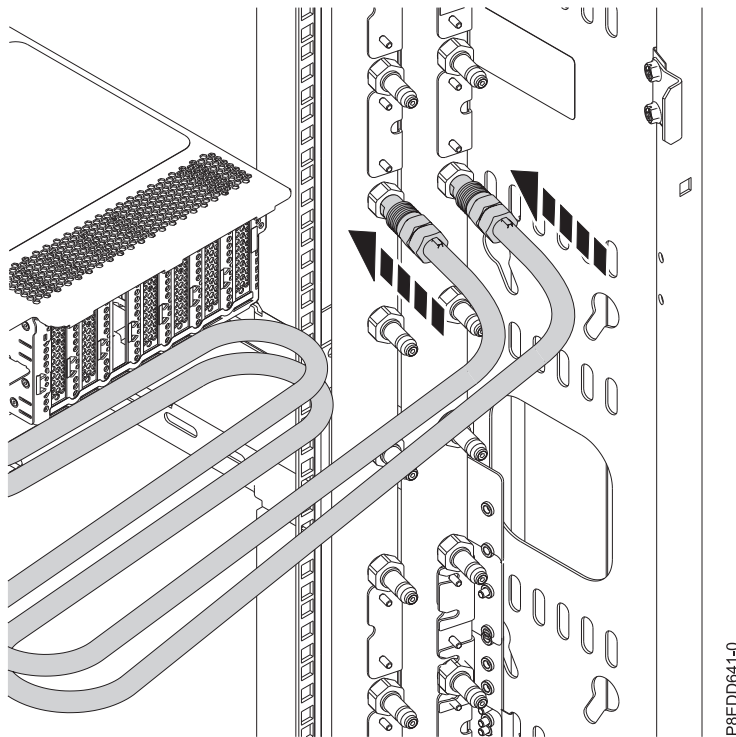


図 44. 冷却水ホースの接続

8. システムをラックに固定するねじをシステムの両側に再取り付けします。

8335-GTBの電源装置の取り外しおよび再取り付け

IBM Power System S812LC (8335-GTB) システムの電源装置の取り外しおよび再取り付けについて説明します。

8335-GTB からの電源装置の取り外し

IBM Power System S812LC (8335-GTB) システムの電源装置の取り外しについて説明します。

手順

1. 静電気放電 (ESD) リスト・ストラップを取り付けます。

重要:

- 静電気の放電 (ESD) によるハードウェアの損傷を防ぐために、ESD リスト・ストラップを、ご使用のハードウェアの前面の ESD ジャック、背面 ESD ジャック、または塗装されていない金属面に接触させます。
 - ESD リスト・ストラップ使用時は、電気機器のすべての安全手順に従います。ESD リスト・ストラップは静電気を制御するために使用するものです。これは、電気機器を使用または電気機器で作業を行う際に、感電するリスクを増大するものでも、低減するものでもありません。
 - ESD リスト・ストラップがない場合は、製品を ESD パッケージから取り出して、ハードウェアの取り付けまたは取り替えを行う直前に、システムの塗装されていない金属面に少なくとも 5 秒以上触れてください。
2. システムを停止します。 手順については、 59 ページの『8335-GTB システムの停止』を参照してください。
 3. 取り外す電源装置の電源ケーブルにラベルを付けて、電源装置から取り外します。 手順については、 71 ページの『8335-GTB システムからの電源コードの切り離し』を参照してください。
 4. システムから電源装置を取り外します。
 - a. システム内の所定の位置から電源装置を取り外すには、赤褐色のロッキング・タブ (A) を引き上げます。図 45を参照してください。
 - b. 電源装置のハンドルを片方の手でつかみ、システムから電源装置 (B) を途中まで引き出します。
 - c. もう片方の手を電源装置の下に添え、電源装置をシステムから引き出して ESD マットの上に置きます。

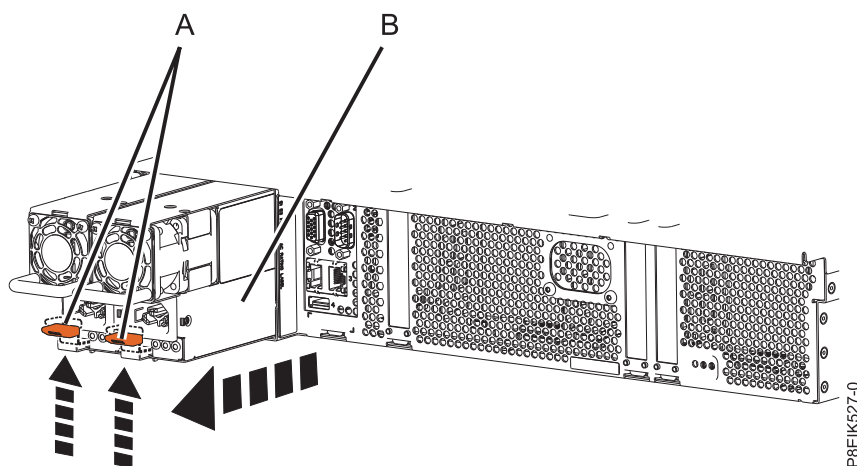


図 45. システムから電源装置を取り外す

8335-GTB の電源装置の取り替え

IBM Power System S812LC (8335-GTB) システムの電源装置の取り替えについて説明します。

手順

1. 静電気放電 (ESD) リスト・ストラップが取り付けられていることを確認します。取り付けられていない場合は、ここで取り付けてください。
2. 電源装置 (A) をベイに位置合わせし、赤褐色のラッチ (B) が所定の位置にロックされるまで、電源装置をスライドさせてシステムに押し込みます。図 46 を参照してください。

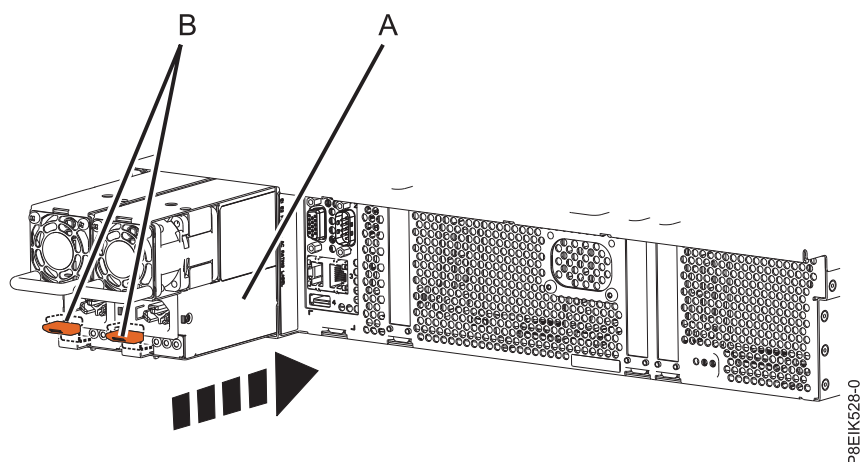


図 46. システムの電源装置の取り替え

3. 電源コードを再接続します。手順については、73 ページの『8335-GTB システムへの電源コードの接続』を参照してください。
4. システムを始動します。手順については、58 ページの『8335-GTB システムの始動』を参照してください。

電源コード

IBM Power System S812LC (8335-GTB) システムの電源コードの切り離しと接続の方法について説明します。

8335-GTB システムからの電源コードの切り離し

電源コードを IBM Power System S812LC (8335-GTB) システムから切り離す方法について説明します。

手順

1. 保守対象のシステム装置の背面のラック・ドアを開きます。
2. ラック内で保守対象のシステム装置を識別します。
3. 電源コードにラベルを付け、電源装置ハンドルから切り離します。電源コードを電源装置のハンドルに留めている面ファスナーを外します。電源コードがどのようにループしているかに注意してください。電源コードを再接続するときに、同じループにする必要があります。2 つのタイプのループを使用します (詳しくは、72 ページの図 47 および 72 ページの図 48 を参照)。

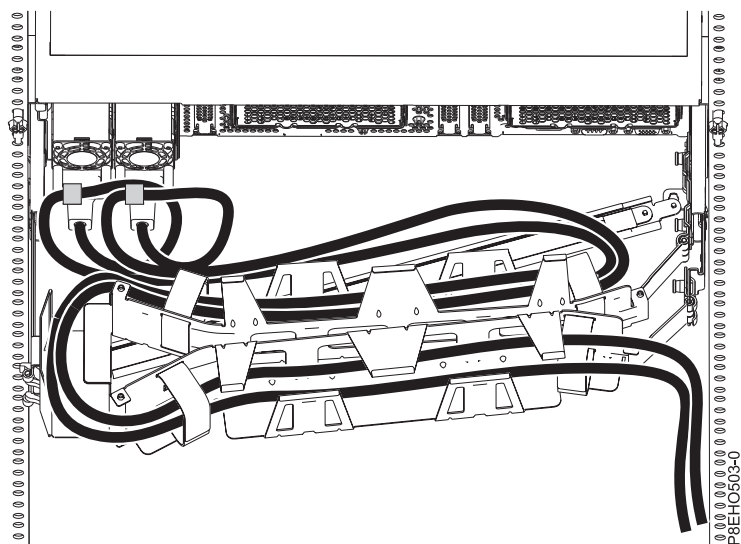


図 47. ケーブル・マネジメント・アームで配線する電源コードのループ： 電源コードは反時計方向にループして右側に配線します。

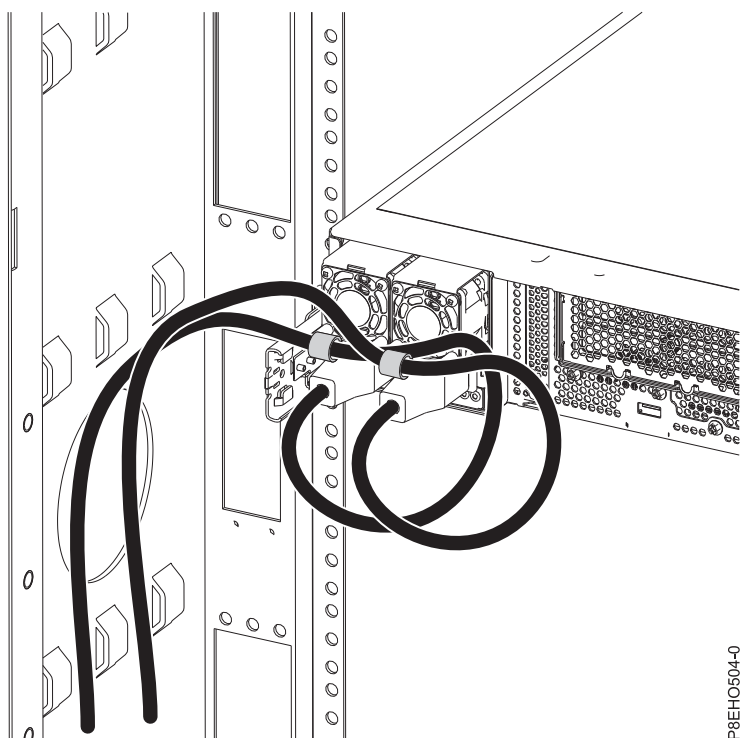


図 48. 側壁に沿って配線する電源コードのループ： 電源コードは反時計方向にループして左側に配線します。

4. 電源コードをシステム装置から切り離します。図 73 ページの図 49 を参照してください。

注: このシステムは、2 つ以上の電源装置を装備している場合があります。取り外しおよび再取り付けの手順で電源をオフにする必要がある場合は、システムへのすべての電源が切り離されていることを確認してください。

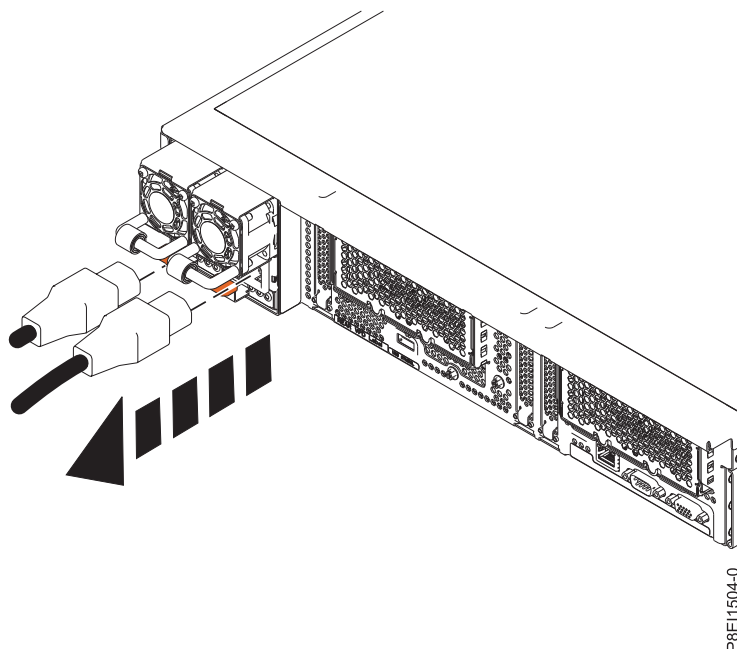


図 49. システムからの電源コードの取り外し

8335-GTB システムへの電源コードの接続

電源コードを IBM Power System S812LC (8335-GTB) システムに接続する方法について説明します。

手順

1. 保守対象のシステム装置の背面のラック・ドアを開きます。
2. ラベルを確認して、電源コードをシステム装置に再接続します。図 74 ページの図 50 を参照してください。

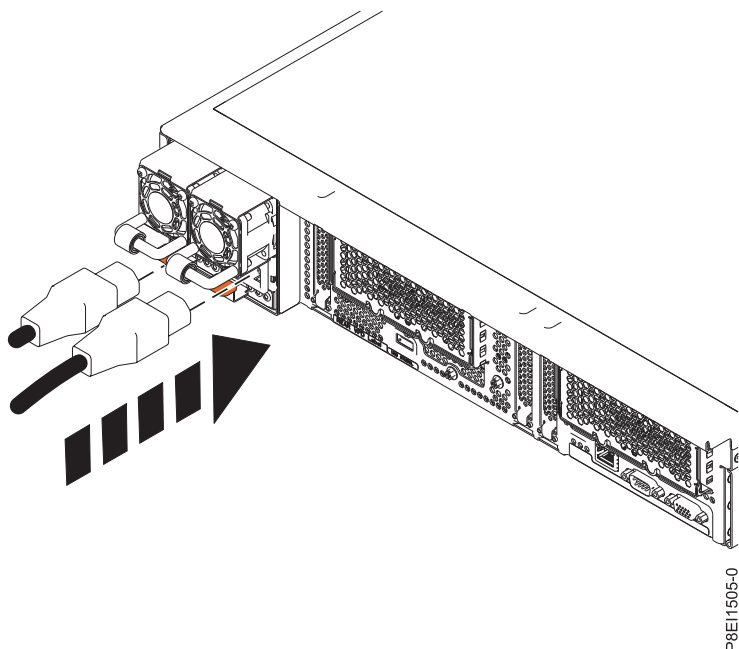


図 50. システムへの電源コードの接続

3. 電源コードをループ状に配線して、電源装置ハンドルに接続します。電源コードをどのようにループさせるかに注意してください。ループの直径は必ず 5 cm 以上に維持してください。2 つのタイプのループを使用します (詳しくは、図 51 および 75 ページの図 52 を参照)。面ファスナーを使用して電源コードを電源装置のハンドルに留めます。

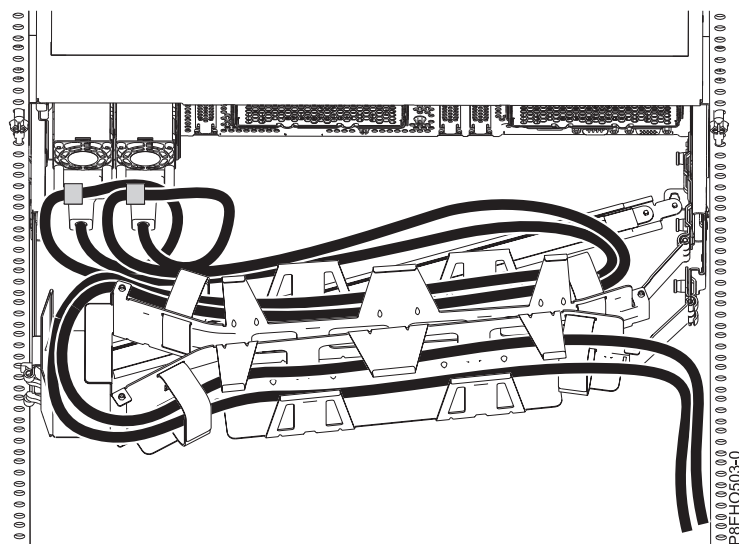


図 51. ケーブル・マネジメント・アームで配線する電源コードのループ：電源コードは反時計方向にループして右側に配線します。

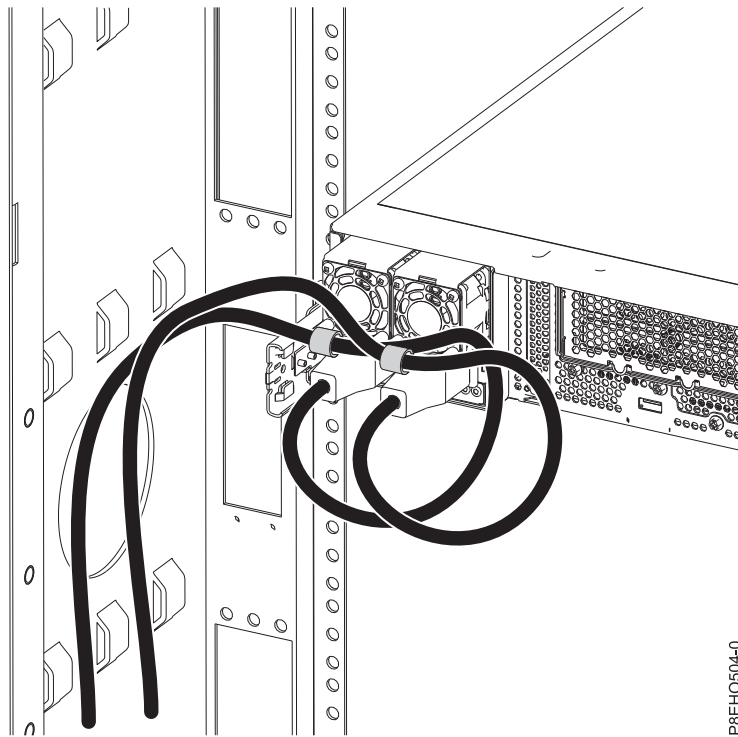


図 52. 側壁に沿って配線する電源コードのループ：電源コードは反時計方向にループして左側に配線します。

4. システム背面のラックのドアを閉じます。

特記事項

本書は米国が提供する製品およびサービスについて作成したものです。

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒103-8510

東京都中央区日本橋箱崎町19番21号

日本アイ・ビー・エム株式会社

法務・知的財産

知的財産権ライセンス渉外

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任は適用されないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

記載されている性能データとお客様事例は、例として示す目的でのみ提供されています。実際の結果は特定の構成や稼働条件によって異なります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者にお願いします。

IBM の将来の方向または意向に関する記述は、予告なしに変更または撤回される場合があります、単に目標を示しているものです。

表示されている IBM の価格は IBM が小売り価格として提示しているもので、現行価格であり、通知なしに変更されるものです。卸価格は、異なる場合があります。

本書はプランニング目的としてのみ記述されています。記述内容は製品が使用可能になる前に変更になる場合があります。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、類似する個人や企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

この情報をソフトコピーでご覧になっている場合は、写真やカラーの図表は表示されない場合があります。

本書に示されている図や仕様は、IBM の書面による許可を得ずにその一部または全部を複製してはなりません。

IBM は、示されている特定のマシンを対象として本書を作成しています。その他の使用および使用結果については、IBM は何ら保証責任を負いません。

IBM のコンピューター・システムには、破壊または損失したデータが検出されない危険性を減少するために設計されたメカニズムが含まれています。しかし、この危険性をゼロにすることはできません。不意の停電によるシステムの休止やシステム障害、電力の変動または停電、もしくはコンポーネント障害を経験するユーザーは、停電または障害が起きた時刻もしくはその近辺で行われたシステム操作とセーブまたは転送されたデータの正確性を検証する必要があります。さらに、ユーザーはそのような不安定で危機的な状況で操作されたデータを信頼する前に、独自のデータ検証手順を確立する必要があります。ユーザーはシステムおよび関連ソフトウェアに適用できる更新情報または修正がないか、定期的に IBM の Web サイトをチェックする必要があります。

通信規制の注記

This product may not be certified in your country for connection by any means whatsoever to interfaces of public telecommunications networks. Further certification may be required by law prior to making any such connection. Contact an IBM representative or reseller for any questions.

本製品は、電気通信事業者の通信回線との責任分界点への、直接的な接続を想定した認定取得作業を行っていません。そのような接続を行うには、電気通信事業者による事前検査等が必要となる場合があります。ご不明な点については、IBM 担当員または販売店にお問い合わせください。

IBM Power Systems サーバーのアクセシビリティ機能

アクセシビリティ機能は、運動障害または視覚障害など身体に障害を持つユーザーが情報技術コンテンツを快適に使用できるようにサポートします。

概説

IBM Power Systems サーバーには、次の主なアクセシビリティ機能が組み込まれています。

- キーボードのみによる操作
- スクリーン・リーダーを使用する操作

IBM Power Systems サーバーでは、最新の W3C 標準 WAI-ARIA 1.0 (www.w3.org/TR/wai-aria/) が US Section 508 (www.access-board.gov/guidelines-and-standards/communications-and-it/about-the-

section-508-standards/section-508-standards) および Web Content Accessibility Guidelines (WCAG) 2.0 (www.w3.org/TR/WCAG20/) に準拠するように使用されています。アクセシビリティ機能を利用するためには、最新リリースのスクリーン・リーダーに加えて、IBM Power Systems サーバーでサポートされている最新の Web ブラウザーを使用してください。

IBM Knowledge Center に用意されている IBM Power Systems サーバーのオンライン製品資料は、アクセシビリティに対応しています。IBM Knowledge Center のアクセシビリティ機能は、IBM Knowledge Center のヘルプの『アクセシビリティ』セクション (www.ibm.com/support/knowledgecenter/doc/kc_help.html#accessibility)で説明されています。

キーボード・ナビゲーション

この製品では、標準ナビゲーション・キーが使用されています。

インターフェース情報

IBM Power Systems サーバーのユーザー・インターフェースには、1 秒当たり 2 回から 55 回明滅するコンテンツはありません。

IBM Power Systems サーバーの Web ユーザー・インターフェースは、コンテンツの適切なレンダリング、および使用可能なエクスペリエンスの提供を、カスケード・スタイル・シートに依存しています。アプリケーションは、視覚障害者が、ハイコントラスト・モードを含め、システム表示形式の設定を使用するために同等の仕組みを提供します。フォント・サイズの制御は、デバイスまたは Web ブラウザーの設定を使用して行うことができます。

IBM Power Systems サーバーの Web ユーザー・インターフェースには、アプリケーションの機能領域に迅速にナビゲートできる WAI-ARIA ナビゲーション・ランドマークが組み込まれています。

ベンダー・ソフトウェア

IBM Power Systems サーバーには、IBM の使用許諾契約書の適用外である特定のベンダー・ソフトウェアが組み込まれています。IBM では、それら製品のアクセシビリティ機能については、何ら保証責任を負いません。ベンダーの製品に関するアクセシビリティ情報については、該当のベンダーにお問い合わせください。

関連したアクセシビリティ情報

標準の IBM ヘルプ・デスクおよびサポートの各 Web サイトに加え、IBM では、聴覚障害を持つユーザーまたは聴覚機能が低下しているユーザーが販売サービスやサポート・サービスにアクセスするのに使用できる TTY 電話サービスを用意しています。

TTY サービス

800-IBM-3383 (800-426-3383)

(北アメリカ内)

アクセシビリティに対する IBM の取り組みについて詳しくは、IBM アクセシビリティ (www.ibm.com/able) を参照してください。

プライバシー・ポリシーに関する考慮事項

サービス・ソリューションとしてのソフトウェアも含めた IBM ソフトウェア製品（「ソフトウェア・オファリング」）では、製品の使用に関する情報の収集、エンド・ユーザーの使用感の向上、エンド・ユーザーとの対話またはその他の目的のために、Cookie をはじめさまざまなテクノロジーを使用することがあります。多くの場合、ソフトウェア・オファリングにより個人情報が収集されることはありません。IBM の「ソフトウェア・オファリング」の一部には、個人情報を収集できる機能を持つものがあります。ご使用の「ソフトウェア・オファリング」が、これらのCookie およびそれに類するテクノロジーを通じてお客様による個人情報の収集を可能にする場合、以下の具体的事項を確認ください。

この「ソフトウェア・オファリング」は、Cookie もしくはその他のテクノロジーを使用して個人情報を収集することはありません。

この「ソフトウェア・オファリング」が Cookie およびさまざまなテクノロジーを使用してエンド・ユーザーから個人を特定できる情報を収集する機能を提供する場合、お客様は、このような情報を収集するにあたって適用される法律、ガイドライン等を遵守する必要があります。これには、エンドユーザーへの通知や同意の要求も含まれますがそれらには限られません。

このような目的での Cookie を含む様々なテクノロジーの使用の詳細については、IBM の『IBM オンラインでのプライバシー・ステートメント』(<http://www.ibm.com/privacy/details/jp/ja/>) の『クッキー、ウェブ・ビーコン、その他のテクノロジー』および『IBM Software Products and Software-as-a-Service Privacy Statement』(<http://www.ibm.com/software/info/product-privacy>) を参照してください。

商標

IBM、IBM ロゴおよび [ibm.com](http://www.ibm.com) は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corp. の商標です。他の製品名およびサービス名は、IBM または各社の商標です。現時点での IBM の商標リストについては、www.ibm.com/legal/copytrade.shtml の「Copyright and trademark information」をご覧ください。

Intel、Intel (ロゴ)、Intel Inside、Intel Inside (ロゴ)、Intel Centrino、Intel Centrino (ロゴ)、Celeron、Intel Xeon、Intel SpeedStep、Itanium、Pentium は、Intel Corporation または子会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Linux は、Linus Torvalds の米国およびその他の国における商標です。

電波障害規制特記事項

モニターを装置に取り付ける場合は、モニターと一緒に提供された指定のモニター・ケーブルおよび電波障害抑制装置を使用してください。

クラス A 表示

以下のクラス A 表示は、POWER8 プロセッサを搭載した IBM サーバーおよびそのフィーチャーに適用されます。ただし、フィーチャー情報で電磁適合性 (EMC) クラス B として指定されている場合は除きます。

Federal Communications Commission (FCC) Statement

Attention: This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class A digital device, pursuant to Part 15 of the FCC Rules. These limits are designed to provide

reasonable protection against harmful interference when the equipment is operated in a commercial environment. This equipment generates, uses, and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instruction manual, may cause harmful interference to radio communications. Operation of this equipment in a residential area is likely to cause harmful interference, in which case the user will be required to correct the interference at his own expense.

Properly shielded and grounded cables and connectors must be used in order to meet FCC emission limits. IBM is not responsible for any radio or television interference caused by using other than recommended cables and connectors or by unauthorized changes or modifications to this equipment. Unauthorized changes or modifications could void the user's authority to operate the equipment.

This device complies with Part 15 of the FCC rules. Operation is subject to the following two conditions: (1) this device may not cause harmful interference, and (2) this device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation.

Industry Canada Compliance Statement

CAN ICES-3 (A)/NMB-3(A)

European Community Compliance Statement

This product is in conformity with the protection requirements of EU Council Directive 2014/30/EU on the approximation of the laws of the Member States relating to electromagnetic compatibility. IBM cannot accept responsibility for any failure to satisfy the protection requirements resulting from a non-recommended modification of the product, including the fitting of non-IBM option cards.

European Community contact:

IBM Deutschland GmbH

Technical Regulations, Abteilung M456

IBM-Allee 1, 71139 Ehningen, Germany

Tel: +49 800 225 5426

email: halloibm@de.ibm.com

Warning: This is a Class A product. In a domestic environment, this product may cause radio interference, in which case the user may be required to take adequate measures.

VCCI クラス A 情報技術装置

この装置は、クラスA 情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

VCCI-A

以下は、上記枠内に示されている一般財団法人 VCCI 協会表示を要約したものです。

この装置は、VCCI 協会の基準に基づくクラス A 情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

一般社団法人 電子情報技術産業協会 (JEITA) 表示

この表示は、日本工業規格 JIS C 61000-3-2 機器のワット数準拠について説明します。

(一社) 電子情報技術産業協会 高調波電流抑制対策実施
要領に基づく定格入力電力値: Knowledge Center の各製品の
仕様ページ参照

この表示は、1 相当たり 20 A 以下の機器に関する一般社団法人 電子情報技術産業協会 (JEITA) 表示について説明します。

高調波電流規格 JIS C 61000-3-2 適合品

この表示は、20 A より大きい (単相) 機器に関する JEITA 表示について説明します。

高調波電流規格 JIS C 61000-3-2 準用品

本装置は、「高圧又は特別高圧で受電する需要家の高調波抑制対策ガイドライン」対象機器 (高調波発生機器) です。

- ・ 回路分類: 6 (単相、PFC回路付)
- ・ 換算係数: 0

この表示は、20 A より大きい (3 相) 機器に関する JEITA 表示について説明します。

高調波電流規格 JIS C 61000-3-2 準用品

本装置は、「高圧又は特別高圧で受電する需要家の高調波抑制対策ガイドライン」対象機器 (高調波発生機器) です。

- ・ 回路分類: 5 (3 相、PFC回路付)
- ・ 換算係数: 0

Electromagnetic Interference (EMI) Statement - People's Republic of China

声 明

此为 A 级产品,在生活环境中,
该产品可能会造成无线电干扰。
在这种情况下,可能需要用户对其
干扰采取切实可行的措施。

Declaration: This is a Class A product. In a domestic environment this product may cause radio interference in which case the user may need to perform practical action.

Electromagnetic Interference (EMI) Statement - Taiwan

警告使用者：

這是甲類的資訊產品，在
居住的環境中使用時，可
能會造成射頻干擾，在這種
情況下，使用者會被要求
採取某些適當的對策。

The following is a summary of the EMI Taiwan statement above.

Warning: This is a Class A product. In a domestic environment this product may cause radio interference in which case the user will be required to take adequate measures.

IBM Taiwan Contact Information:

台灣IBM 產品服務聯絡方式：
台灣國際商業機器股份有限公司
台北市松仁路7號3樓
電話：0800-016-888

Electromagnetic Interference (EMI) Statement - Korea

이 기기는 업무용 환경에서 사용할 목적으로 적합성평가를 받은 기기로서
가정용 환경에서 사용하는 경우 전파간섭의 우려가 있습니다.

Germany Compliance Statement

Deutschsprachiger EU Hinweis: Hinweis für Geräte der Klasse A EU-Richtlinie zur
Elektromagnetischen Verträglichkeit

Dieses Produkt entspricht den Schutzanforderungen der EU-Richtlinie 2014/30/EU zur Angleichung der Rechtsvorschriften über die elektromagnetische Verträglichkeit in den EU-Mitgliedsstaaten und hält die Grenzwerte der EN 55022 / EN 55032 Klasse A ein.

Um dieses sicherzustellen, sind die Geräte wie in den Handbüchern beschrieben zu installieren und zu betreiben. Des Weiteren dürfen auch nur von der IBM empfohlene Kabel angeschlossen werden. IBM übernimmt keine Verantwortung für die Einhaltung der Schutzanforderungen, wenn das Produkt ohne Zustimmung von IBM verändert bzw. wenn Erweiterungskomponenten von Fremdherstellern ohne Empfehlung von IBM gesteckt/eingebaut werden.

EN 55022 / EN 55032 Klasse A Geräte müssen mit folgendem Warnhinweis versehen werden:
"Warnung: Dieses ist eine Einrichtung der Klasse A. Diese Einrichtung kann im Wohnbereich Funk-Störungen verursachen; in diesem Fall kann vom Betreiber verlangt werden, angemessene Maßnahmen zu ergreifen und dafür aufzukommen."

Deutschland: Einhaltung des Gesetzes über die elektromagnetische Verträglichkeit von Geräten

Dieses Produkt entspricht dem "Gesetz über die elektromagnetische Verträglichkeit von Geräten (EMVG)". Dies ist die Umsetzung der EU-Richtlinie 2014/30/EU in der Bundesrepublik Deutschland.

Zulassungsbescheinigung laut dem Deutschen Gesetz über die elektromagnetische Verträglichkeit von Geräten (EMVG) (bzw. der EMC Richtlinie 2014/30/EU) für Geräte der Klasse A

Dieses Gerät ist berechtigt, in Übereinstimmung mit dem Deutschen EMVG das EG-Konformitätszeichen - CE - zu führen.

Verantwortlich für die Einhaltung der EMV Vorschriften ist der Hersteller:
International Business Machines Corp.
New Orchard Road
Armonk, New York 10504
Tel: 914-499-1900

Der verantwortliche Ansprechpartner des Herstellers in der EU ist:
IBM Deutschland GmbH
Technical Relations Europe, Abteilung M456
IBM-Allee 1, 71139 Ehningen, Germany
Tel: +49 (0) 800 225 5426
email: HalloIBM@de.ibm.com

Generelle Informationen:

Das Gerät erfüllt die Schutzanforderungen nach EN 55024 und EN 55022 / EN 55032 Klasse A.

Electromagnetic Interference (EMI) Statement - Russia

ВНИМАНИЕ! Настоящее изделие относится к классу А.
В жилых помещениях оно может создавать
радиопомехи, для снижения которых необходимы
дополнительные меры

クラス B 表示

以下のクラス B 表示は、フィーチャー取り付け情報で電磁適合性 (EMC) クラス B として指定されているフィーチャーに適用されます。

Federal Communications Commission (FCC) Statement

This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital device, pursuant to Part 15 of the FCC Rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation.

This equipment generates, uses, and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instructions, may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation.

If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by turning the equipment off and on, the user is encouraged to try to correct the interference by one or more of the following measures:

- Reorient or relocate the receiving antenna.
- Increase the separation between the equipment and receiver.
- Connect the equipment into an outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
- Consult an IBM-authorized dealer or service representative for help.

Properly shielded and grounded cables and connectors must be used in order to meet FCC emission limits. Proper cables and connectors are available from IBM-authorized dealers. IBM is not responsible for any radio or television interference caused by unauthorized changes or modifications to this equipment. Unauthorized changes or modifications could void the user's authority to operate this equipment.

This device complies with Part 15 of the FCC rules. Operation is subject to the following two conditions: (1) this device may not cause harmful interference, and (2) this device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation.

Industry Canada Compliance Statement

CAN ICES-3 (B)/NMB-3(B)

European Community Compliance Statement

This product is in conformity with the protection requirements of EU Council Directive 2014/30/EU on the approximation of the laws of the Member States relating to electromagnetic compatibility. IBM cannot accept responsibility for any failure to satisfy the protection requirements resulting from a non-recommended modification of the product, including the fitting of non-IBM option cards.

European Community contact:

IBM Deutschland GmbH

Technical Regulations, Abteilung M456

IBM-Allee 1, 71139 Ehningen, Germany

Tel: +49 800 225 5426

email: halloibm@de.ibm.com

VCCI クラス B 情報技術装置

この装置は、クラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用するを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。

取扱説明書に従って正しい取り扱いをして下さい。 VCCI-B

一般社団法人 電子情報技術産業協会 (JEITA) 表示

この表示は、日本工業規格 JIS C 61000-3-2 機器のワット数準拠について説明します。

(一社) 電子情報技術産業協会 高調波電流抑制対策実施
要領に基づく定格入力電力値: Knowledge Center の各製品の
仕様ページ参照

この表示は、1 相当たり 20 A 以下の機器に関する一般社団法人 電子情報技術産業協会 (JEITA) 表示について説明します。

高調波電流規格 JIS C 61000-3-2 適合品

この表示は、20 A より大きい (单相) 機器に関する JEITA 表示について説明します。

高調波電流規格 JIS C 61000-3-2 準用品

本装置は、「高圧又は特別高圧で受電する需要家の高調波抑制対策ガイドライン」対象機器（高調波発生機器）です。

- ・回路分類：6（単相、PFC回路付）
- ・換算係数：0

この表示は、20 A より大きい (3 相) 機器に関する JEITA 表示について説明します。

高調波電流規格 JIS C 61000-3-2 準用品

本装置は、「高圧又は特別高圧で受電する需要家の高調波抑制対策ガイドライン」対象機器（高調波発生機器）です。

- ・回路分類：5（3 相、PFC回路付）
- ・換算係数：0

IBM Taiwan Contact Information

台灣IBM 產品服務聯絡方式：
台灣國際商業機器股份有限公司
台北市松仁路7號3樓
電話：0800-016-888

Germany Compliance Statement

Deutschsprachiger EU Hinweis: Hinweis für Geräte der Klasse B EU-Richtlinie zur Elektromagnetischen Verträglichkeit

Dieses Produkt entspricht den Schutzanforderungen der EU-Richtlinie 2014/30/EU zur Angleichung der Rechtsvorschriften über die elektromagnetische Verträglichkeit in den EU-Mitgliedsstaaten und hält die Grenzwerte der EN 55022/ EN 55032 Klasse B ein.

Um dieses sicherzustellen, sind die Geräte wie in den Handbüchern beschrieben zu installieren und zu betreiben. Des Weiteren dürfen auch nur von der IBM empfohlene Kabel angeschlossen werden. IBM übernimmt keine Verantwortung für die Einhaltung der Schutzanforderungen, wenn das Produkt ohne Zustimmung von IBM verändert bzw. wenn Erweiterungskomponenten von Fremdherstellern ohne Empfehlung von IBM gesteckt/eingebaut werden.

Deutschland: Einhaltung des Gesetzes über die elektromagnetische Verträglichkeit von Geräten

Dieses Produkt entspricht dem "Gesetz über die elektromagnetische Verträglichkeit von Geräten (EMVG)". Dies ist die Umsetzung der EU-Richtlinie 2014/30/EU in der Bundesrepublik Deutschland.

Zulassungsbescheinigung laut dem Deutschen Gesetz über die elektromagnetische Verträglichkeit von Geräten (EMVG) (bzw. der EMC Richtlinie 2014/30/EU) für Geräte der Klasse B

Dieses Gerät ist berechtigt, in Übereinstimmung mit dem Deutschen EMVG das EG-Konformitätszeichen - CE - zu führen.

Verantwortlich für die Einhaltung der EMV Vorschriften ist der Hersteller:

International Business Machines Corp.

New Orchard Road

Armonk, New York 10504

Tel: 914-499-1900

Der verantwortliche Ansprechpartner des Herstellers in der EU ist:

IBM Deutschland GmbH

Technical Relations Europe, Abteilung M456

IBM-Allee 1, 71139 Ehningen, Germany

Tel: +49 (0) 800 225 5426

email: HalloIBM@de.ibm.com

Generelle Informationen:

Das Gerät erfüllt die Schutzanforderungen nach EN 55024 und EN 55022/ EN 55032 Klasse B.

使用条件

これらの資料は、以下の条件に同意していただける場合に限りご使用いただけます。

適用可能性: これらの条件は、IBM Web サイトのすべてのご利用条件に追加されるものです。

個人使用: これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、非商業的な個人による使用目的に限り複製することができます。ただし、IBM の明示的な承諾を得ずに、これらの資料またはその一部について、二次的著作物を作成したり、配布（頒布、送信を含む）または表示（上映を含む）することはできません。

商業的使用: これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、お客様の企業内に限り、複製、配布、および表示することができます。ただし、IBM の明示的な承諾を得ずにこれらの資料の二次的著作物を作成したり、お客様の企業外で資料またはその一部を複製、配布、または表示したりすることはできません。

権利: ここで明示的に許可されているもの以外に、資料や資料内に含まれる情報、データ、ソフトウェア、またはその他の知的所有権に対するいかなる許可、ライセンス、または権利を明示的にも黙示的にも付与するものではありません。

資料の使用が IBM の利益を損なうと判断された場合や、上記の条件が適切に守られていないと判断された場合、IBM はいつでも自らの判断により、ここで与えた許可を撤回できるものとさせていただきます。

お客様がこの情報をダウンロード、輸出、または再輸出する際には、米国のすべての輸出入関連法規を含む、すべての関連法規を遵守するものとします。

IBM は、これらの資料の内容についていかなる保証もしません。 これらの資料は、特定物として現存するままの状態を提供され、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任なしで提供されます。



Printed in Japan